

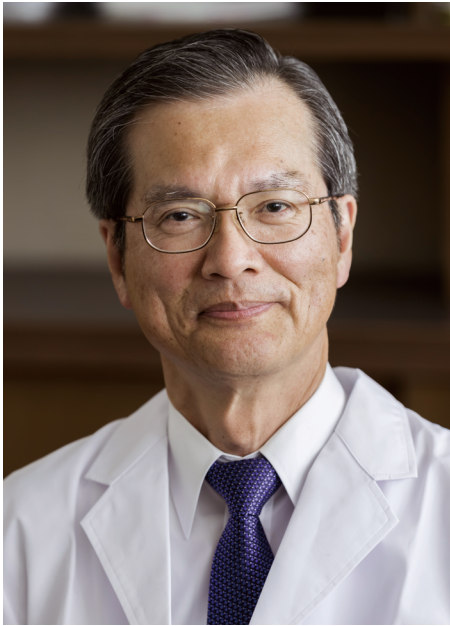
大阪府済生会千里病院年報

平成30年度(2018 年) vol.16



社会福祉法人^{恩賜財団}大阪府済生会千里病院

平成 30 年度年報巻頭言



院長 木内 利明

平成 30 年度年報をお届けします。この 1 年間、我々の病院でどのような活動が行われたのかを、少しでも知っていただければ幸いです。平成 26 年度病院経営が大きく悪化したので、平成 27 年 4 月から、「生き残りをかけた急性期病院改革」のコンセプトのもと、第 1 期 3 年中期計画を開始しました。病病連携、病診連携を強化して、特にアライアンス連携の 6 施設との綿密な連携強化に努めて、長期入院患者の転院、在宅復帰を目指しました。患者支援センターの体制変更で地域連携強化、病院内部構造改変で救命救急入院料算定率 100%を目指す、外来構造転換を積極的に行い、徹底した逆紹介を推進、緊急紹介患者の受け入れの強化で、長期入院患者数減少、平均在院日数 10 日を切る、1 日平均入院単価の上昇、紹介初診患者数増加など、臨床指標は、改善してきました。しかし、残念ながら、病院経営目標の 1 つである、安定した病院経営においては、まだ、不十分な結果となりました。そこで、第 2 期 3 年中期計画は、「地域が求める、安定した急性期病院となる」のコンセプトのもと、平成 30 年 4 月から開始しました。

平成 30 年度は、度重なる自然災害が発生しました。6 月 18 日大阪北部地震が発災、2 度にわたる大型台風の関西上陸、そのために関西国際空港の浸水、北海道地震など自然災害の怖さを実感しました。豊能 2 次医療圏において、災害拠点病院である、阪大と当院が一緒になって、大規模災害実働訓練を、平成 30 年 12 月 15 日に初めて行いました。参加した、各医療施設、3 保健所、行政も真剣でした。これが、地域が求める、当院の役割です。

地域包括ケアシステムのなかで、地域医療支援病院が果たす役割は重要です。病病連携、在宅医・訪問看護・介護と病院との連携である病診連携、感染管理・医療安全・呼吸器管理など認定看護師の院外活動も期待されています。当院も、さらに積極的に活動を進めていきます。

組織は人であり、組織人を育てる持続的教育体制が必要です。種々の病院機能評価システムがあり、当院も 5 年ごとに、日本医療機能評価機構の審査を受けています。これは、良い医療を行なううえで、与えられた基本的な課題項目を明確に解決することが、求められています。一方、よりよい医療を提供するために、与えられたものではなく、自分たちで考えて、現実と理想のギャップを課題としてあげて、課題解決策を立案し、なにがしかの成果を得ること、そして、達成感を得ることで、大きく成長できます。常に個々のレベルで、課題について考えることです。そこで、ある教育プログラムを導入したいと考えています。日本生産性本部が行っている、日本版医療マルコム・ボルドリッジ賞（MB 賞）プログラムへの参加です。平成 30 年 10 月から、法人会員となり、組織プロフィール認証導入ゼミに参加しています。

平成 30 年度、人事考課制度の導入作業が始まり、医師についても、平成 31 年 1 月から、作業が始まりました。試験運用までには、1 年はおかかります。各個人の行動評価を行い、組織人としてさらに必要な課題を知り、病院全体の活性化、能力開発に繋がりたいと思います。

病院の理念の改定作業を進めています。病院全職員が、同じ価値観、同じ方向を目指して、「心のこもったチーム医療」を行えるようにしたいと願っています。

平成 29 年度年報から、各施設には、ハガキで QR コードをお知らせしていますので、そこから当院年報へアクセスしてください。今後とも、よろしく、お願いいたします。

済 生 会 小 史

明治 44 年 2 月 11 日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療による済生の道を弘めるように」との済生勅語に添えてお手元金 150 万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年 5 月 30 日^{恩賜財団}済生会を創立した。

以来今日まで 107 年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和 26 年に公的医療機関の指定、同 27 年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人^{恩賜財団}済生会となっている。

総 裁 秋篠宮殿下
会 長 有馬 朗人
理事長 炭谷 茂
本部＝東京
支部＝ 40 都道府県

病院	82	障害者福祉施設	8
診療所	17	看護師養成施設	7
介護老人保健施設	30	訪問看護ステーション	87
救護施設	1	地域包括支援センター	27
児童福祉施設	24	地域生活定着支援センター	5
老人福祉施設	122	その他	8
		合計	389

職員数は全国で約 6 万人。

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

済生会千里病院の理念

「心のこもった医療」

基本方針

1. 窮境にある人々の医療を積極的に支援します。
2. 安全で良質な医療を心をこめて提供します。
3. 医療の透明性とアカウンタビリティ（説明責任）に忠実である病院を実現します。
4. 地域の中核病院として、また救急医療を含む急性期医療の実践により地域医療に貢献できる病院を実現します。
5. 常に研鑽を積み、最高、最適の医療を追求します。

患者さんの権利と責務

（患者さん－医療者のパートナーシップの強化）

1. どなたにでも常に人格を尊重し、良質で安全な医療を公平に提供します。
2. あなたの病気やその診療について、わかりやすい言葉で詳しく説明をするよう努めています。もし、わからないところがあれば、質問してください。
3. あなたが気になること、疑問に思うこと、希望することなど、遠慮なくご相談ください。
4. 他の医師の意見（セカンド・オピニオン）や他の医療機関に転院を希望される場合は、おっしゃってください。
5. 治療方法などをご自分の意思で決めていただけるよう、十分な説明と情報提供を行います。
6. 診療の過程で得られた個人情報の秘密を守ります。また、病院内での私的な生活が、可能な限り他人にさらされず、乱されないように努めます。
7. 良質な医療を提供するため、あなたの健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただくようお願いします。
8. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、他の患者さんの診療に支障をきたさないよう、ご配慮をお願いします。
9. お互いに理解を深め、ともに治療を進めていきましょう。

目 次

まえがき

『済生会小史』『済生会千里病院の理念』

I. 沿革と平成 30 年度行事

1. 沿革	1
-------	---

II. 病院の現況

1. 病院の概要	2
2. 施設の概要	5
3. 設備の概要	8
4. 光熱水使用状況	10

III. 病院の機構

1. 組織図	11
2. 役職員名簿	12
3. 平成 30 年度 会議・委員会組織図	14

IV. 患者状況

1. 患者数の推移	15
2. 年度別 1 日平均患者数	15
3. 年度別診療科別患者数	16
4. 平成 30 年度入院患者数	18
5. 平成 30 年度外来患者数	19
6. 疾病統計	21

V. 診療科の状況

1. 消化器内科	28
2. 循環器内科	29
3. 呼吸器内科	30
4. 免疫内科	31
5. 糖尿病内科	32
6. 外科	33
7. 小児科	34
8. 整形外科	35
9. 産婦人科	36
10. 泌尿器科	37
11. 歯科口腔外科	38
12. 救命救急センター	39
13. 麻酔科	40
14. 脳神経外科	41

Ⅵ. 部門別活動状況

1. 薬剤部	42
2. 中央検査部	44
3. 放射線部	45
4. 臨床工学科	47
5. リハビリテーション部	49
6. 心大血管疾患リハビリテーション科	52
7. 栄養科	53
8. 患者支援センター	55

Ⅶ. 医療社会事業状況

1. 患者相談実績	56
2. 退院支援関係	56
3. 無料低額診療事業関係	58

Ⅷ. 初期臨床研修

1. ローテーションスケジュール	59
2. 研修管理委員会・研修管理運営委員会 開催状況	60

Ⅸ. 業績

1. 学会発表	61
2. 論文・著書	65
3. 講演会等	67

X. 看護部研修

1. 院内研修 平成 30 年度	71
2. 認定看護師による教育プログラム	76
3. 看護助手研修	78
4. 看護補助者研修（クラーク）	78

XI. 委員会・医療チーム活動

1. 委員会活動	79
2. 医療チーム活動	111

I. 沿革と平成 30 年度行事

1. 沿革

年 月 日	内 容
昭和42年 2月15日	大阪府と大阪府三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）が出資し千里保健医療センター（現在の大阪府保健医療財団）を設置し、新千里病院（200 床）を開設
昭和46年12月15日	300 床に増改築竣工
昭和54年 8月31日	千里保健医療会館竣工（外来増設）
平成 4年 3月31日	MRI 棟竣工
平成 9年 3月25日	災害拠点病院に指定
平成14年 7月 1日	林 亨 院長就任
平成14年12月 2日	外来午後診療実施
平成15年 1月 4日	外来土曜日診療実施
平成15年 4月 1日	大阪府済生会千里病院 開設
平成15年 5月 1日	院外処方箋の全面実施
平成15年 7月 1日	シャトルバス運行開始
平成15年10月30日	臨床研修病院（管理型）の指定
平成15年12月16日	二次救急病院の告示（内科・外科大阪府告示第 91 号）
平成16年 4月 1日	大阪府立千里救命救急センターの管理運営事業の受託開始
平成16年 6月 1日	泌尿器科 常設
平成16年 9月 4日	セカンドオピニオン外来を開始
平成17年 2月 2日	新病院建設 安全祈願祭・起工式
平成18年 4月 1日	済生会千里病院千里救命救急センターとして併設
平成18年 7月 1日	新病院移転オープン、オーダーリングシステム稼働
平成19年 7月 1日	総合診療部 常設
平成20年 6月11日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver.5.0）認定
平成21年 4月 1日	DPC 対象病院認可、電子カルテ導入
平成22年 4月 1日	大阪府がん診療拠点病院の認定取得
平成23年 4月 1日	げんき保育園 開園
平成23年 5月30日	済生会創立百周年記念式典（明治神宮記念会館）
平成23年11月25日	地域医療支援病院の承認
平成24年 2月 1日	心大血管疾患リハビリテーション室開設
平成24年 4月 1日	心臓血管センター開設
平成24年 7月18日	NPO 法人卒後臨床研修評価機構 卒後臨床研修病院認定
平成24年 8月 1日	電子カルテ更新
平成24年10月 9日	血管造影装置更新
平成25年 5月 1日	木内利明院長就任
平成25年 9月 9日	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価審査：機能種別版 3rdG：Ver1.0 を認定
平成25年11月 9日	10 周年記念式典
平成26年 2月28日	災害管理棟建設 安全祈願祭・起工式
平成26年 3月28日	80 列マルチスライス CT 導入、乳房 X 線撮影装置更新
平成27年 4月 1日	脳神経外科 常設
	大阪府がん診療拠点病院の認定更新
平成27年 5月 7日	災害管理棟へ移転
平成28年 4月 1日	訪問看護ステーション開所
	初期臨床研修センター設置
	専攻医研修センター設置
	がん総合診療センター設置
平成28年 7月 1日	麻酔科外来開始
平成28年 9月 1日	NPO 法人卒後臨床研修評価機構 卒後臨床研修病院認定更新
平成29年 6月 1日	千里救命救急センター 救命救急士室開設
平成30年 3月30日	血管造影装置更新
平成30年 4月 1日	脳卒中センター開設
平成31年 2月 1日	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価審査：機能種別版 3rdG：Ver2.0 を認定更新
平成31年 2月28日	ガンマカメラ装置更新

Ⅱ. 病院の現況

1. 病院の概要

- 名 称 社会福祉法人^{医療法人}済生会支部大阪府済生会千里病院
- 所 在 地 大阪府吹田市津雲台1丁目1番6号
- 開 設 者 社会福祉法人^{医療法人}済生会支部大阪府済生会
- 管 理 者 院長 木内 利明
- 敷 地 面 積 15,408.78㎡
- 延 床 面 積 29,205.86㎡
- 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 床 数 343床（一般病床343床・うち開放病床10床、救命救急センターICU12床、救急病棟31床）
- 診 療 科 目 (1) 診療科目
内科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、リウマチ・アレルギー科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産科、婦人科、形成外科、放射線科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科
(2) 専門・特殊外来
内 科：ペースメーカー外来、ピロリ菌専門外来
外 科：乳腺外来、大腸・肛門外来、肝臓・胆のう・膵臓外来、胃・食道外来
 ストーマ外来、ヘルニア外来
整形外科：スポーツ・関節外科外来、脊椎椎外科外来、手の外科外来、
 骨粗鬆症外来
小 児 科：低身長・喘息外来、発達外来
- 診 療 指 定 地域医療支援病院、災害拠点病院、臨床研修病院、大阪府がん診療拠点病院
大阪府肝炎専門医療機関、保険医療機関、生活保護法指定医療機関、
労災指定、医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、
結核予防法指定医療機関、公害医療、特定疾患、小児慢性特定疾患、
母体保護法指定医療機関、指定自立支援医療機関
- 救 急 医 療 三次救急医療機関（救命救急センター）
二次救急医療機関
産婦人科診療相互援助システム基幹病院
- 教育指定・学会認定
 - ・厚生労働省指定臨床研修病院
 - ・日本内科学会認定医制度教育病院
 - ・日本消化器病学会認定施設
 - ・日本消化器内視鏡学会指導施設
 - ・日本肝臓学会認定施設

- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本脈管学会認定研修指定施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設
- ・日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本泌尿器科学会基幹教育施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本産婦人科学会専門研修連携施設
- ・日本口腔外科学会認定研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本救急医学会指導医指定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本外傷学会外傷専門医研修施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本アレルギー学会・専門医準教育施設
- ・日本リウマチ学会・専門医教育施設

● 基準の届出

ア. 基本診療料等の施設基準等

初診料（歯科）の注 1 に掲げる基準、歯科外来診療環境体制加算 1、一般病棟入院基本料、総合入院体制加算 3、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 2、急性期看護補助体制加算、療養環境加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 1、感染防止対策加算 1、患者サポート体制充実加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊婦管理加算、ハイリスク分娩管理加算、後発医薬品使用体制加算 1、病棟薬剤業務実施加算 1、病棟薬剤業務実施加算 2、データ提出加算、入退院支援加算、認知症ケア加算、精神疾患診療体制加算、救命救急入院料 1、救命救急入院料 4、小児入院医療管理料 4

イ. 特掲診療料等の施設基準等

歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料、糖尿病合併症管理

料 がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料イ、がん患者指導管理料ロ、糖尿病透析予防指導管理料、乳腺炎重症化予防・ケア指導料、院内トリアージ実施料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、肝炎インターフェロン治療計画料、薬剤管理指導料、検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料、医療機器安全管理料 1、在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料、在宅療養後方支援病院、HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）、検体検査管理加算（Ⅰ）、検体検査管理加算（Ⅳ）、心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算、時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト、ヘッドアップティルト試験、CT 撮影及び MRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算 1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、がん患者リハビリテーション料、組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）、乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）、乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）、乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）、食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）等、経皮的中心心筋焼灼術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）、大動脈バルーンポンピング法（IABP 法）、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波膀胱石破碎術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術、輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、麻酔管理料（Ⅰ）、麻酔管理料（Ⅱ）、病理診断管理加算 1、クラウン・ブリッジ維持管理料、悪性腫瘍病理組織標本加算、酸素の購入単価

ウ. 入院時食事療養費

入院時食事療養（Ⅰ）、特別食加算、食堂加算

● 交通アクセス

阪急電鉄千里線「南千里駅」下車 3 分

● 外 来 診 療

ア. 診療時間

月曜日～金曜日 9：00～12：00、13：00～17：00

土曜日 9：00～12：00

イ. 受付時間

月曜日～土曜日 8：30～11：30（午前診察）

ウ. 休診日

日曜日、国民の祝日、12 月 31 日～1 月 3 日

エ. 急患については、救急外来にて 365 日、24 時間対応

● 面 会 時 間

一般病棟 平日：12：00～20：00 土・日祝日：10：00～20：00

救急病棟 全日：12：00～20：00

I C U 全日：12：00～13：00 18：00～20：00

2. 施設の概要

(1) 建物の概要及び用途

病 院 棟

	R 階	機械置場
	8 階	8 階病棟
	7 階	7 階病棟
	6 階	6 階病棟
屋上	5 階	5 階病棟
理学療法室 心大血管疾患リハビリ テーション室 管理部門	4 階	4 階病棟
管理部門 検体検査室	3 階	分娩室 新生児室 3 階病棟
手術室 中央材料室	2 階	救急病棟 集中治療室
外来	1 階	医事課 医療秘書室 患者支援センター
放射線科 内視鏡室	B 1 階	救急部 生理機能検査室
RI 室 管理部門	B 2 階	薬局 栄養科

災害管理棟

管理部門、講堂
管理部門、職員食堂
管理部門
管理部門、院内保育園
管理部門

救急管理棟

車庫、災害用倉庫

(病院棟各階主用途)

8階	8階病棟 (50床) 内科
7階	7階病棟 (50床) 内科
6階	6階病棟 (50床) 小児科、内科
5階	5階病棟 (50床) 外科 屋上
4階	4階病棟 (50床)、整形外科、歯科口腔外科 理学療法室、心大血管疾患リハビリテーション室、言語聴覚療法室、当直室
3階	3階病棟 (50床) 産婦人科、内科、分娩室、陣痛室、新生児室 検体検査室 (一般、血液、病理、生化学、細菌)、電機室、機械室
2階	救急病棟 (31床) 集中治療室 (12床) 中央手術室 (7室)、中央材料室
1階	外来 (内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、眼科、産婦人科、歯科口腔外科)、 総合診療部、化学療法室、中央点滴室、医事課、医療秘書室、患者支援センター、売店
B1階	救急部 (初療室1・2、隔離初療室、点滴・処置室) 放射線科 (一般撮影1～3、泌尿器撮影、CT、TV1・2、アンギオ1・2、乳房撮影1・2、 歯科撮影、骨密度測定、MRI)、内視鏡室、生理機能検査室 (エコー、脳波、心エコー、 エルゴ、心電図)、防災センター
B2階	薬局、放射線科 (RI室)、栄養科 (厨房)、解剖室、霊安室、機械室、備蓄倉庫、 サービスヤード

(災害管理棟各階主用途)

4階	院長室、副院長室 (3室)、看護部長室、事務部長室、名誉院長室 (1室)、 顧問室 (2室)、応接室、秘書室、講堂
3階	事務室 (総務課、人事課、情報システム課、経営戦略課、品質管理室)、会議室5、 職員食堂他
2階	災害対策室、各科部長室 (15室)、副部長室、副看護部長室、看護部室、医療安全管理室、 感染管理室、治験管理室、臨床心理室、研修室、応接室他
1階	医局、用度・施設課、会議室1～4、院内保育園、更衣室、外来喫茶他
B1階	臨床工学科、当直室、洗濯室他

(救急管理棟主用途)

B1階	車庫 (4台)、救急救命災害会議室、待機室 (2室)、災害用倉庫 (2室)
-----	---------------------------------------

(2) 建物面積

・建築面積

病院棟建築面積 (㎡)	災害管理棟建築面積 (㎡)	救急管理棟建築面積 (㎡)
3,485.19	2,292.02	313.16

・各階別床面積

階	病院棟床面積 (㎡)	災害管理棟床面積 (㎡)	救急管理棟床面積 (㎡)	合 計 (㎡)
PH1 階	87.89	90.69	—	178.58
8 階	1,327.94	—	—	1,327.94
7 階	1,327.94	—	—	1,327.94
6 階	1,327.94	—	—	1,327.94
5 階	1,338.35	—	—	1,338.35
4 階	2,074.09	1,131.14	—	3,205.23
3 階	2,698.41	1,533.54	—	4,231.95
2 階	2,850.71	1,843.22	—	4,693.93
1 階	2,991.92	2,167.17	—	5,159.09
B 1 階	3,180.39	757.52	307.73	4,245.64
B 2 階	2,169.27	—	—	2,169.27
合 計	21,374.85	7,523.28	307.73	29,205.86

	面積 (㎡)
駐車場	2,800.89
駐輪場	283.50

3. 設備の概要

(1) 電気設備

ア. 受変電設備 6.6KVA 2回線受電 トランス×17台 総容量 5,500KVA

イ. コージェネレーション設備 常用発電機×1台 6.6KV 610KW

ウ. 非常用電源設備

(ア) 自家発電設備 (病院棟) ディーゼル発電機×1台 (A重油) 6.6KVA 1,000KVA
主負荷 保安回路用 (電灯、コンセント、動力、消防関係等)

(イ) 自家発電設備 (管理棟) ディーゼル発電機×1台 (A重油) 220V 225KVA
主負荷 保安回路用 (電灯、コンセント)

(ウ) 直流電源装置 (予備電源) シール型ペースト式鉛蓄電池
DC108V 500Ah/10HR
主負荷 発電機電圧確定までの予備電源
(非常照明、遮断器操作)

(エ) 無停電電源装置 UPS装置×1台 制御式鉛蓄電池
DC200V 150KVA 279Ah/10HR 180セル

エ. その他の設備 幹線動力設備/電灯設備/電話設備/防災設備/中央監視設備/避雷設備/放送設備/空調設備/患者呼出設備/ナースコール/ITV設備/誘導鈴設備

(2) 空気調和設備

ア. 熱源設備

(ア) 廃熱投入型冷温水器ジェネリンク×2台 冷却能力 633KW 加熱能力 530KW

(イ) 水冷ブラインチラー×2台 冷却能力 351KW (製氷時) 492KW (冷房追掛時)

(ウ) 氷蓄熱槽 ブライン流量 2,240ℓ～4,110ℓ/min ブライン保留量 6,600ℓ

(エ) 熱交換器 氷蓄熱槽系統 (プレート型)×1台 熱交換能力 984KW
暖房用 CGS 排温水系統 (シェルアンドチューブ型)×1台
熱交換能力 984KW
暖房用蒸気系統×1台 熱交換能力 480KW
井水予熱系統×1台 熱交換能力 209KW

イ. 空調方式について

(ア) 空気調和機 ヒートポンプパッケージ型/空冷式パッケージ型/ユニット型/コンパクト型

(イ) ファンコイルユニット

(ウ) ビルマルチエアコン

(エ) ガスエンジン式ヒートポンプエアコン

ウ. 換気方法 排気口 各階
第1種換気 機械室 電気室

エ. クリーンルーム

(ア) 手術室5・6 クラス 1000×2室 (バイオクリーン)

(イ) 手術室1～3・7・8 クラス 10000×5室

(3) 給排水衛生設備

ア. 給水設備

(ア) 引込 吹田市本管より引込 (80 φ)

(イ) 井水設備 膜ろ過処理 計画水量 161m³

(ウ) 受水槽 FRP 製複合板 2 槽式 有効容量 96m³

(エ) 加圧給水ポンプ (システム型) 1,450 ℓ /min 22kw × 2 台 × 2 組

イ. ボイラー設備 貫流式ボイラー × 3 台 ガス焼き 実際蒸発量 1,690kg/h、伝熱面積 7.44m²

ウ. 給湯設備

(ア) ストレージタンク × 2 台 容量 5,500 ℓ 最高使用圧力 0.59Mpa

(イ) ガス湯沸器 瞬間湯沸器 300 号 × 1 台 50 号 × 6 台

エ. ガス設備 都市ガス 13A 45 MJ/m³ 中圧引込

用途 中圧 ボイラー用、コージェネ用、冷温水機用

低圧 一般用 (厨房、検体検査室、瞬間湯沸器)

安全対策 ガス遮断弁、ガス漏れ検知器設備

オ. その他の設備 給排水設備 / 衛生器具設備 / 医療ガス設備 / 厨房器具設備 / 排水中和処理設備

(4) 昇降機設備

ア. エレベーター・ダムウェーター

	No.	用途	定員 (人)	荷重 (Kg)	速度 (m/分)	台数	停止階	備 考
病院棟	1, 2	乗 用	15	1,000	105	2	B 2 ~ R F	地震時管制運転装置
	3, 4	寝台用	15	1,000	105	2	B 2 ~ 8 F	//
	5	人荷用	20	2,000	90	1	B 2 ~ 2 F	//
	6	乗 用	6	450	60	1	B 2 ~ 8 F	//
	7	人荷用	26	1,700	90	1	B 2 ~ 8 F	//
	8	小荷物		50	30	1	1 ~ 3 F	
	No.	用途	定員 (人)	荷重 (Kg)	速度 (m/分)	台数	停止階	備 考
管理棟	9	乗 用	15	1,000	60	1	B 1 ~ R F	地震時管制運転装置
	10	寝台用	15	1,000	60	1	B 1 ~ R F	//

※本館No.1 ~ 5、管理棟No.9 ▶ 10 車椅子対策仕様

※停電時使用可能 (病院棟 No.2, 4, 5 管理棟 No.10 ELV)

イ. エスカレーター × 2 台 輸送能力 4,500 人/h 速度 30m/min

4. 光熱水使用状況

平成 26 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	278,384	320,198	417,720	519,772	525,206	429,453	343,968	290,763	339,013	329,681	298,692	322,047	4,414,897
水道使用量 (m)	4,147	—	5,370	—	8,444	—	8,057	—	4,903	—	5,350	—	36,271
ガス使用量 (m)	88,545	82,672	88,870	101,538	105,301	87,634	82,320	91,941	119,863	123,946	114,284	111,675	1,198,589

平成 27 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	304,288	333,325	340,402	458,638	472,721	391,648	303,939	268,173	281,609	282,750	204,634	276,192	3,916,667
水道使用量 (m)	5,404	—	5,566	—	8,840	—	7,337	—	4,859	—	4,615	—	36,621
ガス使用量 (m)	82,111	81,968	83,660	95,700	102,461	81,463	79,216	83,399	114,088	113,912	116,810	100,801	1,135,595

平成 28 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	263,807	317,106	359,600	440,229	452,431	398,969	326,499	261,431	278,167	284,980	253,176	252,839	3,889,234
水道使用量 (m)	4,507	—	3,960	—	6,528	—	6,857	—	5,209	—	4,773	—	31,834
ガス使用量 (m)	74,179	88,609	88,422	100,375	114,081	95,417	88,422	83,171	88,909	116,696	106,727	104,231	1,149,239

平成 29 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	257,203	319,811	345,861	465,087	452,837	360,970	299,317	271,857	297,947	297,483	265,642	283,560	3,917,575
水道使用量 (m)	5,275	—	8,431	—	9,903	—	10,086	—	6,860	—	5,483	—	46,038
ガス使用量 (m)	78,394	87,840	86,133	107,747	111,993	85,802	85,754	88,870	104,718	123,057	109,809	93,161	1,163,278

平成 30 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	279,406	312,295	358,834	470,017	516,826	444,326	481,270	264,829	279,421	296,588	260,236	275,799	4,239,847
水道使用量 (m)	3,619	—	4,384	—	8,568	—	9,503	—	6,218	—	5,713	—	38,005
ガス使用量 (m)	77,001	90,882	85,953	115,416	106,706	75,764	56,545	84,886	90,991	124,697	102,650	93,697	1,105,188

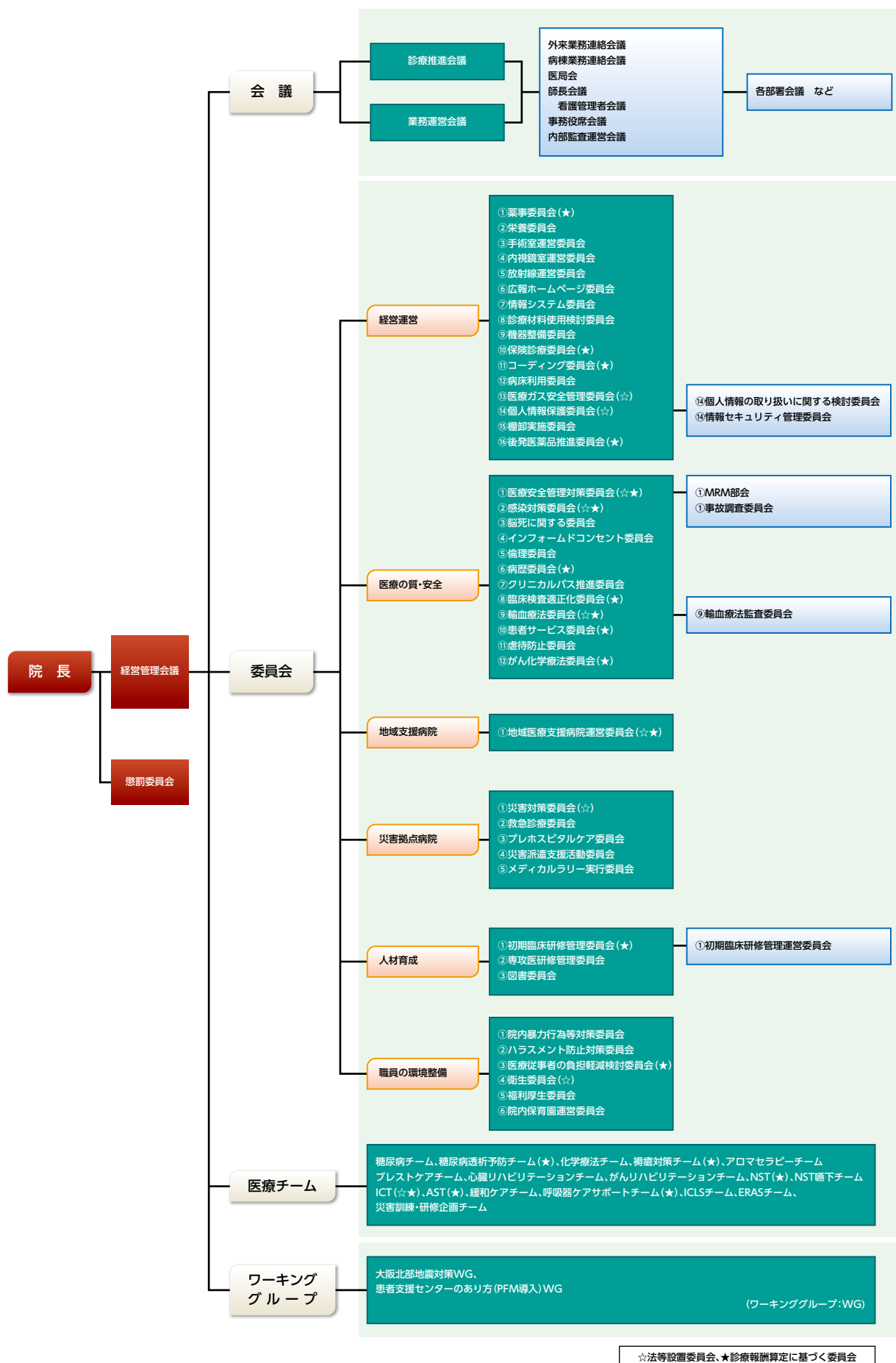
2. 役職員名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

役 職	氏 名
名誉院長	林 亨
院長 兼 千里病院会計会計責任者・予算管理責任者 兼 副法令遵守責任者 兼 千里病院訪問看護ステーション会計責任者・予算管理責任者 兼 千里医療福祉センター会計 会計責任者・予算管理責任者	木 内 利 明
副院長 兼 患者支援センターセンター長 兼 電子保存システム監査責任者 兼 病歴管理責任者 兼 品質管理責任者	庄 司 恭 之
副院長 兼 第一診療部長 兼 初期臨床研修プログラム責任者	鈴 木 都 男
副院長 兼 千里救命救急センターセンター長 兼 専攻医研修センターセンター長 兼 四肢骨盤外傷センターセンター長	林 靖 之
副院長 兼 第三診療部長 兼 総合初期研修科部長 兼 初期臨床研修センターセンター長	寺 田 浩 明
副院長 兼 第二診療部長 兼 がん総合診療センターセンター長 兼 医療安全管理責任者	福 崎 孝 幸
顧問	甲 斐 達 朗
顧問 兼 特定個人情報保護監査責任者 兼 個人情報保護監査責任者 兼 情報システム監査責任者	山 本 哲 夫
医療安全管理室室長	井 上 千 代
品質管理室室長	浜 畑 利 美 江
消化器内科部長 兼 内視鏡室部長	堀 本 雅 祥
消化器内科副部長	奥 田 偉 秀
循環器内科主任部長 兼 生理機能検査室部長 兼 治験・試験管理室室長	廣 岡 慶 治
循環器内科部長	西 尾 ま ゆ
循環器内科副部長	久 米 清 士
循環器内科副部長 兼 心大血管疾患リハビリテーション科科長	奥 田 啓 二
呼吸器内科部長	山 根 宏 之
呼吸器内科副部長	古 川 貢
免疫内科（リウマチ・アレルギー科）部長	松 下 正 人
糖尿病内科部長	鈴 木 正 昭
糖尿病内科副部長	星 步
小児科主任部長	瀬 戸 眞 澄
小児科部長	森 本 恭 子
小児科副部長	吉 田 敏 子
小児科副部長	谷 本 和 哉
外科部長 兼 化学療法室部長	吉 岡 節 子
外科部長 兼 乳腺内分泌外科部長	北 條 茂 幸
外科部長 兼 感染管理室室長 兼 感染管理責任者	高 山 治
外科副部長	豊 田 泰 弘
外科部長	真 貝 竜 史
外科副部長	西 田 久 史
整形外科主任部長	安 原 良 典
整形外科部長 兼 リハビリテーション科科長	長 山 隆 一
整形外科副部長	坂 口 公 一
脳神経外科副部長 兼 脳卒中センターセンター長	桧 山 永 得
泌尿器科部長 兼 勤務医の負担軽減・処遇改善責任者	今 津 哲 央
泌尿器科副部長	花 房 隆 範
産科・婦人科部長	武 曾 博
歯科・歯科口腔外科部長	金 崎 朋 彦
麻酔科主任部長 兼 手術部部長	遠 藤 健
千里救命救急センター副センター長 兼 集中治療室（ICU）室長	澤 野 宏 隆
千里救命救急センター副部長 兼 輸血管理室室長	伊 藤 裕 介

役 職	氏 名
千里救命救急センター副部長 兼 四肢骨盤外傷センター副センター長	佐 藤 秀 峰
千里救命救急センター副部長	大 谷 尚 之
放射線科部長 兼 診療支援部長	三 谷 尚
病理診断科部長	辻 求
リハビリテーション部副技士長	吉 田 美由紀
放射線部技師長	橋 岳 志
薬剤部薬局長 兼 医薬品安全管理責任者	宮 脇 康 至
中央検査部技師長	今 井 清 隆
栄養科科長	吉 田 尚 子
臨床工学科副技士長 兼 医療機器安全管理責任者	片 衛 裕 司
看護部長	刀 谷 峰 子
副看護部長	田 原 祐 子
副看護部長 兼 ICU 看護師長	岩 崎 好 子
副看護部長	斉 藤 律 子
副看護部長	片 岡 節 子
看護部長室看護師長	京 極 多 歌 子
看護部長室看護師長	芦 田 有 理 枝
8 階病棟看護師長	木 村 愛 美
7 階病棟看護師長	瀬 古 理 香
6 階病棟看護師長	福 田 裕 美
5 階病棟看護師長	富 田 和 代
4 階病棟看護師長	森 本 美 鶴
3 階病棟看護師長	上 辻 真 寿 美
副看護部長兼救急病棟看護師長	堀 三 枝 子
救急外来看護師長	安 本 友 子
中央手術室看護師長	山 田 真 理
放射線・内視鏡室看護師長	濱 口 寿 美 子
一般外来看護師長	村 田 君 代
事務部長 兼 特定個人情報取扱責任者 兼 千里病院固定資産管理責任者 兼 千里病院現金保管責任者 兼 千里医療福祉センター現金保管責任者	塩 谷 吉 宏
事務次長	高 元 信 二 郎
事務次長	田 中 憲 幸
事務次長	明 浦 秀 夫
経営戦略課課長代理	小 山 卓 也
総務課課長	樋 口 幸 二
用度・施設課課長代理 兼 適正計量管理主任者	松 山 功
医事課課長	村 田 吉 江
医療秘書室室長	竹 中 大
病歴管理室室長	大 田 美 知 子
情報システム課課長 兼 病院情報システム管理者 兼 電子保存システム管理者 兼 ソフトウェア管理責任者 兼 電子保存システム運用責任者	上 島 康 裕
大阪府済生会千里病院訪問看護ステーション所長 兼 千里病院訪問看護ステーション固定資産管理責任者 兼 千里病院訪問看護ステーション会計現金保管責任者兼副法令遵守責任者	小 山 や よ い

3. 平成30年度 会議・委員会組織図



Ⅳ. 患者状況

1. 患者数の推移

(人)

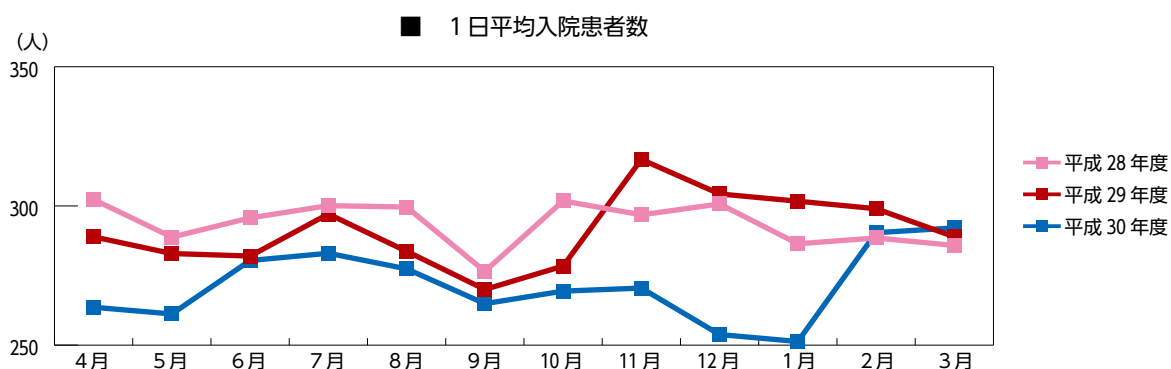
年 度	入 院	外 来
平成 28 年度	107,174	153,239
平成 29 年度	106,248	148,825
平成 30 年度	99,026	139,007

2. 年度別 1 日平均患者数

(1) 入院

(人)

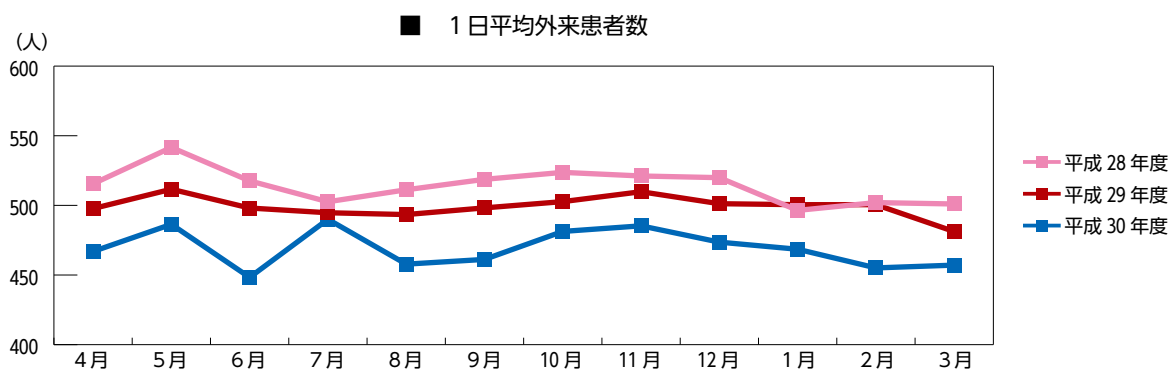
年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成 28 年度	302.3	288.8	295.7	300.1	299.6	276.5	301.8	296.8	300.7	286.4	288.5	285.8	293.6
平成 29 年度	288.9	282.9	282.0	297.1	283.7	270.0	278.4	316.7	304.3	301.7	299.0	288.9	291.1
平成 30 年度	263.6	261.2	280.4	283.0	277.4	264.9	269.4	270.5	253.8	251.3	290.4	292.1	271.3



(2) 外来

(人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成 28 年度	515.5	541.6	517.6	502.6	511.2	518.7	523.7	521.1	519.9	496.4	502.0	501.0	514.3
平成 29 年度	497.7	511.6	498.1	494.7	493.4	498.2	502.7	509.8	501.2	500.5	500.5	481.2	499.0
平成 30 年度	466.9	486.4	448.3	490.0	457.8	461.2	481.3	485.3	473.6	468.5	455.1	457.1	469.3



3. 年度別診療科別患者数

(1) 入院

(人)

科	年度	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均
循環器内科		8,324	22.8	10,188	27.8	10,560	28.9	12,024	32.9	9,993	27.4
消化器内科		18,347	50.3	16,360	44.7	13,333	36.5	11,778	32.3	12,317	33.7
呼吸器内科		6,026	16.5	6,583	18.0	6,962	19.1	8,965	24.6	6,798	18.6
糖尿病内科		1,726	4.7	1,851	5.1	2,107	5.8	1,836	5.0	1,945	5.3
免疫内科 (アレルギー・リウマチ)		—	—	—	—	—	—	—	—	2,610	7.2
外科		16,137	44.2	16,843	46.0	13,870	38.0	14,763	40.4	15,004	41.1
整形外科		13,219	36.2	13,252	36.2	13,112	35.9	12,112	33.2	11,570	31.7
脳神経外科		—	—	205	0.6	192	0.5	0	0.0	1,854	5.1
形成外科		—	—	—	—	—	—	—	—	105	0.3
小児科		3,787	10.4	4,525	12.4	4,175	11.4	4,161	11.4	4,972	13.6
産婦人科		8,947	24.5	9,220	25.2	8,812	24.1	7,860	21.5	7,520	20.6
泌尿器科		5,615	15.4	4,885	13.3	5,828	16.0	4,702	12.9	4,281	11.7
歯科・口腔外科		1,514	4.1	1,345	3.7	1,425	3.9	1,376	3.8	1,299	3.6
総合診療部		3,432	9.4	2,802	7.7	3,578	9.8	3,439	9.4	—	—
総合初期研修科		—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.0
救命救急センター		22,930	62.8	22,887	62.5	23,220	63.6	23,232	63.6	18,758	51.4
合 計		110,004	301.4	110,946	303.2	107,174	293.5	106,248	291.1	99,026	271.3

(2) 平均在院日数 (従来法)

(日)

科	年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
循環器内科		14.5	11.8	10.0	10.2	9.3
消化器内科		8.6	7.8	7.6	7.1	8.4
呼吸器内科		15.2	16.0	16.5	16.4	14.6
糖尿病内科		20.4	18.5	17.0	15.8	19.0
免疫内科 (アレルギー・リウマチ)		—	—	—	—	18.0
外科		11.1	11.4	10.1	9.6	10.2
整形外科		14.8	14.8	13.6	13.5	14.1
脳神経外科		—	18.5	12.2	—	29.0
形成外科		—	—	—	—	7.1
小児科		5.9	6.0	5.7	5.7	5.3
産婦人科		7.1	7.5	15.1	14.9	6.9
泌尿器科		9.4	8.5	9.6	7.7	7.1
歯科・口腔外科		5.6	3.9	3.9	3.7	3.8
総合診療部		17.0	12.0	11.8	12.5	—
総合初期研修科		—	—	—	—	0.0
救命救急センター		11.9	11.7	11.9	11.3	10.7
合 計		10.6	10.2	10.0	9.7	9.6

平均在院日数の算式＝入院患者延数÷1/2 (新入院患者数+退院患者数)

(3) 外来

(人)

科	年度	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均
循環器内科		16,859	57.1	16,906	57.1	16,254	55.1	15,771	53.5	14,783	50.5
消化器内科		20,530	69.6	20,236	68.4	18,931	64.2	18,353	62.2	17,372	59.3
呼吸器内科		7,889	26.7	7,462	25.2	7,696	26.1	8,245	27.9	7,731	26.4
糖尿病内科		6,114	20.7	6,460	21.8	6,834	23.2	6,534	22.1	6,232	21.3
免疫内科 (アレルギー・リウマチ)		—	—	—	—	—	—	—	—	3,054	10.4
外科		21,698	73.6	21,747	73.5	21,067	71.4	21,575	73.1	20,746	70.8
整形外科		17,648	59.8	16,806	56.8	18,165	61.6	17,578	59.6	16,189	55.3
脳神経外科		—	—	644	2.2	574	1.9	16	0.1	478	1.6
形成外科		—	—	—	—	—	—	—	—	465	1.6
小児科		4,938	16.7	5,217	17.6	5,132	17.4	4,363	14.8	4,248	14.5
産科		3,302	11.2	3,765	12.7	3,352	11.4	2,782	9.4	13,037	44.5
婦人科		13,814	46.8	14,800	50.0	13,446	45.6	12,163	41.2		
眼科		11	0.0	29	0.1	94	0.3	135	0.5	128	0.4
耳鼻咽喉科		438	1.5	471	1.6	536	1.8	442	1.5	355	1.2
泌尿器科		10,792	36.6	10,305	34.8	10,606	36.0	10,650	36.1	10,298	35.1
皮膚科		33	0.1	73	0.2	191	0.6	215	0.7	172	0.6
神経内科		1,315	4.5	1,332	4.5	1,425	4.8	1,110	3.8	1,000	3.4
膠原病リウマチ内科		619	2.1	715	2.4	844	2.9	873	3.0	—	—
心療内科		2,520	8.5	1,679	5.7	2,169	7.4	2,364	8.0	2,083	7.1
リハビリ科		2,196	7.4	2,036	6.9	21	0.1	0	0.0	0	0.0
心リハ		1,488	5.0	1,416	4.8	1,304	4.4	1,031	3.5	741	2.5
歯科・口腔外科		6,671	22.6	6,581	22.2	7,064	23.9	8,238	27.9	8,241	28.1
委託検査		4,092	13.9	4,360	14.7	4,409	14.9	4,653	15.8	3	0.0
放射線科		—	—	—	—	—	—	—	—	3,532	12.1
総合初期研修科		—	—	—	—	—	—	—	—	507	1.7
総合診療部		6,487	22.0	6,425	21.7	5,138	17.4	3,367	11.4	—	—
救命救急センター		9,086	24.9	9,387	25.6	7,987	21.9	8,367	22.9	7,611	20.9
合 計		158,540	531.5	158,852	530.5	153,239	514.3	148,825	499.0	139,006	469.3

4. 平成 30 年度入院患者数

(1) 延数

(人)

科	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	29年度計	差引	増減率
循環器内科	31	885	886	872	891	827	684	774	779	672	864	898	961	9,993	12,024	-2031	83.1%
消化器内科	37	877	980	1,025	1,127	1,131	984	1,094	959	1,124	1,042	942	1,032	12,317	11,778	539	104.6%
呼吸器内科	29	600	772	622	528	415	401	515	485	511	696	539	714	6,798	8,965	-2167	75.8%
糖尿病内科	6	177	139	159	157	133	142	176	183	151	183	159	186	1,945	1,836	109	105.9%
免疫内科		151	184	262	312	195	172	139	263	242	207	213	270	2,610	-	-	-
外科	44	1,145	1,224	1,308	1,358	1,368	1,258	1,354	1,286	1,285	979	1,095	1,344	15,004	14,763	241	101.6%
整形外科	40	757	783	892	889	977	1,074	1,004	1,087	940	838	1,142	1,187	11,570	12,112	-542	95.5%
脳神経外科	0	8	26	48	105	87	118	153	155	181	184	341	448	1,854	0	1854	-
形成外科	0	0	2	5	0	21	20	20	0	17	2	16	2	105	-	-	-
小児科	11	364	342	468	463	516	486	446	386	396	377	347	381	4,972	4,161	811	119.5%
産婦人科	26	637	573	748	765	762	618	645	537	471	480	655	629	7,520	7,860	-340	95.7%
泌尿器科	10	338	346	309	361	469	392	424	392	379	296	268	307	4,281	4,702	-421	91.0%
歯科・口腔外科	5	149	109	112	131	98	116	88	74	112	99	79	132	1,299	1,376	-77	94.4%
総合初期研修科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,439	-3439	0.0%
救命救急センター	57	1,817	1,731	1,585	1,685	1,601	1,481	1,520	1,522	1,385	1,540	1,434	1,457	18,758	23,232	-4474	80.7%
合 計	296	7,905	8,097	8,415	8,772	8,600	7,946	8,352	8,108	7,866	7,787	8,128	9,050	99,026	106,248	-7222	93.2%

(2) 1日平均患者数

(人)

科	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	29年度計	差引	増減率
循環器内科	31	29.5	28.6	29.1	28.7	26.7	22.8	25.0	26.0	21.7	27.9	32.1	31.0	27.4	32.9	-5.5	83.3%
消化器内科	37	29.2	31.6	34.2	36.4	36.5	32.8	35.3	32.0	36.3	33.6	33.6	33.3	33.7	32.3	1.4	104.3%
呼吸器内科	29	20.0	24.9	20.7	17.0	13.4	13.4	16.6	16.2	16.5	22.5	19.3	23.0	18.6	24.6	-6.0	75.6%
糖尿病内科	6	5.9	4.5	5.3	5.1	4.3	4.7	5.7	6.1	4.9	5.9	5.7	6.0	5.3	5.0	0.3	106.0%
免疫内科		5.0	5.9	8.7	10.1	6.3	5.7	4.5	8.8	7.8	6.7	7.6	8.7	7.2	-	-	-
外科	44	38.2	39.5	43.6	43.8	44.1	41.9	43.7	42.9	41.5	31.6	39.1	43.4	41.1	40.4	0.7	101.7%
整形外科	40	25.2	25.3	29.7	28.7	31.5	35.8	32.4	36.2	30.3	27.0	40.8	38.3	31.7	33.2	-1.5	95.5%
脳神経外科	0	0.3	0.8	1.6	3.4	2.8	3.9	4.9	5.2	5.8	5.9	12.2	14.5	5.1	0.0	5.1	-
形成外科	0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.7	0.7	0.6	0.0	0.5	0.1	0.6	0.1	0.3	-	-	-
小児科	11	12.1	11.0	15.6	14.9	16.6	16.2	14.4	12.9	12.8	12.2	12.4	12.3	13.6	11.4	2.2	119.3%
産婦人科	26	21.3	18.5	24.9	24.7	24.6	20.6	20.8	17.9	15.2	15.5	23.4	20.3	20.6	21.5	-0.9	95.8
泌尿器科	10	11.3	11.2	10.3	11.6	15.1	13.1	13.7	13.1	12.2	9.5	9.6	9.9	11.7	12.9	-1.2	90.7%
歯科・口腔外科	5	5.0	3.5	3.7	4.2	3.2	3.9	2.8	2.5	3.6	3.2	2.8	4.3	3.6	3.8	-0.2	94.7%
総合初期研修科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	-9.4	0.0%
救命救急センター	57	60.6	55.8	52.8	54.4	51.6	49.4	49.0	50.7	44.7	49.7	51.2	47.0	51.4	63.6	-12.2	80.8%
合 計	296	263.6	261.2	280.4	283.0	277.4	264.9	269.4	270.5	253.8	251.3	290.4	292.1	271.3	291.0	-19.7	93.2%

(3) 病床利用率

区分	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	29年度計	差引	増減率
3	50	78.6%	68.0%	86.4%	86.2%	84.2%	75.6%	82.4%	77.6%	65.8%	65.0%	87.8%	85.8%	78.6%	83.8%	-5.2%	93.8%
4	50	78.4%	80.0%	86.8%	90.4%	93.2%	93.0%	83.8%	90.2%	80.8%	78.6%	99.0%	94.6%	87.2%	94.0%	-6.8%	92.8%
5	50	83.6%	85.4%	89.6%	91.4%	91.2%	82.8%	84.0%	83.0%	80.4%	69.0%	90.0%	92.6%	85.2%	90.2%	-5.0%	94.5%
6	50	56.0%	53.8%	58.8%	59.4%	59.4%	59.0%	56.6%	55.0%	57.4%	54.4%	56.4%	58.2%	57.0%	63.4%	-6.4%	89.9%
7	50	85.8%	89.0%	89.6%	90.2%	84.4%	84.2%	88.8%	87.0%	80.8%	85.6%	91.6%	95.8%	87.6%	93.0%	-5.4%	94.2%
8	50	87.4%	91.6%	95.6%	93.6%	90.2%	85.6%	90.8%	91.0%	86.6%	88.8%	93.2%	96.4%	90.8%	93.6%	-2.8%	97.0%
ICU	12	60.0%	52.5%	52.5%	55.8%	48.3%	50.8%	49.2%	55.8%	54.2%	67.5%	65.0%	58.3%	55.8%	55.0%	0.8%	101.5%
救急病棟	31	68.7%	68.1%	67.1%	66.5%	65.2%	60.0%	65.8%	69.7%	69.0%	72.3%	75.8%	74.8%	68.7%	81.9%	-13.2%	83.9%
合 計	343	76.8%	76.2%	81.8%	82.5%	80.9%	77.2%	78.5%	78.8%	74.0%	73.2%	84.6%	85.1%	79.1%	84.8%	-5.7%	93.3%

(4) 平均在院日数（従来法）

(日)

区分	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均在院日数	343	10.3	9.8	9.6	9.4	9.7	9.8	9.1	9.3	8.4	9.8	10.3	10.6	9.6

(5) 平均在院日数（届出法：算定除外患者を除いた者）

(日)

区分	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均在院日数	343	11.1	10.4	10.1	9.9	10.4	10.3	9.7	9.9	9.0	10.2	11.0	10.9	10.2

5. 平成 30 年度外来患者数

(1) 延数

(人)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	29年度計	差 引	増減率
循環器内科		1,319	1,317	1,237	1,319	1,284	1,120	1,351	1,224	1,144	1,174	1,078	1,216	14,783	15,771	-988	93.7%
消化器内科		1,398	1,469	1,534	1,571	1,443	1,284	1,605	1,550	1,418	1,368	1,422	1,310	17,372	18,353	-981	94.7%
呼吸器内科		599	599	636	645	664	592	738	664	692	621	648	633	7,731	8,245	-514	93.8%
糖尿病内科		537	497	563	513	576	473	550	531	516	487	515	474	6,232	6,534	-302	95.4%
免疫内科		193	251	218	256	258	221	278	291	281	281	269	257	3,054	—	—	—
外科		1,700	1,766	1,786	1,740	1,791	1,632	1,966	1,747	1,678	1,640	1,568	1,732	20,746	21,575	-829	96.2%
整形外科		1,284	1,438	1,374	1,472	1,427	1,193	1,438	1,387	1,356	1,243	1,182	1,395	16,189	17,578	-1,389	92.1%
脳神経外科		3	25	35	44	29	38	46	47	46	60	55	50	478	16	462	2987.5%
形成外科		26	35	48	50	59	48	38	33	31	27	26	44	465	—	—	—
小児科		307	290	359	411	452	346	353	350	365	346	274	395	4,248	4,363	-115	97.4%
産科		252	302	268	317	256	244	272	212	183	197	175	182	2,860	2,782	78	102.8%
婦人科		902	965	847	1,010	802	792	995	812	771	761	724	796	10,177	12,163	-1,986	83.7%
眼科		10	18	7	7	16	10	18	8	6	8	8	12	128	135	-7	94.8%
耳鼻咽喉科		18	34	40	31	43	30	30	37	21	18	17	36	355	442	-87	80.3%
泌尿器科		828	836	885	855	903	858	897	889	888	788	803	868	10,298	10,650	-352	96.7%
皮膚科		18	17	12	16	16	12	12	17	15	8	15	14	172	215	-43	80.0%
神経内科		80	91	82	81	87	85	83	92	80	90	67	82	1,000	1,110	-110	90.1%
心療内科		184	186	159	198	169	152	210	176	163	151	158	177	2,083	2,364	-281	88.1%
リハビリ科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
心リハ		84	92	66	65	51	46	52	55	53	56	65	56	741	1,031	-290	71.9%
歯科・口腔外科		669	658	626	700	765	632	729	684	749	600	634	795	8,241	8,238	3	100.0%
委託検査		0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4,653	-4,650	0.1%
放射線科		303	306	326	316	239	259	325	324	285	240	281	328	3,532	—	—	—
総合初期研修科		42	49	45	58	49	51	9	36	43	27	38	60	507	—	—	—
救命救急センター		555	551	582	718	627	638	612	606	752	792	540	638	7,611	8,367	-756	91.0%
合 計		11,311	11,795	11,736	12,393	12,006	10,756	12,607	11,772	11,536	10,983	10,562	11,550	139,007	148,825	-9,818	93.4%

(2) 1 日平均患者数

(人)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	29年度計	差 引	増減率
循環器内科		55.0	54.9	47.6	52.8	49.4	48.7	52.0	51.0	47.7	51.0	46.9	48.6	50.5	53.5	-3.0	94.4%
消化器内科		58.3	61.2	59.0	62.8	55.5	55.8	61.7	64.6	59.1	59.5	61.8	52.4	59.3	62.2	-2.9	95.3%
呼吸器内科		25.0	25.0	24.5	25.8	25.5	25.7	28.4	27.7	28.8	27.0	28.2	25.3	26.4	27.9	-1.5	94.6%
糖尿病内科		22.4	20.7	21.7	20.5	22.2	20.6	21.2	22.1	21.5	21.2	22.4	19.0	21.3	22.1	-0.8	96.4%
免疫内科		8.0	10.5	8.4	10.2	9.9	9.6	10.7	12.1	11.7	12.2	11.7	10.3	10.4	—	—	—
外科		70.8	73.6	68.7	69.6	68.9	71.0	75.6	72.8	69.9	71.3	68.2	69.3	70.8	73.1	-2.3	96.9%
整形外科		53.5	59.9	52.8	58.9	54.9	51.9	55.3	57.8	56.5	54.0	51.4	55.8	55.3	59.6	-4.3	92.8%
脳神経外科		0.1	1.0	1.3	1.8	1.1	1.7	1.8	2.0	1.9	2.6	2.4	2.0	1.6	0.1	1.5	1600.0%
形成外科		1.1	1.5	1.8	2.0	2.3	2.1	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	1.8	1.6	—	—	—
小児科		12.8	12.1	13.8	16.4	17.4	15.0	13.6	14.6	15.2	15.0	11.9	15.8	14.5	14.8	-0.3	98.0%
産科		10.5	12.6	10.3	12.7	9.8	10.6	10.5	8.8	7.6	8.6	7.6	7.3	9.8	9.4	0.4	104.3%
婦人科		37.6	40.2	32.6	40.4	30.8	34.4	38.3	33.8	32.1	33.1	31.5	31.8	34.7	41.2	-6.5	84.2%
眼科		0.4	0.8	0.3	0.3	0.6	0.4	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5	-0.1	80.0%
耳鼻咽喉科		0.8	1.4	1.5	1.2	1.7	1.3	1.2	1.5	0.9	0.8	0.7	1.4	1.2	1.5	-0.3	80.0%
泌尿器科		34.5	34.8	34.0	34.2	34.7	37.3	34.5	37.0	37.0	34.3	34.9	34.7	35.1	36.1	-1.0	97.2%
皮膚科		0.8	0.7	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.7	0.6	0.3	0.7	0.6	0.6	0.7	-0.1	85.7%
神経内科		3.3	3.8	3.2	3.2	3.3	3.7	3.2	3.8	3.3	3.9	2.9	3.3	3.4	3.8	-0.4	89.5%
心療内科		7.7	7.8	6.1	7.9	6.5	6.6	8.1	7.3	6.8	6.6	6.9	7.1	7.1	8.0	-0.9	88.8%
リハビリ科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
心リハ		3.5	3.8	2.5	2.6	2.0	2.0	2.0	2.3	2.2	2.4	2.8	2.2	2.5	3.5	-1.0	71.4%
歯科・口腔外科		27.9	27.4	24.1	28.0	29.4	27.5	28.0	28.5	31.2	26.1	27.6	31.8	28.1	27.9	0.2	100.7%
委託検査		0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	-15.8	0.0%
放射線科		12.6	12.8	12.5	12.6	9.2	11.3	12.5	13.5	11.9	10.4	12.2	13.1	12.1	—	—	—
総合初期研修科		1.8	2.0	1.7	2.3	1.9	2.2	0.3	1.5	1.8	1.2	1.7	2.4	1.7	—	—	—
救命救急センター		18.5	17.8	19.4	23.2	20.2	21.3	19.7	20.2	24.3	25.5	19.3	20.6	20.9	22.9	-2.0	91.3%
合 計		466.9	486.4	448.3	490.0	457.8	461.2	481.3	485.3	473.6	468.5	455.1	457.1	469.3	499.0	-29.7	94.0%

(3) 新患率

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	29年度計	増減率
循環器内科		7.1%	7.8%	10.3%	8.6%	8.6%	7.1%	8.4%	7.4%	9.6%	8.3%	8.5%	6.9%	8.2%	6.0%	136.7%
消化器内科		14.1%	13.2%	14.5%	13.7%	14.2%	14.2%	15.7%	14.4%	14.2%	15.7%	14.6%	19.3%	14.8%	10.0%	148.0%
呼吸器内科		11.5%	13.4%	12.3%	14.6%	11.7%	9.8%	9.3%	11.4%	11.6%	11.8%	11.3%	10.7%	11.6%	11.5%	100.9%
糖尿病内科		2.8%	2.2%	2.3%	2.3%	1.7%	0.8%	1.8%	1.3%	2.3%	2.1%	1.9%	2.7%	2.0%	3.4%	58.8%
免疫内科		14.0%	13.9%	9.2%	11.7%	13.6%	10.4%	11.5%	13.7%	11.4%	12.8%	13.4%	12.5%	12.4%	—	—
外科		6.5%	7.0%	8.1%	9.1%	8.1%	6.4%	7.6%	8.0%	7.7%	6.6%	9.0%	6.8%	7.6%	7.6%	100.0%
整形外科		13.3%	13.3%	13.0%	11.8%	11.1%	12.7%	12.2%	11.5%	11.4%	12.0%	11.5%	12.2%	12.2%	12.4%	98.4%
脳神経外科		33.3%	36.0%	25.7%	20.5%	10.3%	21.1%	19.6%	14.9%	26.1%	23.3%	23.6%	18.0%	21.5%	—	—
形成外科		7.7%	8.6%	6.3%	6.0%	8.5%	4.2%	5.3%	6.1%	6.5%	7.4%	3.8%	4.5%	6.2%	—	—
小児科		35.5%	45.2%	39.6%	39.9%	40.7%	43.4%	42.8%	40.9%	37.0%	39.6%	39.4%	33.4%	39.7%	39.2%	101.3%
産科		1.2%	0.7%	2.2%	1.3%	2.3%	1.6%	1.8%	3.3%	2.2%	2.0%	5.1%	2.7%	2.1%	1.1%	190.9%
婦人科		9.0%	9.2%	9.3%	8.3%	9.2%	7.8%	10.5%	8.7%	8.7%	8.4%	8.8%	10.1%	9.0%	9.2%	97.8%
眼科		10.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	3.7%	43.2%
耳鼻咽喉科		5.6%	8.8%	10.0%	3.2%	7.0%	13.3%	10.0%	8.1%	14.3%	0.0%	11.8%	2.8%	7.9%	2.0%	395.0%
泌尿器科		6.6%	5.9%	6.7%	7.0%	7.4%	4.3%	5.9%	7.1%	5.3%	5.8%	6.1%	6.8%	6.3%	7.8%	80.8%
皮膚科		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.4%	85.7%
神経内科		5.0%	3.3%	2.4%	4.9%	8.0%	4.7%	4.8%	7.6%	7.5%	2.2%	7.5%	4.9%	5.2%	2.4%	216.7%
膠原病リウマチ内科		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
心療内科		2.2%	1.1%	0.6%	1.0%	0.6%	0.7%	1.4%	2.3%	0.0%	0.0%	1.9%	1.7%	1.2%	0.3%	400.0%
歯科・口腔外科		30.0%	26.0%	28.1%	24.9%	26.9%	23.7%	25.1%	26.6%	27.6%	24.3%	31.9%	30.3%	27.2%	27.4%	99.3%
委託検査		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	84.9%	117.8%
放射線科		87.1%	86.9%	87.1%	87.7%	87.4%	86.9%	87.7%	83.6%	82.1%	91.3%	86.8%	80.5%	86.1%	—	—
総合初期研修科		38.1%	28.6%	33.3%	20.7%	38.8%	23.5%	11.1%	33.3%	39.5%	18.5%	31.6%	30.0%	30.2%	—	—
救命救急センター		71.7%	75.5%	72.2%	75.8%	71.6%	74.3%	73.4%	75.9%	74.3%	79.4%	73.7%	77.4%	74.8%	70.3%	106.4%
合 計		16.1%	16.1%	16.9%	17.2%	16.5%	16.1%	16.3%	16.7%	17.4%	17.8%	17.1%	17.7%	16.8%	16.4%	102.4%

6. 疾病統計

(1) 疾病大分類別・診療科別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする

統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

	総数	構成比 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
総数	9,889	100.0	86	1,413	778	781	451	534	546	277	1,869	1,042	1,392	454	105	148	13
構成比 (%)	100.0		0.9	14.3	7.9	7.9	4.6	5.4	5.5	2.8	18.9	10.5	14.1	4.6	1.1	1.5	0.1
I 感染症及び寄生虫症	299	3.0	—	16	—	129	—	7	—	1	38	11	78	6	6	7	—
II 新生物<腫瘍>	2,103	21.3	1	658	6	2	1	283	352	10	17	1	669	96	2	3	2
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	61	0.6	—	8	—	19	—	3	3	—	6	2	17	1	—	2	—
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	172	1.7	—	13	—	30	—	1	2	—	34	10	7	3	68	4	—
V 精神及び行動の障害	13	0.1	—	1	—	1	—	—	—	—	10	—	—	—	1	—	—
VI 神経系の疾患	68	0.7	2	2	1	4	—	—	—	—	25	9	1	24	—	—	—
VII 眼及び付属器の疾患	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
VIII 耳及び乳様突起の疾患	8	0.1	—	—	—	1	—	—	—	—	2	2	3	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	1,401	14.2	71	2	—	2	—	—	—	—	562	756	4	1	1	2	—
X 呼吸器系の疾患	956	9.7	—	18	—	328	—	—	1	3	121	46	23	309	21	86	—
XI 消化器系の疾患	1,741	17.6	—	643	2	4	—	3	3	235	278	1	564	3	1	4	—
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	75	0.8	—	18	17	18	—	1	—	2	10	2	2	—	—	2	3
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	316	3.2	—	4	250	17	—	1	—	1	10	3	3	3	1	23	—
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	529	5.3	—	14	—	24	—	222	181	—	49	20	7	4	2	6	—
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	460	4.7	—	—	—	—	449	10	—	—	1	—	—	—	—	—	—
XVI 周産期に発生した病態	181	1.8	—	—	—	181	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	6	0.1	—	1	1	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	68	0.7	5	4	—	15	—	—	1	—	17	9	8	3	1	5	—
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,263	12.8	7	7	501	3	1	3	2	25	689	12	6	1	1	4	1
XX 傷病及び死亡の外因	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	168	1.7	—	4	—	—	—	—	—	—	—	158	—	—	—	—	6
XXII 特殊目的用コード	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 疾病中分類別・診療科別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする

統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

	総数	構成比 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
総数	9,889	100.0	86	1,413	778	781	451	534	546	277	1,869	1,042	1,392	454	105	148	13
構成比 (%)	100.0		0.9	14.3	7.9	7.9	4.6	5.4	5.5	2.8	18.9	10.5	14.1	4.6	1.1	1.5	0.1
I 感染症及び寄生虫症	299	3.0	—	16	—	129	—	7	—	1	38	11	78	6	6	7	—
001 腸管感染症	148	1.5	—	15	—	80	—	—	—	—	5	2	45	—	1	—	—
002 結核	4	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	—	—
003 人畜共通細菌性疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
004 その他の細菌性疾患	61	0.6	—	1	—	11	—	—	—	—	28	5	8	1	4	3	—
005 主として性的伝播様式をとる感染症	7	0.1	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
006 その他のスピロヘータ疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
007 クラミジアによるその他の疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
008 リケッチア症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
009 中枢神経系のウイルス感染症	3	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	1	—
010 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
011 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	26	0.3	—	—	—	23	—	—	—	1	1	—	—	1	—	—	—
012 ウイルス性肝炎	24	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	22	—	—	—	—
013 ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
014 その他のウイルス性疾患	23	0.2	—	—	—	15	—	—	—	—	—	2	3	—	1	2	—
015 真菌症	2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
016 原虫疾患	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
017 ぜんく蟻>虫症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
018 シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
019 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
020 細菌、ウイルス及びその他の病原体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
021 その他の感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
Ⅱ 新生物＜腫瘍＞	2,103	21.3	1	658	6	2	1	283	352	10	17	1	669	96	2	3	2
022 口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	5	0.1	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—
023 消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	726	7.3	—	388	—	1	—	2	—	—	13	—	321	—	1	—	—
024 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	95	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	89	—	1	2	—
025 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
026 皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
027 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	6	0.1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—
028 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	208	2.1	—	207	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
029 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	78	0.8	—	1	—	—	—	76	—	—	—	—	1	—	—	—	—
030 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	165	1.7	—	—	—	—	—	—	165	—	—	—	—	—	—	—	—
031 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	170	1.7	—	1	—	—	—	—	169	—	—	—	—	—	—	—	—
032 眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
033 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	4	0.0	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
034 部位不明腫、統発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	48	0.5	—	26	—	—	—	8	5	—	2	—	3	3	—	1	—
035 リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞、原発と記載された又は推定されたもの	11	0.1	—	5	3	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—
036 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
037 上皮内新生物＜腫瘍＞	12	0.1	—	—	—	—	—	7	5	—	—	—	—	—	—	—	—
038 良性新生物＜腫瘍＞	561	5.7	1	21	2	—	1	187	8	5	1	—	333	—	—	—	2
039 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞	13	0.1	—	3	1	1	—	3	—	—	—	—	5	—	—	—	—
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	61	0.6	—	8	—	19	—	3	3	—	6	2	17	1	—	2	—
040 栄養性貧血	20	0.2	—	1	—	—	—	3	1	—	3	1	11	—	—	—	—
041 溶血性貧血	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
042 無形成性貧血及びその他の貧血	8	0.1	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	4	1	—	—	—
043 凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	23	0.2	—	—	—	19	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2	—
044 血液及び造血器のその他の疾患	10	0.1	—	4	—	—	—	—	2	—	2	—	2	—	—	—	—
045 免疫機構の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	172	1.7	—	13	—	30	—	1	2	—	34	10	7	3	68	4	—
046 甲状腺障害	5	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	3	—
047 糖尿病	69	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	—	61	—	—
048 その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	7	0.1	—	—	—	1	—	—	—	—	4	—	1	—	1	—	—
049 その他の内分泌腺障害	30	0.3	—	3	—	25	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
050 栄養失調（症）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
051 その他の栄養欠乏症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
052 肥満（症）及びその他の過栄養＜過剰摂食＞	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
053 代謝障害	60	0.6	—	10	—	4	—	—	1	—	21	10	6	2	5	1	—
Ⅴ 精神及び行動の障害	13	0.1	—	1	—	1	—	—	—	—	10	—	—	—	1	—	—
054 症状性を含む器質性精神障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
055 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	4	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	1	—	—
056 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
057 気分〔感情〕障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
058 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	5	0.1	—	—	—	1	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—
059 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	4	0.0	—	1	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
060 成人の人格及び行動の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
061 知的障害＜精神遅滯＞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
062 心理的発達の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
063 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
064 詳細不明の精神障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ⅵ 神経系の疾患	68	0.7	2	2	1	4	—	—	—	—	25	9	1	24	—	—	—
065 中枢神経系の炎症性疾患	5	0.1	1	—	—	2	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
066 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
067 錐体外路障害及び異常運動	2	0.0	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
068 神経系のその他の変性疾患	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
069 中枢神経系の脱髄疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
070 挿聞性及び発作性障害	44	0.4	—	1	—	2	—	—	—	—	17	—	—	24	—	—	—
071 神経、神経根及び神経そう＜叢＞の障害	2	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
072 多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
073 神経筋接合部及び筋の疾患	2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—
074 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
075 神経系のその他の障害	12	0.1	1	—	—	—	—	—	—	—	4	7	—	—	—	—	—
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
076 眼瞼、涙器及び眼窩の障害	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
077 結膜の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
078 強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
079 水晶体の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
080 脈絡膜及び網膜の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
081 緑内障	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
082 硝子体及び眼球の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
083 視神経及び視（覚）路の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
084 眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
085 視機能障害及び盲<失明>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
086 眼及び付属器のその他の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
VII 耳及び乳様突起の疾患	8	0.1	—	—	—	1	—	—	—	—	2	2	3	—	—	—	—
087 外耳疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
088 中耳及び乳様突起の疾患	1	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
089 内耳疾患	7	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	3	—	—	—	—
090 耳のその他の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	1,401	14.2	71	2	—	2	—	—	—	—	562	756	4	1	1	2	—
091 急性リウマチ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
092 慢性リウマチ性心疾患	2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—
093 高血圧性疾患	8	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	6	—	—	—	—	—
094 虚血性心疾患	552	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	97	455	—	—	—	—	—
095 肺性心疾患及び肺循環疾患	14	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	4	9	—	—	—	1	—
096 その他の型の心疾患	589	6.0	—	1	—	—	—	—	—	—	343	244	—	1	—	—	—
097 脳血管疾患	169	1.7	71	—	—	—	—	—	—	—	95	3	—	—	—	—	—
098 動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	45	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	14	31	—	—	—	—	—
099 静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	21	0.2	—	1	—	1	—	—	—	—	7	6	4	—	1	1	—
100 循環器系のその他及び詳細不明の障害	1	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
X 呼吸器系の疾患	956	9.7	—	18	—	328	—	—	1	3	121	46	23	309	21	86	—
101 急性上気道感染症	55	0.6	—	—	—	50	—	—	—	—	3	—	2	—	—	—	—
102 インフルエンザ及び肺炎	498	5.0	—	11	—	172	—	—	—	—	30	30	12	176	14	53	—
103 その他の急性下気道感染症	71	0.7	—	1	—	67	—	—	—	—	1	—	—	—	1	1	—
104 上気道のその他の疾患	7	0.1	—	—	—	—	—	—	—	3	4	—	—	—	—	—	—
105 慢性下気道疾患	119	1.2	—	—	—	38	—	—	—	—	16	3	—	47	1	14	—
106 外的因子による肺疾患	78	0.8	—	4	—	—	—	—	1	—	20	10	6	23	5	9	—
107 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	48	0.5	—	1	—	—	—	—	—	—	10	1	—	30	—	6	—
108 下気道の化膿性及び え<壊>死性病態	11	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	1	6	—	—	—
109 胸膜のその他の疾患	41	0.4	—	1	—	—	—	—	—	—	19	2	1	16	—	2	—
110 呼吸器系のその他の疾患	28	0.3	—	—	—	1	—	—	—	—	14	—	1	11	—	1	—
XI 消化器系の疾患	1,741	17.6	—	643	2	4	—	3	3	235	278	1	564	3	1	4	—
111 口腔、唾液腺及び顎の疾患	242	2.4	—	—	—	1	—	—	—	235	6	—	—	—	—	—	—
112 食道、胃及び十二指腸の疾患	155	1.6	—	14	—	—	—	—	—	—	52	—	89	—	—	—	—
113 虫垂の疾患	102	1.0	—	75	—	—	—	—	—	—	26	—	—	—	1	—	—
114 ヘルニア	207	2.1	—	196	—	—	—	—	1	—	10	—	—	—	—	—	—
115 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	30	0.3	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	29	—	—	—	—
116 腸のその他の疾患	493	5.0	—	171	—	1	—	2	1	—	83	1	233	—	—	1	—
117 腹膜の疾患	30	0.3	—	9	2	—	—	—	1	—	10	—	8	—	—	—	—
118 肝疾患	59	0.6	—	5	—	—	—	—	—	—	5	—	47	—	—	2	—
119 胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害	363	3.7	—	165	—	—	—	—	—	—	55	—	141	1	—	1	—
120 消化器系のその他の疾患	60	0.6	—	8	—	1	—	1	—	—	31	—	17	2	—	—	—
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	75	0.8	—	18	17	18	—	1	—	2	10	2	2	—	—	2	3
121 皮膚及び皮下組織の感染症	57	0.6	—	16	15	11	—	—	—	2	9	1	1	—	—	2	—
122 水疱症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
123 皮膚炎及び湿疹	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
124 丘疹落せつ<屑><くりんせつ><鱗屑>>性障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
125 じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑	8	0.1	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
126 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
127 皮膚付属器の障害	5	0.1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
128 皮膚及び皮下組織のその他の障害	4	0.0	—	1	1	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	316	3.2	—	4	250	17	—	1	—	1	10	3	3	3	1	23	—
129 感染性関節障害	1	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
130 炎症性多発性関節障害	19	0.2	—	—	11	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	6	—
131 関節症	54	0.5	—	—	53	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
132 その他の関節障害	11	0.1	—	—	7	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	2	—
133 全身性結合組織障害	36	0.4	—	—	—	16	—	1	—	—	1	1	2	2	—	13	—
134 変形性脊柱障害	6	0.1	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
135 脊椎障害	120	1.2	—	—	119	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
136 その他の脊柱障害	36	0.4	—	—	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
137 筋障害	2	0.0	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
138 滑膜及び腱の障害	1	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
139 その他の軟部組織障害	8	0.1	—	3	1	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	1	—

	総数	罹患率 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
140 骨の密度及び構造の障害	7	0.1	—	—	4	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—	—
141 その他の骨障害	13	0.1	—	—	10	—	—	—	—	—	1	1	—	—	1	—	—
142 軟骨障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
143 筋骨格系及び結合組織のその他の障害	2	0.0	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XV 腎尿路生殖系系の疾患	529	5.3	—	14	—	24	—	222	181	—	49	20	7	4	2	6	—
144 糸球体疾患	4	0.0	—	1	—	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
145 腎尿細管間質性疾患	72	0.7	—	4	—	5	—	—	47	—	9	2	2	2	1	—	—
146 腎不全	34	0.3	—	—	—	—	—	—	3	—	18	10	2	—	—	1	—
147 尿路結石症	35	0.4	—	—	—	—	—	—	33	—	2	—	—	—	—	—	—
148 腎及び尿管のその他の障害	4	0.0	—	—	—	—	—	—	3	—	1	—	—	—	—	—	—
149 尿路系のその他の疾患	85	0.9	—	5	—	15	—	—	32	—	15	7	3	2	1	5	—
150 男性生殖器の疾患	66	0.7	—	—	—	—	—	—	63	—	3	—	—	—	—	—	—
151 乳房の障害	1	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
152 女性骨盤臓器の炎症性疾患	20	0.2	—	—	—	1	—	18	—	—	1	—	—	—	—	—	—
153 女性生殖器の非炎症性障害	207	2.1	—	4	—	—	—	203	—	—	—	—	—	—	—	—	—
154 腎尿路生殖系系のその他の障害	1	0.0	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	460	4.7	—	—	—	—	449	10	—	—	1	—	—	—	—	—	—
155 流産に終わった妊娠	57	0.6	—	—	—	—	50	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
156 妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害	21	0.2	—	—	—	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
157 主として妊娠に関連するその他の母体障害	52	0.5	—	—	—	—	51	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
158 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	122	1.2	—	—	—	—	121	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
159 分娩の合併症	37	0.4	—	—	—	—	35	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
160 分娩	162	1.6	—	—	—	—	162	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
161 主として産じょく<褥>に関連する合併症	1	0.0	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
162 その他の産科的病態、他に分類されないもの	8	0.1	—	—	—	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVI 周産期に発生した病態	181	1.8	—	—	—	181	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
163 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	68	0.7	—	—	—	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
164 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	29	0.3	—	—	—	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
165 出産外傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
166 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	5	0.1	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
167 周産期に特異的な感染症	71	0.7	—	—	—	71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
168 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	3	0.0	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
169 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	4	0.0	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
170 胎児及び新生児の消化器系障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
171 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
172 周産期に発生したその他の障害	1	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	6	0.1	—	1	1	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
173 神経系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
174 眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
175 循環器系の先天奇形	1	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
176 呼吸器系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
177 唇裂及び口蓋裂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
178 消化器系のその他の先天奇形	2	0.0	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
179 生殖器の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
180 腎尿路系の先天奇形	1	0.0	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
181 筋骨格系の先天奇形及び変形	2	0.0	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
182 その他の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
183 染色体異常、他に分類されないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	68	0.7	5	4	—	15	—	—	1	—	17	9	8	3	1	5	—
184 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	9	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	—	3	—	—	—
185 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	23	0.2	—	3	—	10	—	—	—	—	2	—	8	—	—	—	—
186 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
187 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候	4	0.0	—	—	—	1	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
188 腎尿路系に関する症状及び徴候	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
189 認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	10	0.1	5	—	—	—	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	—
190 言語及び音声に関する症状及び徴候	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
191 全身症状及び徴候	22	0.2	—	1	—	4	—	—	1	—	5	5	—	—	1	5	—
192 血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
193 尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
194 その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
195 画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比 (%)	脳外	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内	形成
196 診断名不明確及び原因不明の死亡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,263	12.8	7	7	501	3	1	3	2	25	689	12	6	1	1	4	1
197 頭部損傷	244	2.5	6	—	—	—	—	—	—	23	212	2	—	—	—	—	1
198 頸部損傷	34	0.3	1	—	—	2	—	—	—	—	30	—	1	—	—	—	—
199 胸部＜郭＞損傷	79	0.8	—	—	19	—	—	—	—	—	59	—	—	1	—	—	—
200 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	97	1.0	—	—	31	—	1	2	2	—	60	—	1	—	—	—	—
201 肩及び上腕の損傷	130	1.3	—	—	100	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	—
202 肘及び前腕の損傷	129	1.3	—	—	86	—	—	—	—	—	43	—	—	—	—	—	—
203 手首及び手の損傷	14	0.1	—	—	8	—	—	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—
204 股関節部及び大腿の損傷	166	1.7	—	—	135	—	—	—	—	—	31	—	—	—	—	—	—
205 膝及び下腿の損傷	150	1.5	—	—	99	—	—	—	—	—	51	—	—	—	—	—	—
206 足首及び足の損傷	26	0.3	—	—	18	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—	—	—
207 多部位の損傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
208 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
209 自然開口部からの異物侵入の作用	8	0.1	—	—	—	—	—	—	—	1	5	—	2	—	—	—	—
210 体表面の熱傷及び腐食、明示された部位	10	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—
211 眼及び内臓に限局する熱傷及び腐食	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
212 多部位及び部位不明の熱傷及び腐食	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
213 凍傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
214 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	61	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	61	—	—	—	—	—	—
215 薬用を主としない物質の毒作用	15	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—
216 外因のその他及び詳細不明の作用	68	0.7	—	—	1	3	—	—	—	—	58	2	1	—	1	2	—
217 外傷の早期合併症	9	0.1	—	2	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
218 外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	22	0.2	—	5	2	—	—	1	—	1	2	8	1	—	—	2	—
219 損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
XX 傷病及び死亡の外因	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XI 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	168	1.7	—	4	—	—	—	—	—	—	—	158	—	—	—	—	6
220 検査及び診査のための保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
221 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
222 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
223 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
224 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
225 その他の環境下での保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
226 家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	168	1.7	—	4	—	—	—	—	—	—	—	158	—	—	—	—	6
XII 特殊目的用コード	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
227 原因不明の新たな疾患又はエマー ジェンシーコードの暫定分類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
228 抗菌薬及び抗腫瘍薬への耐性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 疾病大分類別・年齢階層別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする
統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

		総数	構成比 (%)	平均 年齢	0- 28日	29日 -11月	1- 4歳	5- 9歳	10- 14歳	15- 19歳	20- 29歳	30- 39歳	40- 49歳	50- 59歳	60- 64歳	65- 69歳	70- 74歳	75- 79歳	80- 84歳	85- 89歳	90歳 -
総数	計	9,889	100.0	59.1	184	113	301	174	112	179	414	692	839	926	511	812	1,145	1,249	1,188	707	343
	男	5,080	51.4	60.9	82	67	159	91	70	99	154	161	354	484	298	496	741	716	623	350	135
	女	4,809	48.6	57.1	102	46	142	83	42	80	260	531	485	442	213	316	404	533	565	357	208
構成比 (%)	計	100.0			1.9	1.1	3.0	1.8	1.1	1.8	4.2	7.0	8.5	9.4	5.2	8.2	11.6	12.6	12.0	7.1	3.5
	男	100.0			1.6	1.3	3.1	1.8	1.4	1.9	3.0	3.2	7.0	9.5	5.9	9.8	14.6	14.1	12.3	6.9	2.7
	女	100.0			2.1	1.0	3.0	1.7	0.9	1.7	5.4	11.0	10.1	9.2	4.4	6.6	8.4	11.1	11.7	7.4	4.3
I 感染症及び寄生虫症	計	299	3.0	35.0	-	23	49	43	14	8	25	11	17	18	5	9	18	20	21	15	3
	男	133	2.6	36.3	-	14	19	17	8	3	7	5	6	10	3	7	9	9	10	4	2
	女	166	3.5	33.9	-	9	30	26	6	5	18	6	11	8	2	2	9	11	11	11	1
II 新生物<腫瘍>	計	2,103	21.3	67.9	-	-	1	-	2	7	22	69	208	239	142	247	314	387	291	128	46
	男	1,032	20.3	72.0	-	-	-	-	-	4	3	7	29	92	64	144	208	228	149	76	28
	女	1,071	22.3	63.9	-	-	1	-	2	3	19	62	179	147	78	103	106	159	142	52	18
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機 構の障害	計	61	0.6	49.2	-	-	8	5	6	-	2	1	5	4	1	2	6	6	8	6	1
	男	30	0.6	48.1	-	-	5	4	3	-	-	1	-	-	-	2	3	5	2	4	1
	女	31	0.6	50.3	-	-	3	1	3	-	2	-	5	4	1	-	3	1	6	2	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	172	1.7	57.3	-	-	16	10	3	3	2	4	14	21	4	16	20	17	18	16	8
	男	82	1.6	55.6	-	-	10	7	1	-	-	1	5	11	1	10	8	12	4	7	5
	女	90	1.9	58.9	-	-	6	3	2	3	2	3	9	10	3	6	12	5	14	9	3
V 精神及び行動の障害	計	13	0.1	33.9	-	-	-	1	-	2	2	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-
	男	7	0.1	34.9	-	-	-	-	-	-	2	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	6	0.1	32.8	-	-	-	1	-	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
VI 神経系の疾患	計	68	0.7	58.1	-	1	1	-	2	-	4	3	7	15	4	9	10	3	5	4	-
	男	38	0.7	57.6	-	-	-	-	1	-	4	2	3	9	3	4	6	3	3	-	-
	女	30	0.6	58.7	-	1	1	-	1	-	-	1	4	6	1	5	4	-	2	4	-
VII 眼及び付属器の疾患	計	1	0.0	66.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	男	1	0.0	66.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	8	0.1	63.1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	2	1	1	-
	男	1	0.0	72.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	女	7	0.1	61.9	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2	1	1	-
IX 循環器系の疾患	計	1,401	14.2	71.2	-	-	-	1	2	8	14	18	93	137	89	124	257	209	238	128	83
	男	880	17.3	69.5	-	-	-	-	2	3	9	11	68	97	68	89	188	132	126	55	32
	女	521	10.8	74.2	-	-	-	1	-	5	5	7	25	40	21	35	69	77	112	73	51
X 呼吸器系の疾患	計	956	9.7	48.1	1	75	185	47	20	16	13	25	33	19	20	58	85	102	121	90	46
	男	575	11.3	49.4	-	48	99	26	13	12	8	10	17	12	11	34	65	69	81	57	13
	女	381	7.9	46.2	1	27	86	21	7	4	5	15	16	7	9	24	20	33	40	33	33
XI 消化器系の疾患	計	1,741	17.6	64.3	-	-	1	18	10	49	84	87	161	183	84	153	189	247	227	169	79
	男	982	19.3	63.8	-	-	1	13	3	24	45	41	99	117	49	99	120	131	125	81	34
	女	759	15.8	65.0	-	-	-	5	7	25	39	46	62	66	35	54	69	116	102	88	45
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	75	0.8	52.0	-	-	10	6	2	2	2	2	5	7	2	4	6	11	7	4	5
	男	46	0.9	46.8	-	-	8	3	2	2	1	2	1	7	1	3	3	5	5	2	1
	女	29	0.6	60.2	-	-	2	3	-	-	1	-	4	-	1	1	3	6	2	2	4
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	316	3.2	64.4	-	2	14	1	-	-	5	11	22	34	27	40	40	49	47	22	2
	男	154	3.0	63.4	-	1	7	-	-	-	2	7	14	15	16	18	21	23	22	8	-
	女	162	3.4	65.2	-	1	7	1	-	-	3	4	8	19	11	22	19	26	25	14	2
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	計	529	5.3	57.0	-	10	5	6	9	10	22	53	84	66	31	25	58	53	53	30	14
	男	190	3.7	64.5	-	4	3	-	5	8	4	5	4	13	17	17	33	26	30	17	4
	女	339	7.0	52.7	-	6	2	6	4	2	18	48	80	53	14	8	25	27	23	13	10
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	計	460	4.7	32.3	-	-	-	-	-	7	114	303	36	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	460	9.6	32.3	-	-	-	-	-	7	114	303	36	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	計	181	1.8	-	181	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	82	1.6	-	82	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	99	2.1	-	99	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	6	0.1	23.0	2	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	男	2	0.0	48.0	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4	0.1	10.5	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	計	68	0.7	51.8	-	2	5	5	1	4	3	6	2	6	2	4	3	9	8	6	2
	男	36	0.7	57.2	-	-	4	1	-	1	1	4	1	3	2	2	2	5	6	3	1
	女	32	0.7	45.7	-	2	1	4	1	3	2	2	1	3	-	2	1	4	2	3	1
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,263	12.8	56.1	-	-	4	31	40	63	100	91	138	150	86	95	102	106	120	83	54
	男	682	13.4	50.8	-	-	3	20	31	42	68	59	98	77	51	46	46	49	46	32	14
	女	581	12.1	62.4	-	-	1	11	9	21	32	32	40	73	35	49	56	57	74	51	40
XX 傷病及び死亡の外因	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因及び 保健サービスの利用	計	168	1.7	68.0	-	-	-	-	-	-	-	3	12	24	14	24	36	28	22	5	-
	男	127	2.5	67.2	-	-	-	-	-	-	-	2	9	20	12	20	28	19	13	4	-
	女	41	0.9	70.7	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4	2	4	8	9	9	1	-
XXII 特殊目的用コード	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 疾病大分類別・在院期間別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする
統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

		総数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	0-8日	9-15日	16-22日	23-31日	32-61日	62-91日	3-6ヶ月	6ヶ月-
総数	計	9,889	100.0	99,908	10.1	6,448	1,757	760	422	404	58	31	9
	男	5,080	51.4	50,857	10.0	3,350	877	394	198	205	32	18	6
	女	4,809	48.6	49,051	10.2	3,098	880	366	224	199	26	13	3
構成比 (%)	計	100.0				65.2	17.8	7.7	4.3	4.1	0.6	0.3	0.1
	男	100.0				65.9	17.3	7.8	3.9	4.0	0.6	0.4	0.1
	女	100.0				64.4	18.3	7.6	4.7	4.1	0.5	0.3	0.1
I 感染症及び寄生虫症	計	299	3.0	2,701	9.0	217	45	24	2	8	2	1	-
	男	133	2.6	1,253	9.4	95	16	15	1	4	2	-	-
	女	166	3.5	1,448	8.7	122	29	9	1	4	-	1	-
II 新生物<腫瘍>	計	2,103	21.3	20,280	9.6	1,409	354	152	90	81	9	6	2
	男	1,032	20.3	10,032	9.7	671	177	83	52	40	4	4	1
	女	1,071	22.3	10,248	9.6	738	177	69	38	41	5	2	1
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	61	0.6	492	8.1	38	18	4	1	-	-	-	-
	男	30	0.6	236	7.9	18	9	3	-	-	-	-	-
	女	31	0.6	256	8.3	20	9	1	1	-	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	172	1.7	1,871	10.9	90	57	13	6	5	-	1	-
	男	82	1.6	742	9.0	49	21	7	3	2	-	-	-
	女	90	1.9	1,129	12.5	41	36	6	3	3	-	1	-
V 精神及び行動の障害	計	13	0.1	88	6.8	9	2	1	1	-	-	-	-
	男	7	0.1	31	4.4	5	2	-	-	-	-	-	-
	女	6	0.1	57	9.5	4	-	1	1	-	-	-	-
VI 神経系の疾患	計	68	0.7	780	11.5	50	8	4	3	2	-	-	1
	男	38	0.7	561	14.8	28	4	3	1	1	-	-	1
	女	30	0.6	219	7.3	22	4	1	2	1	-	-	-
VII 眼及び付属器の疾患	計	1	0.0	2	2.0	1	-	-	-	-	-	-	-
	男	1	0.0	2	2.0	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	8	0.1	32	4.0	8	-	-	-	-	-	-	-
	男	1	0.0	3	3.0	1	-	-	-	-	-	-	-
	女	7	0.1	29	4.1	7	-	-	-	-	-	-	-
IX 循環器系の疾患	計	1,401	14.2	12,944	9.2	970	203	102	45	70	5	4	2
	男	880	17.3	7,689	8.7	618	130	67	24	36	2	2	1
	女	521	10.8	5,255	10.1	352	73	35	21	34	3	2	1
X 呼吸器系の疾患	計	956	9.7	10,988	11.5	581	198	78	39	45	12	3	-
	男	575	11.3	6,979	12.1	334	126	52	21	30	10	2	-
	女	381	7.9	4,009	10.5	247	72	26	18	15	2	1	-
XI 消化器系の疾患	計	1,741	17.6	15,783	9.1	1,181	348	106	47	45	8	5	1
	男	982	19.3	8,306	8.5	680	196	59	17	24	3	3	-
	女	759	15.8	7,477	9.9	501	152	47	30	21	5	2	1
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	75	0.8	910	12.1	39	20	10	2	3	1	-	-
	男	46	0.9	530	11.5	24	14	4	2	1	1	-	-
	女	29	0.6	380	13.1	15	6	6	-	2	-	-	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	316	3.2	5,450	17.2	98	63	63	59	26	4	3	-
	男	154	3.0	2,588	16.8	51	35	32	21	11	2	2	-
	女	162	3.4	2,862	17.7	47	28	31	38	15	2	1	-
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	計	529	5.3	4,260	8.1	379	110	22	4	11	2	-	1
	男	190	3.7	1,676	8.8	124	52	11	1	1	-	-	1
	女	339	7.0	2,584	7.6	255	58	11	3	10	2	-	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	計	460	4.7	4,526	9.8	255	149	23	19	12	1	1	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	460	9.6	4,526	9.8	255	149	23	19	12	1	1	-
XVI 周産期に発生した病態	計	181	1.8	1,415	7.8	164	17	-	-	-	-	-	-
	男	82	1.6	629	7.7	77	5	-	-	-	-	-	-
	女	99	2.1	786	7.9	87	12	-	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	6	0.1	76	12.7	4	1	-	-	1	-	-	-
	男	2	0.0	50	25.0	1	-	-	-	1	-	-	-
	女	4	0.1	26	6.5	3	1	-	-	-	-	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	68	0.7	436	6.4	50	11	5	2	-	-	-	-
	男	36	0.7	245	6.8	25	6	3	2	-	-	-	-
	女	32	0.7	191	6.0	25	5	2	-	-	-	-	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,263	12.8	16,252	12.9	748	145	150	102	95	14	7	2
	男	682	13.4	8,872	13.0	426	79	55	53	54	8	5	2
	女	581	12.1	7,380	12.7	322	66	95	49	41	6	2	-
XX 傷病及び死亡の外因	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	計	168	1.7	622	3.7	157	8	3	-	-	-	-	-
	男	127	2.5	433	3.4	122	5	-	-	-	-	-	-
	女	41	0.9	189	4.6	35	3	3	-	-	-	-	-
XXII 特殊目的用コード	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

V. 診療科の状況

1. 消化器内科

<平成 30 年度の活動>

大腸の EMR/ESD の患者が多いのが近年の当院の特徴であったが、地域の高齢者が多いことからニーズの高い「入院での内視鏡検査処置」を、入院時間を早くすることで対応できるようになった。大腸の ESD 治療、食道・胃の ESD 治療件数は堅調であり、膵癌の早期診断などに有用な EUS-FNA（細径針を用いた超音波内視鏡下吸引細胞診）も、徐々に症例が増えている。

<今後の展望>

消化器内科の検査・処置・治療は、チーム医療である。胃がん検診としての内視鏡検査が吹田市でも導入される予定であり、関連する職種の連携を密にして、より効率的な診療を行えるようにすることが望まれる。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上部 ESD 実施件数	4	4	1	4	3	2	6	4	4	1	3	2	38
下部 ESD 実施件数	1	4	5	2	2	3	1	1	2	2	3	3	29
下部 EMR/ ポリペク 実施件数	35	24	38	30	43	16	46	46	49	44	43	37	451
胆膵内視鏡 実施件数	12	12	11	14	16	13	14	9	14	18	16	12	161
小腸内視鏡 実施件数	0	1	1	1	0	5	1	0	1	2	0	0	12
RFA/PEIT/ 肝生検 / 腫瘍生検	3	6	4	0	5	3	2	2	1	3	1	3	33
EUS-FNA	0	0	1	2	1	1	1	1	1	0	1	1	10

2. 循環器内科

<平成 30 年度の活動>

平成 30 年度は、スタッフ 6 名、後期研修医 1 名の計 7 名で診療を行った。平成 30 年年間入院患者数は 914 人 (76 人 / 月)、平均在院日数は 9.1 日であった。診療内容は冠動脈や末梢動脈に対する血管内治療、不整脈に対する手術、心不全診療、心大血管リハビリテーションなどで、当科に関わるすべてのメディカルスタッフの協力を得てスタッフ一丸となって取り組んでいる。急性心筋梗塞などの救急心疾患は大阪府立千里救命救急センターと協力して対応し、昨年開始した五十肩などの慢性疼痛に対する運動器カテーテル手術は順調に症例数を増やしている。引き続き新規患者増加のため病診・病病連携交流会や委託検査を強化していく。

<今後の展望>

国立循環器病研究センター移転後の北摂地区における循環器診療の中核病院となるべく、①救急心疾患の受け入れ増加 ②心房細動に対するカテーテルアブレーションを開始 ③心臓血管外科の併設 などを行っていく。また、魅力ある循環器修練所として循環器内科専攻医を育てていく。

【過去 5 年間の手術件数】

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
経皮的冠動脈形成術	71	213	363	398	328
経皮的動脈形成術	10	12	15	18	22
ペースメーカ新規	17	33	32	36	39
ペースメーカ電池交換	8	9	17	15	8
カテーテルアブレーション	0	6	9	11	9

【2018 年検査実績】

放射線検査	冠動脈造影 CT	286
	大血管 CT	83
	心臓 MRI	7
	心筋シンチグラフィー	376
生理機能検査	経胸壁心エコー	3465
	経食道心エコー	14
	末梢血管エコー	969
	ホルター心電図	349
	運動負荷心電図	258
	マスター負荷心電図	651
	ABI	704
心臓リハビリテーション	新規患者数	192
	のべ件数	2489
	心肺運動負荷試験	162

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PCI (経皮的冠動脈形成術) 件数	28	25	25	34	19	24	29	26	23	33	25	32	323
CAG (冠動脈造影) 件数	32	40	31	23	37	23	31	26	26	31	36	27	363
ペースメーカ 件数	3	2	7	4	5	2	1	8	3	2	1	1	39
RFCA (高周波カテーテル心筋焼灼術) 件数	0	2	2	2	0	0	1	1	0	2	0	2	12
心臓 CT 実施件数	11	22	26	25	24	18	26	24	21	17	20	25	259

3. 呼吸器内科

<平成 30 年度の活動>

呼吸器内科の平成 30 年度の医師は呼吸器内科を専門とする 3 名より構成されている。

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、肺がんの診断、抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤による治療を主に行っており、また地域急性期病院の一員として肺炎等の呼吸器感染症および COPD、気管支喘息、間質性肺炎を始めとする呼吸器疾患の診療も行っている。

検査としては、肺がんの診断に必要な気管支鏡検査、また COPD、気管支喘息の診断に呼吸機能検査および平成 28 年より呼気 NO 検査を行っている。また睡眠時無呼吸症候群の精査として PSG（ポリソノグラフィー）を 1 泊入院で行っている。

<今後の展望>

今後、肺がん治療の進歩による長期生存される症例の増加に加え、高齢化による COPD 等の慢性呼吸不全のある症例の増加が予想され、その結果かかりつけ医にの通院や往診を必要とする症例が増加することが予想される。当院では地域連携を強化し、がん患者の在宅医療への移行や、COPD 等呼吸不全患者の在宅酸素療法導入をはじめとする呼吸リハビリ、患者教育を目的とした入院をこれまで以上に積極的に行っていく方針としている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
肺がん 入院患者数	9	9	11	7	9	5	6	6	9	10	9	7	97
気管支喘息 入院患者数	2	1	2	3	4	0	0	1	4	0	2	2	21
COPD（慢性閉塞性肺疾患） 入院患者数	3	6	8	9	2	6	0	4	10	6	6	5	65
間質性肺炎 入院患者数	4	2	5	6	3	5	1	2	3	3	6	3	43
肺炎 入院患者数 （市中肺炎、細菌性肺炎等） 肺炎より除外した病名 閉塞性肺炎、誤嚥性肺炎、薬剤 性間質性肺炎、間質性肺炎、特 発性間質性肺炎、膠原病性間質 性肺炎、好酸球性肺炎	13	19	10	14	11	9	13	21	22	22	16	17	187
BF（気管支内視鏡） 件数	2	4	4	4	4	1	1	3	7	9	2	2	43
ケモ件数	5	6	11	6	4	7	10	4	3	2	5	5	68

4. 免疫内科

<平成 30 年度の活動>

平成 30 年 4 月より、部長・松下、副部長・森島、非常勤・森田（阪大）の体制である。免疫疾患の診療と教育に尽力してゆく。7 月にアレルギー学会準教育施設に、8 月にリウマチ学会教育施設に認定された。2 回の学会発表と 8 回の講演・研修会の発表を行い、4 編の英文論文を発表した。院外講師を招き千里免疫セミナーを開催した。これらの成果もあり患者は着実に増加している。主に内科疾患は呼吸器内科と、関節リウマチは整形外科と連携を取っている。

<今後の展望>

診療科として認知を高め、質の高い診療を求めてゆく。北摂地区は阪大以外に免疫疾患専門医が常勤する施設はなく、その利点と特色を生かしてゆく。阪大との連携、人的交流、共同臨床研究を推進する。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
アクテムラ実施件数	19	20	18	17	13	16	21	18	16	18	16	15	207
オレンシア実施件数	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	3	3	18
在宅自己注射指導管理料算定件数	9	10	9	6	11	8	8	9	8	9	11	12	110
在宅自己注射指導の導入初期加算算定件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
難病外来指導管理料算定件数	8	14	13	12	13	12	13	12	15	14	15	10	151

5. 糖尿病内科

<平成 30 年度の活動>

当科では主として 1 型、2 型糖尿病の診療を行っているが、一部内分泌疾患、特に甲状腺疾患の診療も行っている。

外来においては、糖尿病専門科として 食事療法、運動療法の指導および薬物療法を行っている。

食事療法指導は専門の管理栄養士に依頼し指定されたカロリーと栄養バランスの指導を行っている。

運動療法は主として入院にて、専門の理学療法士に依頼している。

糖尿病の 3 大合併症である 網膜症、腎症、神経障害に留意し、心、脳、下肢などの大血管障害にも留意し、薬物療法を行っている。糖尿病薬物療法の薬剤数が増加し、経口薬および注射薬およびそれらの組み合わせが増加している。これらを考慮して最適な薬物療法を行っている。

<今後の展望>

今後の課題は、この様に進歩の速い最先端の糖尿病診療に各職種とともに対応していくことと考えられる。さらに最新の診療を目指していきたい。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自己注射指導管理料 算定件数	72	75	84	67	85	60	81	81	91	63	78	66	903
他科の入院患者の糖尿病管理 者数	15	10	16	10	13	16	13	18	8	11	21	18	169

6. 外科

<平成 30 年度の活動>

大阪府がん診療拠点病院として、悪性疾患への対応を強化している。がん総合診療センターも立ち上げから2年以上経過し、Cancer Board の開催も周知されてきた。診断から手術、抗癌剤治療に加えて終末期ケアまでトータルに対応できるように、癌困難症例は Cancer Board につけ、治療方針検討と情報共有を進めている。緩和チームのみならず、NST、がんリハもチーム介入を積極的に行っている。乳癌は各種診断モダリティが充実しており、また、形成外科の加入により、同時、異時乳房再建が可能となった。大腸癌は積極的に腹腔鏡手術を展開し、内視鏡外科技術認定医取得を目指しており、また、ERAS 術後早期回復プログラムを実践している。良性疾患では、胆石、胆嚢炎における腹腔鏡下胆嚢摘出術、鼠径ヘルニアにおける Kugel 法根治術を数多く行っている。また、急性期病院として、救命と協力の下、急性腹症に迅速に対応している。

<今後の展望>

上下部消化管では積極的に腹腔鏡を展開、また、腹壁癒痕ヘルニアに関しても腹腔鏡の適応を広げていきたい。

また、救命とのコラボレーションをさらに強化し、急性腹症の的確かつ迅速な対応を行いたい。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	60	68	61	70	83	72	81	73	65	59	61	61	814
全身麻酔件数	49	44	46	60	67	52	63	57	45	47	48	51	629
胃がん 手術件数	1	1	3	5	6	4	6	2	2	2	1	2	35
大腸がん 手術件数	6	9	8	10	8	5	4	10	9	10	9	7	95
肝臓がん 手術件数	1	1	0	3	1	0	1	0	0	0	1	1	9
胆嚢胆管膵臓がん 手術件数	2	0	0	1	1	0	3	0	0	1	2	0	10
乳がん 手術件数	5	4	5	14	9	7	10	11	4	6	4	7	86
乳房再建術 手術件数	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
鼠径ヘルニア 手術件数	11	20	12	12	16	15	18	15	20	13	10	11	173
胆嚢摘出術（開腹 / 腹腔鏡下）手術件数	11	6	10	12	18	13	19	9	12	13	15	8	146

7. 小児科

<平成 30 年度の活動>

平成 30 年度は 4 月～9 月は小児科専門医 4 名、10 月～3 月は更に後期研修医 1 名を加えた 5 名の小児科医で診療となった。

人数が増えた後半は日常診療以外に学会活動が活発になった。

学会発表は平成 30 年度第 85 回北摂小児科医会、恒友会滞児会ジョイントミーティング各 1 演題平成 31 年 3 月第 32 回近畿小児科学会では 2 演題の発表となった。

平成 30 年度は後半から後期研修医が加わった事が例年にない特徴だった。

<今後の展望>

平成 31 年度は小児科専門医が 3 名の体制となり、小児科医が減少することになる。今まで以上に負担がかかる可能性があるが、チームワークのとれた効率のよい働き方で、今までの診療を量、質ともに落とさずに、個人がバランスよく仕事ができるようにすることが人材確保の上での課題と考えている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
肺炎 入院患者数	19	32	32	36	34	39	34	29	36	25	18	19	353
GH 負荷試験件数	4	4	1	6	20	2	4	0	3	0	0	4	48
低身長 新患者数	3	3	3	10	6	1	2	1	2	0	0	4	35
川崎病 入院患者数	2	0	2	2	0	1	1	2	1	0	2	3	16
小児特定疾患カウンセリング 算定件数	12	12	12	15	22	14	8	10	12	13	13	19	162
小児科療養指導 算定件数	7	7	7	9	10	6	10	5	6	9	6	6	88
てんかん指導 算定件数	16	10	11	10	13	12	5	13	12	10	12	8	132
在宅自己注射指導管理料 算定件数	12	15	19	21	16	19	21	15	26	19	23	19	225
喘息治療管理料 算定件数	1	9	11	6	5	1	1	3	4	1	1	1	44
新生児入院患者数	15	17	22	18	19	14	20	13	10	13	13	12	186

8. 整形外科

<平成 30 年度の活動>

整形外科の平成 30 年 4 月 1 日現在のスタッフは常勤医 8 名である。1 ヶ月の新入院目標数は 84 名であるが、現在 60 ～ 70 名くらいで推移している。高齢者の増加により、大腿骨近位部骨折をはじめとした、脆弱性骨折の手術数はあまり変化ない。また従来からの、椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術、圧迫骨折に対する BKP（バルーン椎体形成術）や膝、股関節に対する人工関節手術数なども横ばいである。低侵襲脊椎手術やナビゲーション人工関節手術など当院の特徴を前面にだして、地域に浸透させていく努力が必要である。また救急部との連携は継続していくべき重要な課題である。

<今後の展望>

後期研修医 1 年目が 2 名、2 年目が 1 名と昨年より 1 学年ずつ低年齢化している。整形外科の基本的技術の習得や、社会人としての教育も重要性が増している。また救命センターの人員減に伴い、2 次救急が増加している。安全で高品質な医療を提供するため、救命センターや内科、外科医師などとの密な連携が非常に重要である。あらたな患者の獲得には地域での研修会などを定期的におこない、より地域と密接な関係性を構築していく必要がある。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	57	63	65	64	74	62	78	67	73	63	74	72	812
全身麻酔件数	44	36	34	36	44	29	43	37	47	43	38	43	474
大腿骨近位部骨折手術 件数	11	6	15	10	12	7	6	13	12	11	13	12	128
人工関節手術 件数 /THA（全人工股関節置換術） /TKA（全人工膝関節置換術） /UKA（片側人工膝関節置換術）	4	7	6	2	6	7	7	7	4	6	6	8	70
BKP（経皮的椎体形成術） 件数	5	2	0	1	5	2	2	1	0	0	2	1	21
脊柱手術 件数（椎弓形成、 椎弓切除、ヘルニア等）	7	9	10	9	14	9	12	9	9	11	11	13	123
手の外科手術 件数 （肘より遠位）	9	15	14	12	9	12	24	16	21	17	12	15	176
（緊急）骨折手術 件数	6	4	8	9	4	5	4	7	16	5	7	10	85

9. 産婦人科

<平成 30 年度の活動>

産婦人科の平成 30 年度の医師は 3 名で、日本産科婦人科学会認定専門医 2 名と専攻医 1 名で構成されている。常日頃から女性の各年齢層に加え、個々のライフスタイルを加味した診療を行うように心がけている。周産期医療については不必要な誘発などを含めた医療介入はせず、自然経過を重視。婦人科医療では主に腹腔鏡下手術に主眼を置き、昨年度は腹腔鏡下全子宮全摘出術（TLH）90 例、腹腔鏡下筋腫核出術（LM）52 例を含めた 249 例について施行し、良性疾患の 98% が適応となり、術中開腹移行例や再手術症例は無かった。またメッシュを用いた腹腔鏡下仙骨腔固定術（LSC）も導入し、適応を厳守して積極的に施行している。当科では手術のクオリティーを保持しつつ整容性にもこだわり reduced port surgery（減孔手術）を平成 22 年から取り入れてきた。TLH や腹腔鏡下嚢腫摘出術または付属器切除術などに対しては単孔から 2 孔式で施行し、LM については 3 孔式までで完遂しているのが現状である。学会活動は日本産科婦人科内視鏡学会および日本内視鏡外科学会に毎年発表している。また、当科は日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設であり、今までに 3 名の日本産科婦人科内視鏡学会および日本内視鏡外科学会の技術認定医が輩出され、現在も専攻医に対して指導中である。

<今後の展望>

悪性疾患への腹腔鏡下手術の適応拡大、新たな技術認定医の育成。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	35	34	49	43	35	35	44	39	37	40	39	43	473
全身麻酔件数	24	18	28	24	25	24	30	22	22	28	27	33	305
子宮がん 手術件数	3	2	6	2	2	3	3	4	3	5	5	3	41
卵巣がん 手術件数	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
子宮筋腫 手術件数	17	7	16	13	8	16	12	10	12	11	8	16	146
卵巣のう腫 手術件数	1	5	3	4	11	1	7	4	3	5	3	4	51
子宮内膜症 手術件数	1	1	0	1	0	1	2	1	1	5	3	2	18
分娩 件数	19	22	29	20	31	20	27	21	11	14	19	12	245
帝王切開分娩 件数	3	6	7	4	6	5	2	6	3	2	2	3	49

10. 泌尿器科

<平成 30 年度の活動>

尿路結石由来の重症感染症が、多く救急搬送されました。基本的に全例救急依頼には応需しています。尿路結石症において、経尿道的手術（TUL）の適応患者も多い現状ですが、平成 30 年度にレーザー碎石機器を導入した結果、TUL 手術件数は著しく増加しました。一方、膀胱がん、前立腺がん、腎盂尿管がん、腎がんも減少傾向にはなく、概ね鏡視下手術を実施しました。

<今後の展望>

救急患者の積極的応需は今後も継続します。また、鏡視下手術は出血量も少なく、患者への身体的負担が少ないので、今後も継続します。泌尿器科は少ないマンパワーが弱点ですが、疲弊を最小限に抑えて、病院理念に沿った地域医療への貢献を目標として掲げています。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	35	38	32	38	39	28	40	32	38	41	27	24	412
全身麻酔件数	11	8	8	14	15	8	18	15	17	15	11	14	154
膀胱がん（経尿道的）手術件数	4	10	11	12	11	9	14	8	6	9	6	5	105
膀胱がん（全摘除）手術件数	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	4
前立腺がん（全摘除）手術件数	1	2	2	0	3	3	4	1	0	0	1	1	18
腎・尿管がん（開腹／腹腔鏡下）手術件数	4	3	1	4	4	1	1	3	1	3	1	1	27
腎・尿管結石 手術件数（TUL、PNL）	5	0	1	3	7	3	8	3	2	3	4	5	44
前立腺肥大症 手術件数（TURP、TUEB）	1	2	1	2	2	3	4	1	3	5	4	1	29
膀胱がん / TURBT 術後地域連携パス 適用件数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
ESWL 実施件数	5	3	3	4	4	2	3	4	6	5	6	4	49

11. 歯科口腔外科

<平成 30 年度の活動>

外来

常勤歯科医師は平成 29 年 4 月から 1 名増員され 3 名である。これに対応して歯科衛生士も 2 名から 3 名に増員となった。常勤歯科医師が 1 名増員された目的は院内での周術期口腔機能管理の充実で、全身麻酔手術症例だけではなく化学療法患者にも対応している。

外来

処置、主として抜歯は、患者のニーズに対応するために、平日のみならず土曜日午前も積極的に行っている。

入院

月曜午後と金曜全日の当科手術枠があり、現在入院手術枠は予定手術患者でほぼ満たされている状況である。当院救急救命センターだけではなく近隣医療施設からも顎顔面外傷患者の紹介があり、緊急手術も行っている。

<今後の展望>

紹介患者の増加を最も重視しており、今後もこの姿勢に変わらない。①外来患者の診察および処置、②紹介患者の入院管理下での手術、③周術期口腔機能管理、この 3 本柱を今後も充実していきたいと考えている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来 手術件数	121	131	118	133	168	129	141	148	146	114	157	160	1,666
入院 手術件数	27	20	22	25	27	18	23	18	20	19	22	28	269
埋伏歯抜歯 手術件数 (手術室)	13	7	8	13	18	8	13	11	9	10	18	21	149
嚢胞摘出術 手術件数 (手術室)	8	7	4	5	5	0	5	1	5	4	2	1	47
骨折 手術件数 (手術室)	1	5	1	3	3	2	2	2	1	1	1	1	23
口腔ケア件数	70	136	194	266	344	414	485	542	602	666	729	780	5,228

12. 救命救急センター

<平成 30 年度の活動>

千里救命救急センターは大阪府豊能医療圏における 1 次から 3 次につながる救急患者を 24 時間 365 日体制で受け入れてきた。診療疾患は心肺停止、急性心筋梗塞、敗血症、ショック、多臓器不全、急性腹症、消化管出血、多発外傷、中毒と幅広い分野におよび、近隣の医療機関からの緊急対応依頼も多い。平成 30 年度の診療体制はスタッフ医師 11 名、後期研修医 9 名、専攻医 1 名の 21 名であった。従来からドクターカーによる病院前診療、初療対応、手術・IVR、集中治療の全てを救命救急医が担う方針で運営してきたが、諸事情による人員減少のため、救命救急センターのみでは対応できない状況が増加してきた。そのため、一般診療科とコラボレーションを行ない、応需件数の増加や診療の質を維持するように努めている。

<今後の展望>

救命救急医のさらなる減少によって、平成 31 年度はスタッフ医師 6 名、後期研修医 3 名、専攻医 3 名の 12 名体制となり、従来の救急応需および診療体制の維持が不可能になる。そのため、病院として救急診療体制を見直し、救命救急センターは 3 次救急および重症外傷を中心に診療を行ない、他の 2 次救急は初期臨床研修医および一般診療科が対応することとした。また、手術や PCI に関しても救命救急センター単独では実施困難な場合も増加しており、各診療科の協力が必要となる。非常に厳しい状況下であるが、3 次医療機関として集中治療を要する重症患者の集約、脳卒中・循環器疾患の診療、急性腹症や多発外傷などの Acute Care Surgery 領域の充実を図っていきたい。また、救急科専門医研修基幹施設として、全国から幅広く人材を募り、高度の能力・技術を有して社会に貢献できる優秀な救命救急医の育成に努めたい。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術 実施件数 (手術室)	32	29	32	31	28	36	32	39	34	38	27	29	387
外科手術 実施件数 (手術室)	11	13	11	13	8	9	8	10	4	7	7	4	105
整形外科手術 実施件数 (手術室)	13	12	10	10	10	16	17	16	18	19	10	13	164
心大血管 (PCI) 件数 (カテ室)	9	3	10	11	8	5	8	8	9	8	8	3	90
PCI 以外の IVR 件数 (カテ室) (頸部・胸部・腹部・骨盤 IVR)	3	4	2	5	3	1	2	6	2	10	5	5	48
救急搬送件数	249	235	266	322	260	278	271	284	312	293	236	309	3,315
不応需件数	115	118	106	144	111	119	89	113	147	220	140	131	1,553
三次救急搬送数	71	65	75	86	69	73	86	84	86	82	68	81	926
二次救急搬送数	160	158	176	226	186	190	177	187	210	193	163	228	2,254
ドクターカー出動件数 (総件数)	193	73	59	48	72	53	78	86	73	110	102	85	1,032

13. 麻酔科

<平成 30 年度の活動>

- 1) 臨床実績：麻酔科管理症例 2,473 例で、その内訳は全身麻酔 1,473 例、全身麻酔＋硬膜外麻酔 466 例、脊髄くも膜下麻酔 516 例、硬膜外麻酔 2 例、伝達麻酔 5 例、その他 8 例であった。超音波ガイド下神経ブロックは 242 例行った。また麻酔科術前外来者数は 1,501 人であった。
- 2) 学会発表：日本麻酔科学会 2 件、集中治療学会 1 件、産科麻酔科学会 1 件。
- 3) 教育実習：初期研修医 5 名、救急部医師 4 名の麻酔科研修を行った。
- 4) 社会貢献：豊中消防 2 名、吹田消防 1 名の救命士挿管実習を行った。

<今後の展望>

- ・麻酔科術前外来の充実。
- ・術前・術後回診の徹底。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔科管理症例	166	168	176	178	210	172	202	198	183	188	187	226	2,254
外来患者数	97	90	105	140	139	125	146	139	129	137	126	128	1,501
救命士教育	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
超音波ガイド下神経ブロック	18	16	23	17	24	18	24	20	19	22	15	19	235
麻酔管理料（全身麻酔） 算定件数	87	73	108	132	138	105	134	129	120	111	114	133	1,384

14. 脳神経外科

<平成 30 年度の活動>

4月より新たに開設。頭部外傷や脳卒中疾患、脳腫瘍など幅広い疾患を対象として、救命救急センターと協力しながら初期治療から手術・カテーテル治療、その後の集中治療まで一貫した治療を請け負っている。また、合わせて脳卒中ホットラインを24時間体制で導入し、脳卒中疑いのある救急患者を受け入れる「脳卒中センター」を開設し、SCUの病床稼働を開始している。24時間365日CTやMRIなど画像検査が可能であり、必要時には緊急で脳血管内治療、脳神経外科手術を行っている。

Ⅵ. 部門別活動状況

1. 薬剤部

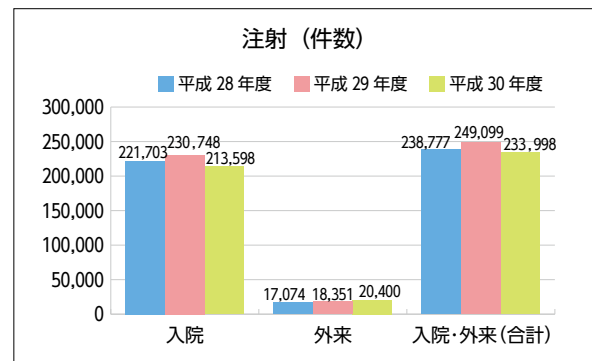
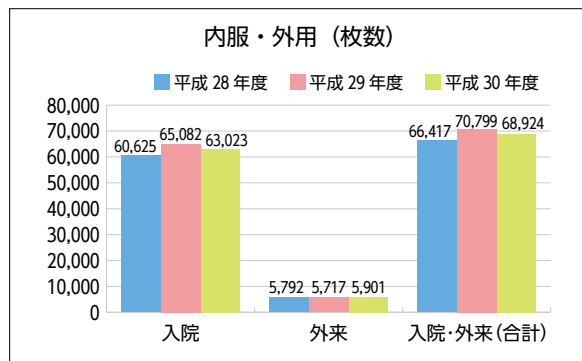
<平成 30 年度の活動>

薬剤師数 23 名（1 名が育児休暇取得中）で業務を行った。

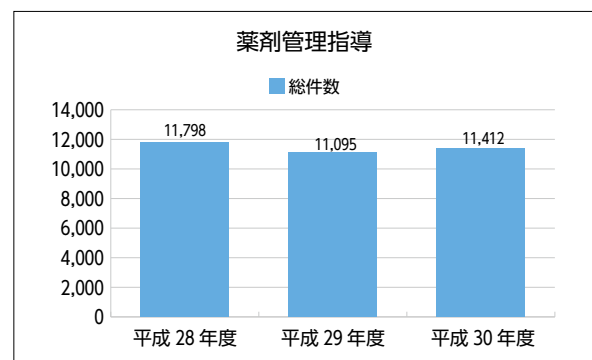
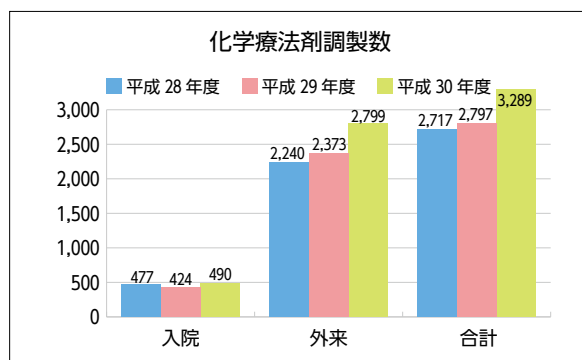
病棟業務では、薬剤管理指導件数の増加に加え、退院時指導およびハイリスク薬投与前の説明や指導を充実させた。また看護師とともに定数配置薬の見直しを行い、また一般病棟に配置している薬剤の配置場所の統一を行った。がん薬物療法相談窓口では、がん化学療法に精通した薬剤師が適切ながん薬物治療の提供と安全管理に対応している。

PFM（Patient Flow Management）による入退院患者支援では、持参薬確認を中心として協力している。

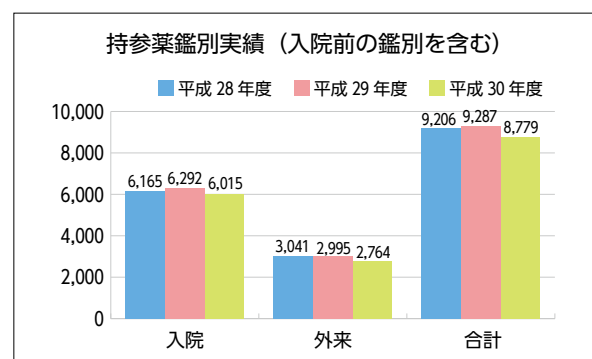
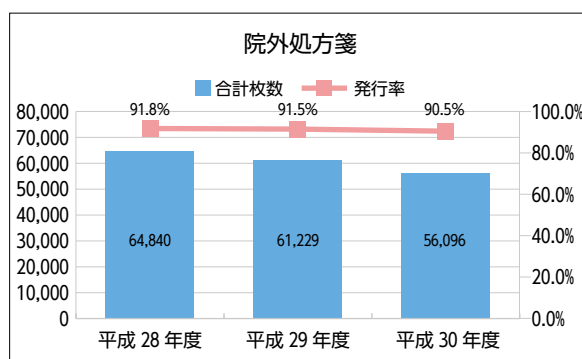
(1) 業務実績



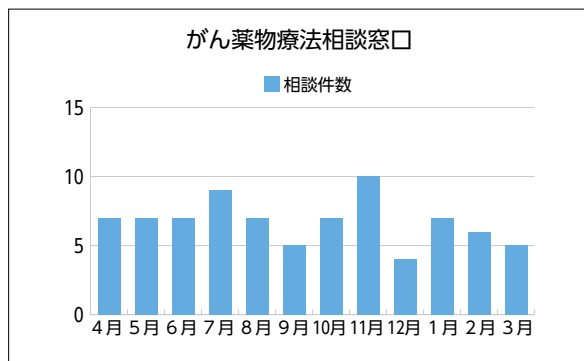
(2) 化学療法剤調製実績



(3) 持参薬鑑別実績（入院前の鑑別を含む）



(4) がん薬物療法相談窓口 相談件数



<今後の展望>

アクションプランには、従来からの薬剤管理指導件数の増加に加え、患者の入院から退院（転院）後までのシームレスな服薬管理を目指し、薬剤管理サマリを作成することを挙げた。また、病棟業務に関する新人教育を強化し、病棟業務を充実させることを挙げた。

急な退職等にも対応できるように余裕をもった人員配置を交渉するとともに、部門システムの更新にあわせて業務の見直しを行い、業務の効率化につなげていきたいと考える。

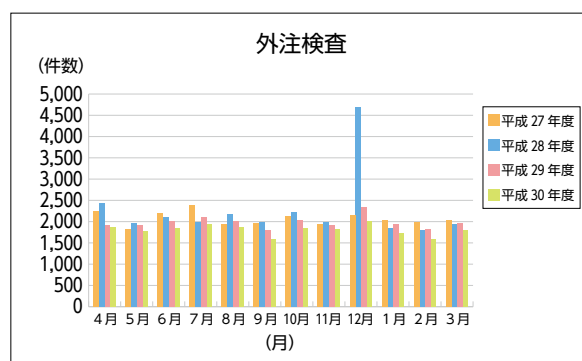
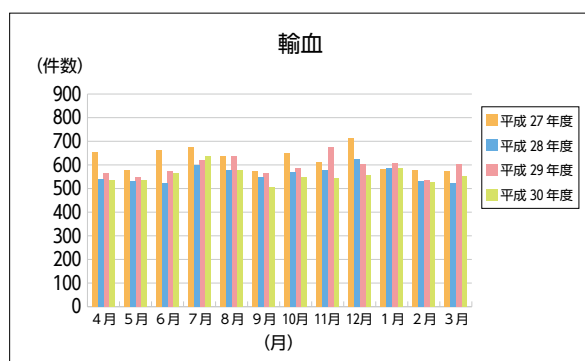
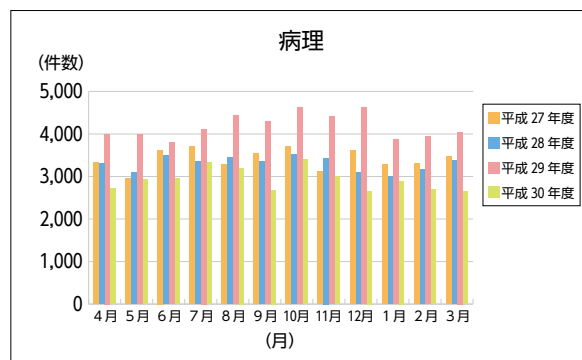
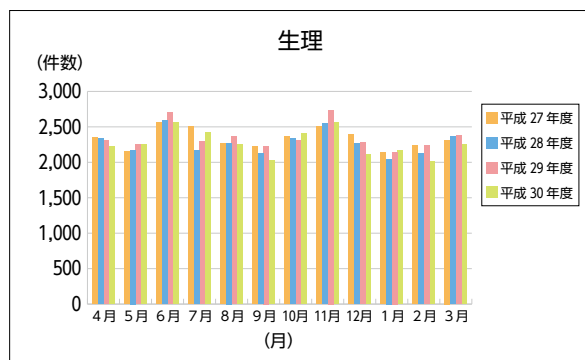
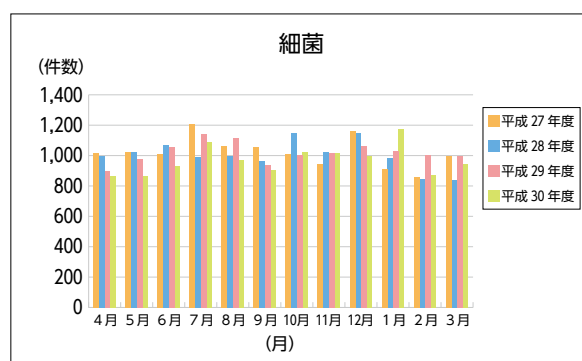
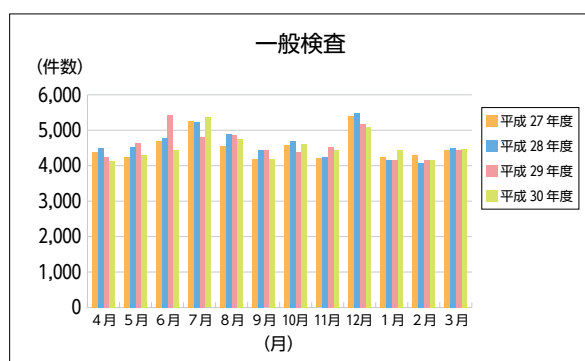
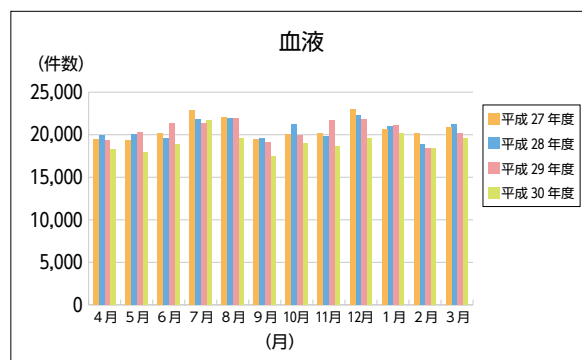
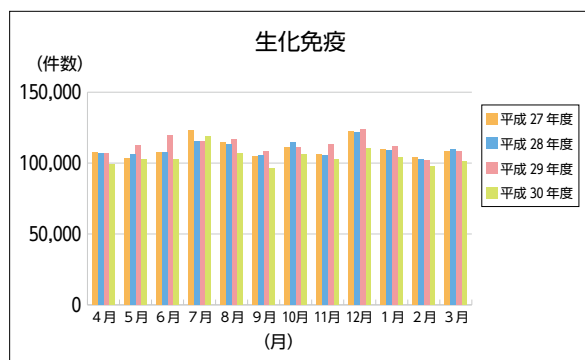
2. 中央検査部

< 30 年度活動 >

開院当初からの更新されていない機器も徐々に更新されてきています。

昨年度は、輸血検査部門システムが更新され、今年度は、検体検査部門システム、細菌検査部門システム、病理検査部門システムが更新の予定です。

中央検査部として、各部門のハード、ソフト、教育と脆弱なところを強化していきたいと思います。本年度も、更新に向けていろいろ準備をしていきたいと思います。



3. 放射線部

<平成 30 年度の活動>

平成 30 年度はアクションプランとして脳神経外科領域の検査・治療対応を目標としており、症例経験の少ない中、初期対応として所属技師 13 名全員が可能となった。

また血管造影撮影機器の更新があり、画像処理・撮影プロトコルなど新しい手法に順次対応し脳神経外科 IVR への早期対応をおこなった。

核医学ではオクトレオスキャン 111In の新規導入をおこない、運用開始した。

通常業務として、表 1 の通りの撮影件数を 13 名＋非常勤 2 名で行い、特に委託検査の受入れを重視し、基本的には断らない方針で対応した。

手術室内に大型画像参照モニターを設置、電子カルテと接続運用を開始した。これに伴い手術室内でのフィルムは撤廃、フィルムレスとした。

<今後の展望>

令和元年度には、CT の更新が予定されているため、現在救急 CT に偏っている状態を改め、対応検査数の増大を見込んでいる。また更新に伴って検査自体を見直し、検査の標準化と検査枠再編を検討したい。

MRI 検査は一日の検査数は限界に近く、時間外で対応しなくてはならない状況が続いているため、早期に MRI 増設を実現させ、依頼元の要望に応えられるようにしたい。

平成 30 年度実施件数

撮影分類		201804	201805	201806	201807	201808	201809	201810	201811	201812	201901	201902	201903	計
通常	CT	584	596	652	587	597	504	620	575	547	541	568	572	6943
	MRI	317	346	349	361	310	283	347	334	319	296	318	328	3908
	RI	61	62	80	85	72	70	83	67	62	68	58	78	846
	TV	29	54	40	43	46	28	45	27	40	42	38	31	463
	乳腺撮影	444	540	554	534	512	493	689	581	517	500	421	583	6368
	一般撮影	4767	5045	5032	5214	5303	4575	4942	5057	6152	4944	4962	5228	61221
	血管造影室	75	72	76	69	74	60	70	77	72	77	69	69	860
	骨密度測定	335	342	295	329	250	270	336	337	329	313	291	348	3775
	歯科撮影	181	145	162	149	181	153	156	157	159	119	159	172	1893
	手術室撮影	286	246	294	303	312	269	332	283	276	273	275	310	3459
	泌尿器系 破砕含む	38	34	35	26	35	20	34	30	30	46	36	44	408
	病室撮影	409	420	415	362	342	340	348	288	316	513	465	386	4604
通常計		7526	7902	7984	8062	8034	7065	8002	7813	8819	7732	7660	8149	94748
緊急	CT	933	962	990	1097	1049	1013	1051	1105	1108	1047	986	1166	12507
	MRI	25	38	34	42	33	33	44	49	40	44	36	46	464
	RI	0	3	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	9
	TV	42	28	36	57	43	33	33	36	37	39	38	40	462
	乳腺	2	1	0	2	0	3	2	0	0	0	0	0	10
	一般撮影	513	644	568	716	745	722	644	737	782	762	538	638	8009
	血管造影室	29	28	28	28	27	21	27	28	27	44	31	21	339
	骨密度測定	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	6
	歯科撮影	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	手術室撮影	11	21	10	25	12	15	14	16	18	12	24	9	187
	泌尿器系 破砕含む	0	4	10	10	9	4	7	4	9	2	4	6	69
	病室撮影	61	64	55	37	59	54	58	55	64	85	61	96	749
緊急 計		1616	1798	1731	2015	1978	1899	1880	2031	2085	2038	1719	2022	22812
総計		9142	9700	9715	10077	10012	8964	9882	9844	10904	9770	9379	10171	117560

(表 1)

平成 30 年度 委託検査実施件数

委託検査		201804	201805	201806	201807	201808	201809	201810	201811	201812	201901	201902	201903	計
通常	CT 室	69	65	75	71	66	66	76	74	73	60	69	72	836
	MRI 室	135	132	145	147	93	97	131	119	120	110	121	126	1476
	RI 室	5	5	12	8	10	6	7	11	5	8	6	8	91
	TV 撮影室	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
	乳腺撮影室	4	10	4	7	1	1	2	3	2	9	14	4	61
	一般撮影	65	69	65	63	55	64	88	94	64	37	68	95	827
	骨密度測定	68	82	66	60	42	57	54	58	52	56	49	56	700
通常計		293	304	308	302	212	240	278	288	260	244	262	270	3261
緊急	CT 室	63	61	65	63	55	64	87	93	62	34	68	95	810
	MRI 室	1	3	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	9
	乳腺撮影室	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	骨密度測定	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	6
緊急 計		65	69	65	63	55	64	88	94	64	37	68	95	827
総計		358	373	373	365	267	304	366	382	324	281	330	365	4088

(表 2)

4. 臨床工学科

<平成 30 年度の活動>

従来業務の血液浄化業務、補助循環業務、人工呼吸器関連業務、心臓カテーテル関連業務、手術室関連業務、医療機器管理業務に加え、平成 30 年度より、脳血管内カテーテル業務と PSG 業務を開始している。

平成 24 年度から開設した CE 中央管理センターでは、93 機種・約 900 台の保守管理を行っており、その内、中央管理化している 15 機種・約 360 台については、清掃・日常点検後に貸出業務を実施している。

他職種の卒後教育プログラムの依頼を受け、初期研修医に対しての医療機器コアレクチャーや看護部卒後教育の医療機器勉強会を行っている。また、新規購入機器の中心に医療機器安全使用研修を随時行っている。

血液浄化業務

	16 年	17 年	18 年
HD	67	60	85
CHDF	155	86	169
PMX	12	11	18
PE	0	14	1
DHP	1	1	0
腹水ろ過濃縮	16	33	35
LCAP	89	81	78
ビリルビン吸着	0	7	2

補助循環業務

	16 年	17 年	18 年
PCPS (V-V 含む)	59	48	44
IABP	56	46	30

心臓カテーテル関連業務

	16 年	17 年	18 年
CAG	363	391	375
PCI	469	489	411
カテ直接介助	630	695	671
PM 植え込み	32	36	36
PM 交換	17	16	9
TPM	33	29	14
その他	45	44	53
電気生理	21	18	21
PM チェック	528	534	706 (18 年度より、 遠隔モニタリ ングを含む)

手術室関連業務

	16 年	17 年	18 年
スリーパー業務	26	0	7
整外ナビゲーション	21	6	0
手術機器トラブル依頼	427	230	226
OR 機器点検	9171	8999	8807
麻酔器	3970	3857	3684
内視鏡システム	1445	1391	1332
電気メス	2132	2176	2288
ソノサージ	917	919	921
ハーモニック	707	656	582
自己血回収	49	35	37

人工呼吸器関連（平均稼働）

	16 年	17 年	18 年
人工呼吸器（17 台）	44.3%	50.7%	44.4%
非侵襲人工呼吸器 V60（3 台）	17.6%	32.7%	19.8%
高流量システム NHF（3 台）	28.1% (2 台運用時)	27.1%	30.7%
PSG 業務			18 件

脳血管内カテーテル関連業務

	18 年
造影検査	9
コイル塞栓術	8
血栓回収術	3
経動脈ステント留置術（CAS）	1
経皮的血管拡張術（PTA）	1

中央貸出機器

2016 年

シリンジポンプ	2483
輸液ポンプ	3381
栄養ポンプ	324
人工呼吸器	468
フットポンプ	855
ハマサーボドレイン	219
超音波ネブライザ	478
レスピフロー	30
非侵襲人工呼吸器	122
体外式ペースメーカー	26

2017 年

シリンジポンプ	2855
輸液ポンプ	3753
栄養ポンプ	364
人工呼吸器	529
フットポンプ	805
ハマサーボドレイン	182
超音波ネブライザ	492
レスピフロー	115
ハイフローセラピー	48
非侵襲人工呼吸器	149
体外式ペースメーカー	33
ベッドサイドモニター	6
送信機	7

2018 年

シリンジポンプ	2505
輸液ポンプ	3641
栄養ポンプ	292
人工呼吸器	460
フットポンプ	844
電動低圧吸引器	175
超音波ネブライザ	579
レスピフロー	97
ハイフローセラピー	64
非侵襲人工呼吸器	111
体外式ペースメーカー	15
ベッドサイドモニター	16
送信機	12
EV1000	21

医療機器安全使用研修 開催数

	16 年	17 年	18 年
医療機器安全研修	21	41	33

<今後の展望>

病院事業計画に沿って、心臓血管外科開設の準備に着手している。臨床工学科が担う、人工心肺業務とステントグラフト術介助業務を速やかに就業し、心臓血管外科症例が円滑に開始される様に、各関係部署との業務調整を行う。更なる業務依頼があれば、科員数に沿った業務拡大を行いたい。

5. リハビリテーション部

<平成 30 年度の活動>

昨年度の展望にて、脳神経外科医赴任のためより一層のリハビリ受容は増えるの見込んでおりました。29 年度と比較し約 1800 単位増加しました。脳外科医師との週 1 カンファレンスも開始され、スタッフの知識の向上も進んでいます。

また病院アクションプランの一環で、近隣連携病院のリハ職種同士が集まり、患者様を通して交流を深める取り組みも開始しており、今後の展開が楽しみです。

リハ部門全体集計

	単位数	実患者数
運動器リハ	10,645	864
脳血管リハ	9,884	927
呼吸器リハ	1,777	157
廃用リハ	7,069	681
がんリハ	1,940	260
摂食嚥下	27	3
合 計	31,342	2,892

理学療法

新患者数

科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科（入院）	31	28	38	12	43	31	33	36	27	31	38	41	389
整形外科（外来）	7	12	11	10	13	10	11	9	7	8	12	15	125
救命部	34	30	33	21	35	31	35	41	40	44	35	39	418
外科	14	16	12	6	20	15	18	21	11	18	20	15	186
脳外科	1	3	2	3	4	5	11	2	4	9	12	8	64
呼吸器内科	3	7	6	2	3	3	4	2	5	9	3	7	54
循環器内科	3	3	0	0	3	2	1	1	4	3	3	2	25
消化器内科	7	3	1	1	2	1	10	2	6	3	5	6	47
免疫内科	0	0	5	1	0	2	0	1	1	0	2	1	13
糖尿病内科	5	2	11	0	2	3	1	2	2	0	0	2	30
泌尿器科	0	0	0	1	1	1	1	1	3	0	1	1	10
歯科，婦人科	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
合 計	105	105	119	57	126	105	125	118	110	126	131	137	1,364

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	739	684	1,058	768	889	846	797	937	735	683	944	992	10,072
脳血管リハ	288	527	360	277	331	266	266	310	352	402	642	561	4,582
呼吸器リハ	216	238	139	119	153	48	94	67	104	194	140	213	1,725
廃用リハ	350	400	261	439	404	422	612	320	321	386	273	395	4,583
がんリハ	222	152	152	138	133	127	184	185	162	158	120	131	1,864
合 計	1,815	2,001	1,970	1,741	1,910	1,709	1,953	1,819	1,674	1,823	2,119	2,292	22,826

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	59	51	70	61	71	68	66	73	62	58	76	85	800
脳血管リハ	26	31	30	24	27	26	27	32	22	35	46	46	372
呼吸器リハ	16	18	18	10	9	6	7	9	16	15	10	14	148
廃用リハ	26	32	27	38	38	36	46	39	35	35	41	42	435
がんリハ	25	18	15	17	18	18	22	24	23	17	18	15	230
合 計	152	150	160	150	163	154	168	177	158	160	191	202	1,985

外 来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ－単位数	176	189	174	202	213	195	212	189	139	136	128	174	2,127
運動器リハ－実患者数	44	39	41	40	40	38	39	41	40	29	29	36	456

作業療法

新患者数

科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科（入院）	2	1	0	0	1	3	1	0	3	2	0	1	14
整形外科（外来）	0	3	1	2	1	2	2	3	2	3	2	4	25
救命部	18	18	9	9	11	8	15	19	14	17	9	13	160
外科	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	4
脳外科	1	2	2	3	2	5	9	2	4	9	9	5	53
呼吸器内科	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
循環器内科	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
消化器内科	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
免疫内科	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
糖尿病内科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	28	24	13	16	18	21	29	24	23	32	20	23	271

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	34	44	59	30	39	57	62	39	46	54	66	43	573
脳血管リハ	108	150	113	173	208	148	171	191	150	183	157	192	1,944
呼吸器リハ	10	6	2	5	24	5	0	0	0	0	0	0	52
廃用リハ	90	70	32	66	49	38	102	54	59	50	23	18	651
がんリハ	21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	29
合 計	263	275	206	274	320	248	335	284	255	287	248	254	3,249

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	6	7	5	4	3	5	6	4	6	8	6	4	64
脳血管リハ	19	24	17	18	19	16	20	27	18	24	22	27	251
呼吸器リハ	3	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	9
廃用リハ	12	11	5	8	6	4	9	4	6	6	4	3	78
がんリハ	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	25
合 計	44	45	28	31	30	26	35	35	30	38	33	52	427

外 来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ－単位数	27	14	16	14	16	22	13	22	18	13	22	30	227
運動器リハ－実患者数	4	4	4	4	5	7	5	7	6	7	8	10	71

言語聴覚療法

新患者数

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科（入院）		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
整形外科（外来）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救命部		15	17	11	10	15	13	13	20	15	21	14	14	178
外科		1	1	0	0	2	1	3	1	1	0	0	0	10
脳外科		1	3	2	3	3	5	11	2	4	8	10	7	59
呼吸器内科		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
循環器内科		3	0	1	2	2	2	0	3	0	0	1	0	14
消化器内科		0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	1	1	8
免疫内科		0	0	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0	8
糖尿病内科		0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
泌尿器科		0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
歯科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		20	21	18	16	22	26	31	30	21	32	26	22	285

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	180	367	289	191	325	206	250	264	243	313	377	353	3,358
廃用リハ	94	92	93	196	176	219	252	201	185	110	85	132	1,835
がんリハ	25	0	0	4	0	0	0	2	0	11	5	0	47
合 計	299	459	382	391	501	425	502	467	428	434	467	485	5,240

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	18	28	21	21	24	22	23	30	19	29	35	34	304
廃用リハ	11	8	10	18	15	14	22	18	17	13	11	11	168
がんリハ	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	5
合 計	30	36	31	40	39	36	45	49	36	43	47	45	477

摂食嚥下療法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
介入回数	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	0	1	27
実患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3

<今後の展望>

病院目標である地域の皆様に信頼され喜ばれる急性期病院として、連携強化・入院期間短縮、患者層の変化など、リハ部を取り巻く環境が刻々と変化しています。そこに遅れを取らぬよう、情報には敏感に対策を立てて対応していきたいです。

6. 心大血管疾患リハビリテーション科

<平成 30 年度の活動>

医師 1 名、専任看護師 1 名、専従理学療法士 2 名、クラーク 1 名で業務を行っている。急性心筋梗塞・心不全を中心とした循環器疾患患者に介入し、病態に応じてベッドサイドからの介入も開始している。それに伴い高齢患者・心不全患者の割合が上昇した(別表 1)。運動耐容能や患者背景が多様化しており、目標設定や介入方法の見直し、情報共有を多職種間で積極的に行っている。

(別表 1)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
エントリー患者平均年齢	68.8 歳	71.0 歳	73.7 歳
75 歳以上患者	39.1%	46.5%	52.8%
心不全患者	39.5%	47.9%	53.3%
心大血管リハビリエントリー	184 件	177 件	199 件

<今後の展望>

従来の心リハの主目的は再発予防に向け「患者教育を行い、自己管理能力を高める」ことであったが、認知機能低下やサルコペニア・フレイルを合併した高齢者では困難となる。個々の患者に応じた目標設定や介入方法の共通認識を早期から介入して持っていくことが重要となる。

7. 栄養科

<平成 30 年度の活動>

入院食事満足度の向上に力を入れ、給食委託業者と協同し「献立の見直し」を実施した。行事食を年 24 回取り入れ HACCP に基づく衛生管理を行い、安全で美味しい食事の提供を目指した。

入院患者全員を対象とし栄養計画書を作成、外来・入院の栄養指導を実施し病態に応じた栄養管理を行った。又、集団栄養指導や栄養教室も開催し、地域貢献への活動を行った。

〔給食委託業者：富士産業（株）〕

〈実績〉

(1) 実施給食数

年 月	常 食	軟菜食	流動食	特別食 (加算食)	特別食 (非加算食)	合 計	1 食 平均食数
平成 28 年度	61,819	36,002	950	112,272	26,809	237,852	217
平成 29 年度	63,388	38,134	1,171	90,208	42,672	235,573	215
平成 30 年度	59,918	33,625	1,172	82,479	42,395	219,589	201

(2) 栄養指導件数

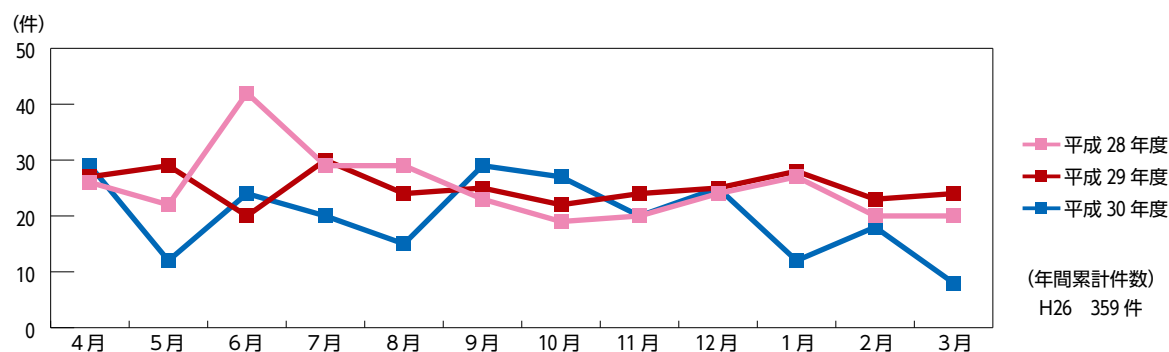
①個人栄養指導疾患別指導件数

年 月	肝臓病	胃・十二指腸潰瘍	消化管術後	炎症性腸疾患	腎臓病	糖尿病	糖尿病腎症	脾臓病	高血圧	脂質異常症	貧 血	心臓病	その他	合 計	月平均
平成 28 年度	94	28	90	6	10	364	27	33	54	74	5	-	329	1114	92.8
平成 29 年度	71	18	91	8	17	354	35	28	39	51	8	-	302	1022	85.2
平成 30 年度	59	19	98	8	18	346	26	21	31	39	13	178	93	949	79.1

②糖尿病集団栄養指導件数

年 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成 28 年度	8	11	5	8	3	7	10	7	9	8	6	7	89
平成 29 年度	3	7	11	8	7	10	9	5	4	3	3	3	73
平成 30 年度	4	5	9	3	1	3	2	4	3	1	1	0	36

(3) ベッド訪問件数



(4) 実施行事食

月 日	内 容	月 日	内 容
1 4月11日	筍ご飯、花見（桜まんじゅう）	13 10月17日	栗ご飯、さんま
2 5月5日	こどもの日（助六寿司）	14 11月23日	勤労感謝の日（散らし寿司）
3 5月30日	創立記念日（赤飯）	15 12月22日	冬至（南瓜料理）
4 6月12日	古代米・水無月菓子	16 12月24日	クリスマス料理
5 7月7日	七夕（そうめん）	17 12月31日	大晦日（年越しそば）
6 7月20日	土用の丑の日	18 1月1日	おせち料理
7 8月4日	夏野菜カレー	19 1月2日	おせち料理
8 8月21日	冷麺	20 1月3日	おせち料理
9 8月25日	蕨餅	21 1月7日	七草粥
10 9月17日	敬老の日（散らし寿司）	22 1月10日	鏡開き（白玉団子）
11 9月24日	お月見（月見団子）	23 2月3日	節分（助六寿司）
12 10月8日	体育の日	24 3月3日	ひな祭り（散らし寿司）

(5) 実習・研修受入れ / 他

実習・研修内容	施設名	人 数	受入れ期間
管理栄養士臨床栄養実習	羽衣国際大学	2名	H30年9/3～9/14
	金蘭大学	2名	H31年1/28～1/8
	羽衣国際大学	2名	H31年2/25～3/8

教室名	テーマ	日 時	場 所	参加者
栄養教室	フレイルとサルコペニアってなに？低栄養を予防しよう！	H30年9/11 13:00～14:00	会議室1	12名

<今後の展望>

食事内容の見直しを継続的に図り、治療の一環として貢献していきたいと考える。患者さんに寄り添った給食管理・栄養管理の実施を目指す。又、次年度は新しい部門管理システムの導入を予定しており、速やかなシステムの移行・運用を行えるよう体制を整える。

8. 患者支援センター

(1) 紹介・逆紹介率

平成 30 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
A：紹介患者の数	1,153	1,189	1,257	1,254	1,130	1,015	1,314	1,243	1,168	1,061	1,143	1,291	14,218
V：すべての初診患者の数	1,823	1,899	1,985	2,136	1,977	1,735	2,054	1,968	2,012	1,957	1,806	2,050	23,402
d：救急搬入患者の数 (初診患者)	206	205	233	276	228	236	252	269	276	263	233	299	2,976
e：休日夜間の患者の数 (初診患者)	139	237	218	176	96	133	242	242	322	431	215	212	2,663
f：健康診断の受診から要治療 となって治療を開始した患 者の数 (初診患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C：逆紹介患者の数	890	1,013	983	1,019	935	892	1,198	1,217	1,162	1,033	1,008	1,233	12,583
紹 介 率 $A / (V - d - e - f)$	78.0%	81.6%	81.9%	74.5%	68.4%	74.3%	84.2%	85.3%	82.6%	84.0%	84.2%	83.9%	80.0%
逆紹介率 $C / (V - d - e - f)$	60.2%	69.5%	64.1%	60.5%	56.6%	65.3%	76.8%	83.5%	82.2%	81.8%	74.2%	80.1%	70.8%

(2) 登録医師数及び登録医療施設数

登録医数 H31 年 3 月 31 日付

	登録人数合計	吹田市	豊中市	その他
医科	474 名	230 名	167 名	85 名
歯科	266 名	134 名	100 名	33 名
合 計	740 名	364 名	267 名	118 名

登録施設数

	登録施設数合計	吹田市	豊中市	その他
医科	416	206	145	71
歯科	220	103	86	33
合計	636	309	231	104

(3) ICT＜地域医療連携システム 千里 e サークル＞ 状況

	3月 (プレ)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登録施設数	6	2	2	3	3	1	1	2	3	5	0	0	0	28
登録患者数	79	30	44	57	21	21	17	35	13	15	8	15	7	362

※登録患者数はその月に登録された施設の登録患者数累計

Ⅶ. 医療社会事業状況

1. 患者相談実績

新規相談

10,771 件

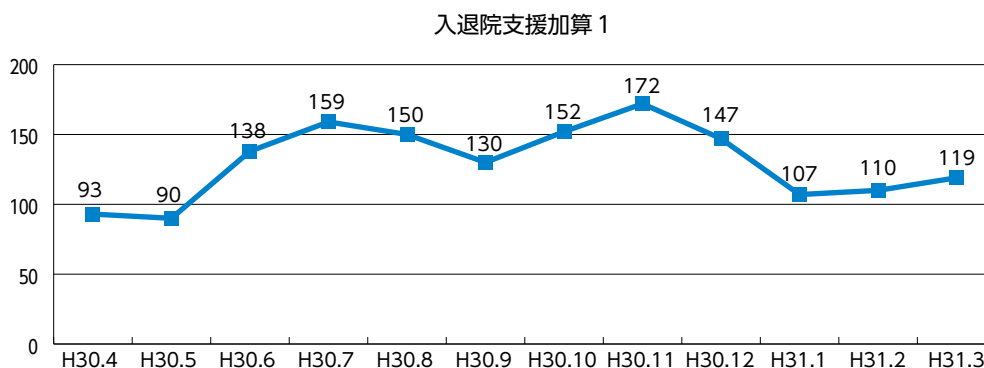
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
経済的相談	94	80	99	84	101	80	83	74	77	64	73	93	1,002
患者支援相談	1,081	1,131	1,170	1,199	1,146	1,045	1,158	1,137	1,090	1,101	1,023	1,088	13,369
												合計	14,371

経済的相談 無料低額診療事業の利用など
 患者支援相談 転院・入所
 在宅療養支援
 その他の制度についての相談

2. 退院支援関係

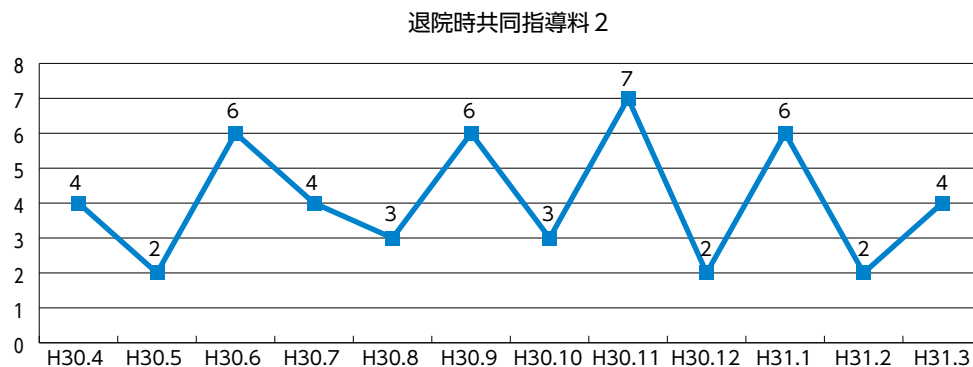
入退院支援加算 1

H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3	計
93	90	138	159	150	130	152	172	147	107	110	119	1567



退院時共同指導料 2

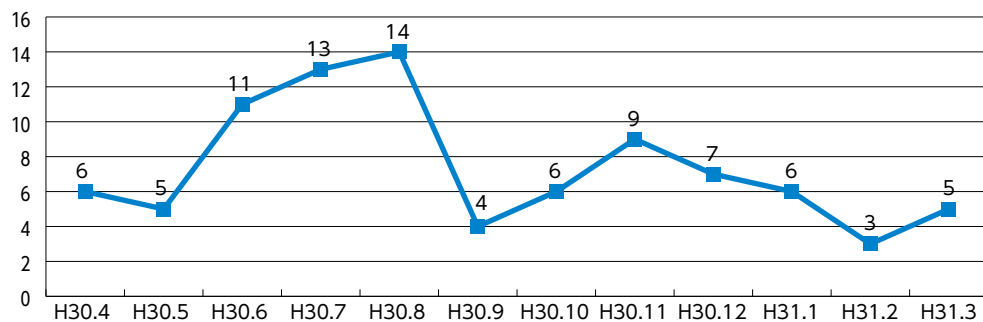
H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3	計
4	2	6	4	3	6	3	7	2	6	2	4	49



介護支援等連携指導料

H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3	計
6	5	11	13	14	4	6	9	7	6	3	5	89

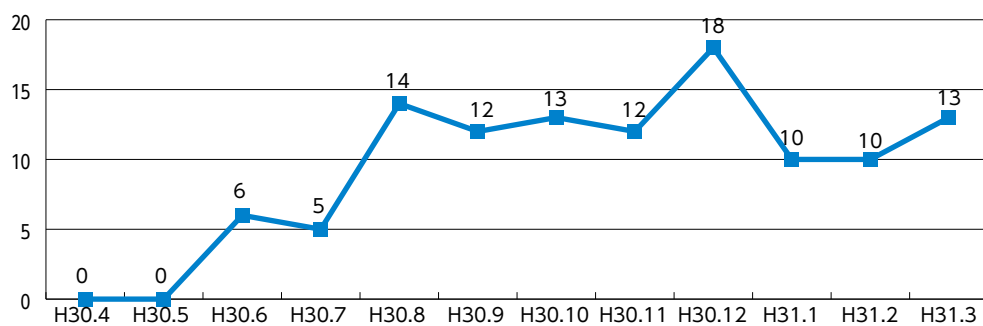
介護支援等連携指導料



入院時支援加算

H30.4	H30.5	H30.6	H30.7	H30.8	H30.9	H30.10	H30.11	H30.12	H31.1	H31.2	H31.3	計
0	0	6	5	14	12	13	12	18	10	10	13	113

入院時支援加算



3. 無料低額診療事業関係

無料低額診療事業総相談件数：1,002 件

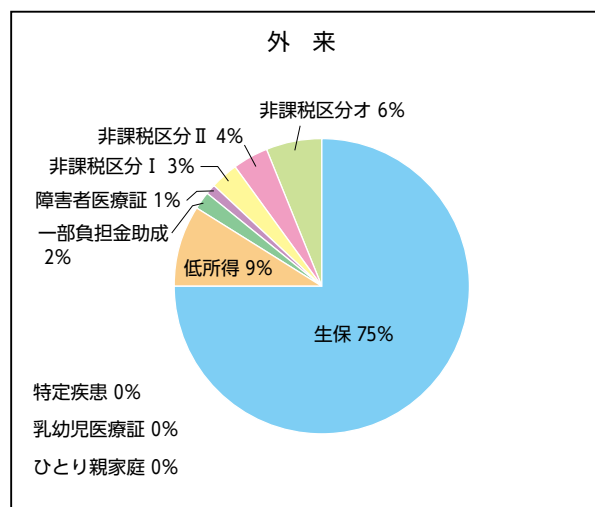
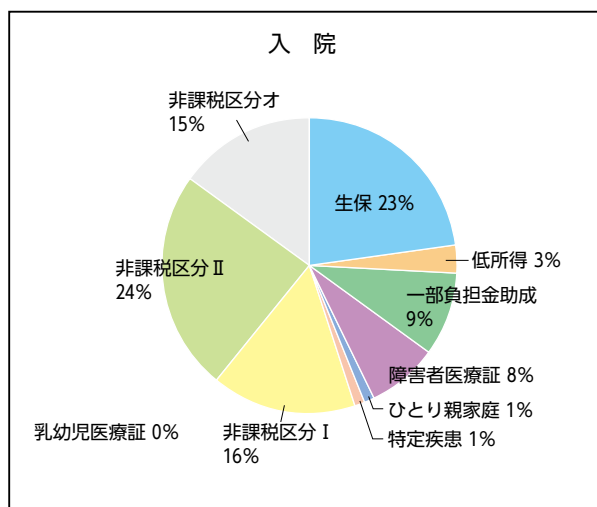
無料低額診療事業実績：9.30%

<月別内訳>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (実人数)
総 数	116	116	135	160	185	162	147	164	149	124	129	146	1,733
低 所 得	24	26	23	22	38	26	34	29	21	20	25	33	321
非 課 税	92	90	112	138	147	136	113	135	128	104	104	113	1,412

<保険種別>

	入院	外来	延患者数
生 保	3,908	4,033	7,941
低 所 得	522	482	1,004
一部負担金助成	1,530	87	1,617
障害者医療証	1,316	36	1,352
ひとり親家庭	182	15	197
乳幼児医療証	3	0	3
特 定 疾 患	201	15	216
非課税区分Ⅰ	2,637	131	2,768
非課税区分Ⅱ	4,077	228	4,305
非課税区分才	2,433	326	2,759
	合計		22,162



Ⅷ. 初期臨床研修

1. ロテーションスケジュール

二年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
泉 はるか	泌尿器	泌尿器	地域	精神	総合/ 呼吸器	総合/ 呼吸器	泌尿器	泌尿器	麻酔	麻酔	放射線 科	整形	
田中 里穂	産婦	地域	精神	放射線 科	内科 (消)	内科 (消)	麻酔	麻酔	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	総合/ 消化器	総合/ 消化器	
中松 恵利佳	麻酔	麻酔	精神	救命	救命	地域	外科	外科	総合/ 循環器	総合/ 循環器	麻酔	麻酔	
南 有紀	外科	外科	総合/ 呼吸器	総合/ 呼吸器	麻酔	麻酔	放射線 科	総合/ 呼吸器	整形	精神	地域	内科 (循)	
本吉 俊貴	総合/ 呼吸器	総合/ 呼吸器	放射線 科	精神	整形	整形	整形	地域	内科 (消)	内科 (消)	麻酔	麻酔	

一年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
大谷 温巳	内科 (糖)	内科 (糖)	内科 (循)	内科 (循)	外科	内科 (消)	内科 (消)	産婦	小児	救命	救命	救命	
崔 煌植	内科 (消)	内科 (消)	外科	産婦	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	救命	救命	救命	小児	内科 (循)	内科 (循)	
新田 彩巴	内科 (呼)	内科 (呼)	産婦	救命	救命	救命	小児	外科	内科 (循)	内科 (循)	内科 (消)	内科 (消)	
松本 竜司	内科 (循)	内科 (循)	小児	救命	救命	救命	産婦	内科 (消)	内科 (消)	外科	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	
米田 瑛	内科 (循)	内科 (循)	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	産婦	小児	内科 (消)	内科 (消)	外科	救命	救命	救命	
今西 大樹	救命	救命	救命	内科 (循)	内科 (循)	産婦	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	内科 (消)	内科 (消)	外科	小児	大阪市立大学 たすきがけ
関瀬 大輔	救命	救命	救命	内科 (消)	内科 (消)	外科	内科 (循)	内科 (循)	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	小児	産婦	大阪市立大学 たすきがけ
増田 寛雄	救命	救命	救命	内科 (消)	内科 (消)	内科 (循)	内科 (循)	小児	内科 (糖)	内科 (糖)	産婦	外科	大阪市立大学 たすきがけ
劉 志文		内科 (消)	内科 (消)	小児	内科 (循)	内科 (循)	救命	救命	救命	産婦	内科 (呼・免)	内科 (呼・免)	大阪大学 たすきがけ

2. 研修管理委員会・研修管理運営委員会 開催状況

日付	委員会名	議 題	出欠
平成 30 年 6 月 25 日	初期臨床研修 管理運営委員会	新委員の紹介 研修医ローテーションの変更について 6 月以降の呼吸器内科研修について（報告） MRM 部会のラウンド参加について 卒後臨床研修評価機構 書面調査について 報告及び今後の予定	出席：14 名 欠席：7 名
平成 30 年 10 月 5 日	初期臨床研修 管理委員会	新委員の紹介 研修医スケジュールの変更について 研修スケジュールの変更時の手順について 平成 29 年度 初期臨床研修医および看護指導者による「研修環境評価表」のフィードバックについて 研修医による指導医評価の実施について 総合初期研修科に対する評価について 履修状況についての報告 卒後臨床研修評価機構 書面調査の結果について 「医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する政令の施行について」の一部 大阪府 研修医の募集定員に関わる最終配分調整の結果について 今後の予定及び報告 その他	出席：13 名 （外部委員 の欠席者か らは委任状 あり：6 名） 欠席：13 名
平成 31 年 2 月 1 日	初期臨床研修 管理運営委員会	平成 31 年度 研修スケジュール（案）について 2020 年度 医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する政令の施行について 地域研修先について 平成 30 年度 研修医アンケート結果について（H29.10 実施） 基本的手技マニュアルについて 平成 32 年度プログラム改訂に向けてのお願い	出席：15 名 欠席：5 名
平成 31 年 3 月 15 日	初期臨床研修 管理委員会	平成 29 年度 初期臨床研修医の修了判定及び再評価について 平成 30 年度 初期臨床研修医の履修状況中間報告及び再評価について クリニカルスキルテスト結果報告 平成 31 年度 研修スケジュールについて 総合初期研修科の研修について 地域研修先について 平成 32 年度 初期臨床研修プログラムの改訂について 臨床研修理念および基本方針の検討 臨床研修病院としてのあり方について 指導者リスト及び評価対象の見直しについて 当直回数について 平成 31 年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動について（報告）	出席：13 名 （外部委員 の欠席者か らは委任状 あり：4 名） 欠席：13 名

Ⅸ. 業績

1. 学会発表

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
外科			
1) 多発肝転移を伴う直腸癌に対する化学療法中に発症した Stevens-Johnson 症候群の 1 例	深田唯史	第 40 回日本癌局所療法研究会	H30.5.15
2) 局所療法で病勢をコントロールし得た ER 陰性 HER2 陽性局所進行高齢者乳癌の一例	吉岡節子	第 40 回日本癌局所療法研究会	H30.6.15
3) 下部直腸粘膜内癌に対する経肛門的切除後発症した縦隔気腫・後腹膜気腫症の一例	真貝竜史	第 40 回日本癌局所療法研究会	H30.6.15
4) 子宮内膜症と成人女性鼠径部ヘルニア	福崎孝幸	第 16 回日本ヘルニア学会学術集会	H30.6.29
5) 大腿ヘルニア嵌頓症例の検討	伊藤善郎	第 16 回ヘルニア学会学術集会	
6) 大腸切除術翌日から食事提供を開始する ERAS プロトコールにおける PONV 対策と課題	真貝竜史	日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会	H30.7.5
7) 一般地域病院における小腸腫瘍の発見治療状況の検討	真貝竜史	第 89 回大腸癌研究会	H30.7.6
8) 直腸癌周術期管理において術翌日から食事提供を行う ERAS プロトコールの周術期合併症の検討	真貝竜史	第 73 回日本消化器外科学会総会	H30.7.11
9) 当院において待機的手術を行った後腹膜膿瘍合併大腸癌 4 症例の後方視的検討	伊藤善郎	第 73 回日本消化器外科学会総会	H30.7.12
10) 原発性虫垂腫瘍 9 例に対する臨床病理学的検討	深田唯史	第 73 回日本消化器外科学会総会	H30.7.13
11) Larynx-preserving surgery for cervical esophageal cancer using intraoperative endoscopic submucosal dissection: a case report	谷口嘉毅	ISDE	H30.9.18
12) 大阪府における甲状腺癌の偶然発見の増加	豊田泰弘	第 51 回日本甲状腺外科学会学術集会	H30.10.26
13) 虫垂周囲膿瘍保存的加療における問題点	福崎孝幸	第 73 回日本大腸肛門病学会	H30.11.9
14) 憩室出血に対するバリウム充填後直腸に巨大なバリウム塊を形成した一例	深田唯史	第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会	H30.11.9
15) 臍断端陥入式臍胃壁マットレス縫合における臍陥入不全防止の工夫	伊藤善郎	第 80 回日本臨床外科学会総会	H30.11.22
産婦人科			
1) 当科における Reduced Port Surgery での腹腔鏡下筋腫核出術の検討	大上健太	第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	H30.8.3
2) Reduced port TLH ～完遂に影響する因子について～	武曾博	第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	H30.8.4
3) Expression of UCP2 is associated with sensitivity to platinum-based chemotherapy for ovarian serous carcinoma.	井上裕太	23rd World Congress on Advance in Oncology	H30.9.20
4) Protective effect of magnesium supplementation on cisplatin-induced renal toxicity.	井上裕太	17th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY	
5) Reduced port TLH の定型化に向けて～子宮動脈本管切断、尿管剥離の必要性について～	武曾博	第 31 回日本内視鏡外科学会総会	H30.12.7

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
歯科口腔外科			
1) C 型肝炎患者における口腔扁平苔癬の 1 例	岸本聡子	第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会	H30.11.2
2) 頸部郭清術後に発症した乳糜胸の 2 例	松宮由香	第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会	H30.11.3
3) Numb chin 症候群を契機に発見されたパーキットリンパ腫の 1 例	金崎朋彦	第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会	H30.11.4
4) 顎下リンパ節の腫脹を契機に診断に至った血管免疫芽球形 T 細胞リンパ腫の 1 例	松宮由香	第 37 回日本口腔腫瘍学会総会・学術集会	H31.1.25
消化器内科			
1) 5-ASA 製剤による薬剤性肺炎の 1 例	岡部悟	第 9 回日本炎症性腸疾患学会	H30.11.22
免疫内科			
1) ゴリムマブ (GLM) 投与中に器質化肺炎 (COP) を合併したためトシリズマブ (TCZ) にスイッチしたが、効果不十分のためセルトリズマブ・ペゴル (CZP) に再度スイッチし奏功している 1 例	松下正人	第 62 回日本リウマチ学会	H30.4.28
2) 多発筋炎を合併した関節リウマチに対するアバタセプト、トシリズマブの使用経験	松下正人	第 67 回日本アレルギー学会	H30.6.22
小児科			
1) BCG 接種後腋窩リンパ節炎を生じ、メンデル遺伝子型マイコバクテリア感染症 (MSMD) が判明した 1 例	山本なぎさ	第 32 回近畿小児科学会	H31.3.17
初期臨床研修センター			
1) 右胸水を認めた一例	崔煌植	平成 30 年度 肺覧会	H30.9.29
2) 特発性縦隔気腫を発症した 8 歳男児の 1 症例	新田彩巴	第 85 回北摂小児科医会	H30.12.15
3) 胸水を来したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (diffuse large B-cell lymphoma;DLBCL) の 1 例	崔煌植	日本内科学会第 223 回近畿地方会	H31.3.2
4) 縦隔気腫の 8 歳男児例	増田寛雄	第 32 回近畿小児科医会	H31.3.17
整形外科			
1) Oxford 型 UKA 後に mobile bearing Insert の後方脱転を生じた 1 例	福嶋宏隆	第 49 回日本人工関節学会	H30.2.15
2) 術後 2～4 年の VKA 術後脛骨近位骨密度変化	安原良典	第 49 回日本人工関節学会	H30.2.15
3) 脱臼整復時に intra-prosthetic dislocation を生じた Dual mobility cup の 1 例	宅間仁美	第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	H30.10.5
4) Garden 分類 stage1,2 大腿骨頸部骨折に対する Hansson Pinloc による治療成績	安原良典	第 91 回日本整形外科学会学術集会	H30.5.24
5) 高齢女性の上腕骨近位端骨折 AO typeC に対する DePuySynthes PHILOS plate の治療成績	永井洋輔	第 44 回日本骨折治療学会	H30.7.7
6) 骨接合術を施行した非転位型大腿骨頸部骨折における整復位と骨頭壊死の関係性	福嶋宏隆	第 131 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	H30.10.5
7) 鎖骨骨幹部骨折に対する保存療法後偽関節の 2 例	馬野雅之	第 131 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	H30.10.5
8) Open reduction of the distal radius > 4 weeks after physeal injury : A report of three cases	馬野雅之	SICOT 39th	H30.10.10
9) Hansson Pinloc fixation in femoral neck fractures with new simple traction technique	安原良典	39th SICOT	H30.10.

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
10) Atypical femoral fractures around a prosthetic joint stem	永井洋輔	ORS ISFR 2018	H30.11.27
11) 大腿骨骨幹部骨折における治療方法と脚長差の検討	宅間仁美	第 29 回日本小児整形外科学会学術集会	H30.12.14
千里救命救急センター			
1) ドクターカー制度のこれまでとこれから～局地災害・多数傷病者事故に対する活動の在り方について～	吉永雄一	第 21 回日本臨床救急医学会	H30.6.1
2) 学校 BLS 教育関連	伊藤裕介	第 21 回日本臨床救急医学会	H30.6.2
3) 多職種による“緩和の心についての勉強会”を通じて	五十嵐佑子	第 23 回日本緩和医療学会学術集会	H30.6.15
4) タイ コンケーン外傷センターでの研修について	尾北賢治	第 32 回日本外傷学会学術集会	H30.6.21
5) 鈍的外傷による右主気管支完全断裂に対して VV-ECMO 下に修復術を施行し救命し得た一例	五十嵐佑子	第 32 回日本外傷学会学術集会	H30.6.21
6) 肺気腫を合併した外傷性両側気胸・多発肋骨骨折に対し集学的治療により軽快した一例	松岡信子	第 32 回日本外傷学会学術集会	H30.6.22
7) 重症外傷に対する extracorporeal membrane oxygenation (ECMO) を使用した 8 例の検討	伊藤裕介	第 32 回日本外傷学会	H30.6.22
8) 喉頭浮腫による窒息で心肺停止に至った遺伝性血管性浮腫 (HAE) の 1 例	森山太揮	第 46 回日本救急医学会総会学術集会	H30.11.19
9) ECPR 症例における、現場滞在時間の遅延に関わる因子の検討	大谷尚之	第 46 回日本救急医学会総会学術集会	H30.11.21
10) ECPR 適応基準の妥当性についての検討	大谷尚之	第 46 回日本集中治療医学会 学術集会	H31.3.1
11) 壊死性筋膜炎の加療中にダプトマイシンが原因と考えられる薬剤性肺炎を来した一例	奥比呂志	第 46 回日本集中治療医学会 学術集会	H31.3.1
12) 脳梗塞の発症を契機に卵巣がんが発見された Trousseau 症候群の 1 例	芹澤響	第 119 回近畿救急医学研究会	H31.3.23
糖尿病内科			
1) 糖尿病患者における動脈硬化と下部尿路症候は相関するか (PWV 及び IPSS を利用した検討)	星歩	第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会	H30.5.26
2) 糖尿病患者の血清クレアチニン値の季節変動幅は腎機能の予測因子となる	星歩	第 223 回近畿地方会	H31.3.2
麻酔科			
1) 高齢妊婦の無痛分娩後の子宮型羊水塞栓症から救命できた 1 例	木西悠紀	第 122 回日本産科麻酔学会	H30.11.23
3 階病棟			
1) 初産婦が抱く不安の変化	井筒歩	第 49 回日本看護学会～ヘルスプロモーション～学術集会	H30.9.20
2) 初産婦が抱く不安の変化	山中万智子	第 49 回日本看護学会～ヘルスプロモーション～学術集会	H30.9.20
5 階病棟			
1) 周術期における看護師の栄養アセスメントについての実態調査	水本麻里亜	第 6 回 大阪府看護学会	H30.12.8
ICU			
1) 大阪北部地震の経験から見た災害研修の成果と課題	植松愛子	第 24 回日本災害医学会総会・学術集会	H31.3.20
2) プレホスピタルにおけるドクターカー看護師の精神的援助	宮西歩	近畿救急医学研究会	H31.3.23

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
救急救命士室			
1) 対テロに関する危機管理教育	大岡聖門	第 24 回日本災害医学会総会・学術集会	H31.3.20
救急病棟			
1) ICLS コースブラッシュアップセミナー	菊地春菜	第 21 回日本臨床救急医学会総会・学術集会	H30.6.2
2) 早期リハビリテーション介入に向けたチーム医療への取り組み	野村由佳	第 118 回近畿救急医学研究会	H30.6.16
3) 院外心停止の救命率向上のために～救急看護の活躍と地域連携～	菊地春菜	第 20 回日本救急看護学会学術集会	H30.10.20
放射線・内視鏡室			
1) 上部内視鏡検査における申し送り内容の実態調査	伊藤和加子	第 6 回大阪府看護学会	H30.12.8
放射線・内視鏡室内視鏡室			
1) 心臓カテーテル検査の見学のシステム構築に向けて～病棟看護師の見学を実施して～	伊藤和加子	CCT2018 (Complex Cardiovascular Therapeutics2018)	H30.10.25
放射線部			
1) 大阪府北部地震に於ける EMIS 緊急時入力を分析する	橘岳志	第 24 回日本災害医学会総会・学術集会	H31.3.18
薬剤部			
1) 全身性 Varicella-Zoster Virus 感染症により多臓器不全を発症した 2 症例	宮脇康至	第 88 回日本感染症学会西日本地方学術集会・第 61 回日本感染症学会中日本地方学術集会・第 66 回日本化学療法西日本支部総会	H30.11.16
リハビリテーション部			
1) 当院乳がん周術期リハビリテーションパス運用における安全性の検証	藤本侑大	第 26 回日本乳癌学会学術総会	H30.5.16
2) 蘇生後脳症患者の歩行獲得に関連する因子の検討	伊藤勇基	第 2 回日本リハビリテーション医学会 秋期学術集会	H30.11.2
臨床工学科			
1) High resolution IVUS [Alta view] の使用経験－プルバックスピードの違いによる計測値の検討	富永篤史	近畿心血管治療ジョイントライブ 2018 (KCJL2018)	H30.4.14
2) High resolution IVUS [Alta view] の使用経験－40MHz との比較－	富永篤史	第 28 回日本臨床工学会	H30.5.27

2. 論文・著書

論 文 名	所 属	氏名
済生会千里病院医学雑誌 第26巻 投稿分		
1) 意味のある作業の実践を試みた転移性脊椎腫瘍を呈した3症例	リハビリテーション部	藤本侑大
2) 災害拠点病院に勤務する看護師の大規模災害発生時の対応に関する意識調査	看護部	岡崎あかね
3) 繰り返す腹痛と蛋白尿にて大量ステロイド投与が必要となったIgA血管炎（Henoch-Schönlein 紫斑病）の1例	呼吸器・免疫内科	森田貴義
4) 肺炎治療中にバセドウ病と診断された一例	小児科	李崇至
5) 日本人糖尿病患者における腹部皮膚厚の検討（インスリン注射針4mmの妥当性の検討を目的として）	糖尿病内科	星歩
6) 小児科患者への臨床心理士介入実績について	臨床心理室	須磨知美
7) 心大血管疾患リハビリテーション科の取り組み	心大血管疾患リハビリテーション科	松浦昭彦
8) 当院作業療法部門1年目の現状と今後の課題	リハビリテーション部	藤本侑大
9) 大阪府済生会千里病院における、がんリハビリテーションの現状と今後の課題－算定開始5年間の経過－	リハビリテーション部	藤本侑大
10) 当院のNST活動の紹介	栄養科	喜多茉莉子
11) 外来患者さんに対するがん薬物療法相談窓口について	薬剤部	西塔志織

論 文 名	掲 載 元	所属	氏名
その他論文関係（医中誌より検索）			
1) 子どもメディカルラリー開催による小学校BLS教育の可能性と地域への影響について	済生会医学・福祉共同研究 (1348-8171) 平成29年度版	救急部	伊藤裕介
2) 日本の高齢患者における偶発的低体温症の有病率と転帰 J-Point レジストリのデータ (Prevalence and outcomes of accidental hypothermia among elderly patients in Japan: Data from the J-Point registry) (英語)	Geriatrics & Gerontology International (1444-1586) 18巻10号	救急部	森田幸子
3) 大阪府における甲状腺癌の偶発的発見例の増加 (Increase in incidental detection of thyroid cancer in Osaka, Japan) (英語)	Cancer Science (1347-9032) 109巻7号	外科	豊田泰弘
4) 頸椎症性脊髄症により Brown-Sequard syndrome を呈した1例の報告	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443) 61巻6号	整形外科	柳井亮介
5) 経皮的椎体形成術後の後彎変形進行に関する検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443) 61巻6号	整形外科	岡村悠貴
6) 脱臼整復時に intra-prosthetic dislocation を生じた dual mobility cup の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443) 61巻6号	整形外科	宅間仁美
7) 局所療法で病勢をコントロールし得た ER 陰性 HER2 陽性局所進行高齢者乳癌の1例	癌と化学療法 (0385-0684) 45巻13号	外科	吉岡節子
8) 下部直腸粘膜内癌に対する経肛門的局所切除後発症した縦隔気腫・後腹膜気腫症の1例	癌と化学療法 (0385-0684) 45巻13号	外科	真貝竜史
9) 子どもメディカルラリーによる小学生への応急手当実習導入の試み	日本臨床救急医学会雑誌 (1345-0581) 21巻6号	救急部	伊藤裕介
10) 開心術の経食道心エコーに関連した消化管損傷の3症例	Cardiovascular Anesthesia (1342-9132) 22巻1号	麻酔科	谷大輔
11) 大阪における乳癌の臨床ステージ分布に関する傾向 (Trends in the clinical stage distribution of breast cancer in Osaka, Japan) (英語)	Breast Cancer (1340-6868) 25巻2号	外科	豊田泰弘

論文名	掲載元	所属	氏名
12) 【バリアンス分析によるパス改定 - みんなで回そう PDCA-】 全人工股関節置換術パス改訂後のバリアンス分析と課題	日本クリニカルパス学会誌 (2187-6592) 20 巻 2 号	看護部	西海愛子
13) 大腿骨ステム周囲骨折に対する NCB periprosthetic femur plate system を使用した骨接合の治療経験	中部日本整形外科災害外科学 会雑誌 (0008-9443) 61 巻 2 号	整形外科	岡村悠貴
14) 鎖骨骨幹部および遠位端骨折における前方用 VariAx Clavicle Plate による治療経験	骨折 (0287-2285) 40 巻 2 号	整形外科	安原良典
15) 婦人科良性疾患の手術を受ける夫婦の思い 術後育児希 望のある夫婦のインタビューから	日本看護学会論文集：ヘルス プロモーション (2188-6458) 48 号	看護部	菅野実穂
16) 外来作業療法により活動性向上は図られたが、破局的思 考・社会的問題が残存した左示指骨折後の慢性痛の一症 例	大阪作業療法ジャーナル (1880-4837) 31 巻 2 号	リハビリ テーショ ン部	藤本侑大
17) 研究 単施設における救命救急センター医師・看護師の 作業療法士認知度調査	作業療法ジャーナル (0915- 1354) 52 巻 2 号	リハビリ テーショ ン部	藤本侑大
18) Integration of genetics and miRNA-target gene network identified disease biology implicated in tissue specificity.	Nuc.Acids Res. (2018) November	免疫内科	松下正人
19) Up-regulation of CD64 Expression on Monocytes in Patients With Active Adult-Onset Still Disease: A Possible Biomarker of Disease Activity.	J.Clin.Rheumatol (2018) November	免疫内科	松下正人
20) Systemic Sclerosis and Systemic Lupus Erythematosus Overlap Syndrome with Pulmonary Arterial Hypertension Successfully Treated with Immunosuppressive Therapy and Riociguat.	Cureus 11 (3) :e4327	免疫内科	松下正人
21) Investigation of Prevotella Copri from Rheumatoid Arthritis patients.	Ann Rheum Dis. (2018) Vol.77 (Suppl 2) :p1261	免疫内科	松下正人

3. 講演会等

【当院主催】

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
呼吸器内科			
1) 呼吸器科専門医からみた誤嚥性肺炎	古川貢	市民健康講座	2018.5.12
免疫内科			
1) 関節リウマチの早期診断と早期治療について	松下正人	市民健康講座	2018.6.9
2) 関節リウマチの診断と薬物療法	松下正人	登録医総会	2018.9.29
外科			
1) 最近の虫垂炎治療の状況	福崎孝幸	登録医総会	2018.4.21
整形外科			
1) あきらめないで、膝の痛み	安原良典	市民健康講座	2019.1.19
歯科・口腔外科			
1) 歯科におけるガイドライン	金崎朋彦	登録医総会	2018.9.29
千里救命救急センター			
1) 急な腹痛の見分け方	伊藤裕介	登録医総会	2018.4.21
脳神経外科			
1) 脳卒中の最新治療について	松山永得	市民健康講座	2018.11.17
2) 脳卒中の最新治療について	松山永得	市民健康講座	2018.12.8
薬剤部			
1) 生物学的製剤・・・って、何？	高木司	市民健康講座	2018.6.9
リハビリテーション部			
1) 『口から食べる』機能をすこやかに保つために	定岡綾	市民健康講座	2018.5.12
2) 脳卒中のリハビリと生活	鹿山操	市民健康講座	2018.11.17
3) 脳卒中のリハビリと運動療法	角田朋子	市民健康講座	2018.12.8
心大血管疾患リハビリテーション部			
1) 減塩のコツ	花木千裕	心臓病教室	2018.4.4
2) 心房細動ってどんな病気ですか？	奥田啓二	心臓病教室	2018.4.11
3) 心房細動の薬について	樹下恵子	心臓病教室	2018.4.18
4) こんな時には受診をしましょう！	山本香織	心臓病教室	2018.4.25
5) 食物繊維・脂質について知ろう	花木千裕	心臓病教室	2018.5.2
6) 運動療法のススメ	松浦昭彦	心臓病教室	2018.5.9
7) 心不全とは	奥田啓二	心臓病教室	2018.5.16
8) 心不全の薬について	高橋紀美	心臓病教室	2018.5.23
9) 心臓病で繰り返し入院しないために	大畑綾子	心臓病教室	2018.5.30
10) 嗜好食品・アルコールについて	花木千裕	心臓病教室	2018.6.6
11) 準備運動・整理運動について	辻合康浩	心臓病教室	2018.6.13
12) ペースメーカーについて	奥田啓二	心臓病教室	2018.6.20
13) 快適な生活を続けるために	大坪愛	心臓病教室	2018.6.27

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
14) あなたのエネルギー量知っていますか？	花木千裕	心臓病教室	2018.7.4
15) 有酸素運動について	松浦昭彦	心臓病教室	2018.7.11
16) 狭心症・心筋梗塞について	奥田啓二	心臓病教室	2018.7.18
17) 狭心症・心筋梗塞と薬について	木村亜理沙	心臓病教室	2018.7.25
18) お薬と上手に付き合う方法	乾さおり	心臓病教室	2018.8.1
19) 減塩のコツ	花木千裕	心臓病教室	2018.8.8
20) 心疾患患者さんの筋力トレーニング	辻合康浩	心臓病教室	2018.8.15
21) 心房細動ってどんな病気ですか？	奥田啓二	心臓病教室	2018.8.22
22) 心房細動の薬について	樹下恵子	心臓病教室	2018.8.29
23) こんな時には受診をしましょう！	大畑綾子	心臓病教室	2018.9.5
24) 食物繊維・脂質について知ろう	花木千裕	心臓病教室	2018.9.12
25) 屋内でできる有酸素運動について	松浦昭彦	心臓病教室	2018.9.19
26) 心不全とは	奥田啓二	心臓病教室	2018.9.26
27) 心不全の薬について	高橋紀美	心臓病教室	2018.10.3
28) 心臓病で繰り返し入院しないために	乾さおり	心臓病教室	2018.10.10
29) 嗜好食品・アルコールについて	花木千裕	心臓病教室	2018.10.17
30) 運動療法のススメ	辻合康浩	心臓病教室	2018.10.24
31) ペースメーカーについて	奥田啓二	心臓病教室	2018.10.31
32) 快適な生活を続けるために	大畑綾子	心臓病教室	2018.11.7
33) あなたのエネルギー量知っていますか？	花木千裕	心臓病教室	2018.11.14
34) 準備運動・整理運動について	松浦昭彦	心臓病教室	2018.11.21
35) 狭心症・心筋梗塞について	奥田啓二	心臓病教室	2018.11.28
36) 狭心症・心筋梗塞と薬について	木村亜理沙	心臓病教室	2018.12.5
37) お薬と上手に付き合う方法	大畑綾子	心臓病教室	2018.12.12
38) 減塩のコツ	花木千裕	心臓病教室	2018.12.19
39) 有酸素運動の効果について	辻合康浩	心臓病教室	2018.12.26
40) 心房細動ってどんな病気ですか？	奥田啓二	心臓病教室	2019.1.9
41) 心房細動の薬について	樹下恵子	心臓病教室	2019.1.16
42) こんな時には受診をしましょう！	乾さおり	心臓病教室	2019.1.23
43) 食物繊維・脂質について知ろう	花木千裕	心臓病教室	2019.1.30
44) 心疾患患者さんの筋力トレーニング	辻合康浩	心臓病教室	2019.2.6
45) 心不全とは	奥田啓二	心臓病教室	2019.2.13
46) 心不全の薬について	樹下恵子	心臓病教室	2019.2.20
47) 心臓病で繰り返し入院しないために	大坪愛	心臓病教室	2019.2.27
48) 嗜好食品・アルコールについて	花木千裕	心臓病教室	2019.3.6
49) 屋内でできる有酸素運動について	松浦昭彦	心臓病教室	2019.3.13
50) ペースメーカーについて	奥田啓二	心臓病教室	2019.3.20
51) 快適な生活を続けるために	乾さおり	心臓病教室	2019.3.27
栄養科			
1) 糖尿病の薬物療法～お薬の効き方と副作用～	山地香輝	糖尿病教室	2018.4.2
2) 糖尿病の合併症	鈴木正昭	糖尿病教室	2018.5.7

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
3) 糖尿病の運動療法～実技を取り入れながら～	角田朋子、 松山卓也	糖尿病教室	2018.6.4
4) 低血糖／糖尿病による目の病気	石坂末樹	糖尿病教室	2018.6.4
5) 糖尿病の検査について	濱邊優	糖尿病教室	2018.7.2
6) 糖尿病による神経障害／フットケアについて	川原萌、 原園奈苗、 西尾美典	糖尿病教室	2018.7.2
7) 糖尿病腎症について	星歩	糖尿病教室	2018.8.7
8) 糖尿病薬物療法について	山地香輝	糖尿病教室	2018.9.3
9) 日常生活の過ごし方	得能理恵、 瀧上晃、 吉村朋子	糖尿病教室	2018.9.3
10) 災害対策	小山やよい	糖尿病教室	2018.10.1
11) 今日からでも遅くない！運動を続けてやってみよう！	松山卓也	糖尿病教室	2018.11.5
12) 糖尿病腎症について	鈴木正昭	糖尿病教室	2018.11.5
13) 糖尿病の食事療法	佐々木真弓	糖尿病教室	2018.12.3
14) 糖尿病と感染症	濱邊優	糖尿病教室	2019.1.7
15) 心臓病と糖尿病	亀田真帆	糖尿病教室	2019.1.7
16) 糖尿病と狭心症・心筋梗塞について	奥田啓二	糖尿病教室	2019.2.4
17) 糖尿病のまとめ	鈴木正昭	糖尿病教室	2019.3.4
看護部			
1) 認知症について	小原紫香	市民健康講座	2019.3.21

【外部主催】

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
免疫内科			
1) リウマチ最新情報	松下正人	オルミエント発売1周年記念講演会	2018.8.4
2) 関節リウマチにおける診断と治療	松下正人	旭化成ファーマ 社内研修	2018.11.1
3) 分子標的薬における関節リウマチ治療	松下正人	第19回千里診療連携セミナー	2019.2.14
4) 関節リウマチ診療の現状と課題	松下正人	アステラス製薬株式会社 社内研修	2019.3.14
5) 関節リウマチの最前線	松下正人	吹田市医師会イブニングセミナー	2018.7.13
6) 免疫内科の新設と済生会千里病院の地域リウマチ診療における役割	松下正人	第9回千里 RA 治療連携会	2018.8.2
7) 症例カンファレンス	松下正人	田辺三菱製薬社員研修	2019.1.17
整形外科			
1) 慢性疼痛に対する保存療法	長山隆一	処方箋受入れ懇話会	2018.7.10
薬剤部			
1) お薬を効果的に使うために	高木司	生活習慣病研修会	2018.6.13
2) 脳卒中におけるリハビリについて	角田朋子	第12回千里地区 薬業連携研修会	2019.2.9
6 階病棟			
1) アドバンスレクチャー	岩村俊彦	第15回呼吸ケアカンファレンス	2018.4.29

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
総合診療部			
1) 外傷と救急処置Ⅰ」「外傷と救急処置Ⅱ」	寺田浩明	園田学園女子 人間健康学部総合健康学科	2018.6.29
看護部長室			
1) ストーマケアの基礎を学ぶ	竹村実紀	認定看護師教育課程	2018.6.14、21
2) 臨床症例にみる「やわらか凸」の有用性について	竹村実紀	コンバテックススマートケアセミナー in osaka	2018.8.25

X. 看護部研修

1. 院内研修 平成 30 年度

研 修 会 名	開催日	内 容	参加者数
入職時 オリエンテーション	4/2～ 4/6・4/9	新採用者 病院の概要を知り、組織の一員としての心構えをもち、職場に早く 適応できる。	43 名
卒後 1 年目研修 卒後 1 年目またはそれと同等の者			
入職時研修	4/9 (PM)	新人看護職員研修ガイダンス / 目標管理他	29 名
第 1 回目研修 (2 回に分けて実施)	4/13 (午後)	おむつ交換	29 名
	4/28	酸素の取り扱い 移送・移乗 真空管採血 1 ヶ月の振り返り	29 名
第 2 回目研修	5/26	摂食・嚥下のメカニズム 膀胱留置カテーテル挿入	29 名
第 3 回目研修	6/23	ストレスマネジメント 現状報告・悩みの共有 3 か月評価 スタンダードプリコーション	28 名
第 4 回目研修	7/28	報告・連絡・相談 口腔・鼻腔吸引 感染対策	26 名
第 5 回目研修	8/25	静脈注射の基礎知識 静脈留置針の取り扱い 滅菌ドレッシング剤の取り扱い 静脈留置針の挿入・固定	26 名
第 6 回目研修	9/22	静脈注射の実技試験 6 ヶ月評価	26 名
第 7 回目研修	10/27	医療安全 輸血療法 看護倫理綱領・倫理原則 看護を行う時に大切にしていること	26 名
第 8 回目研修	11/24	麻薬・毒薬・劇薬の取り扱い 6R の実施 多重課題：机上シミュレーション	26 名
第 9 回目研修	12/22 (半日)	多重課題の解決	26 名
第 10 回目研修	1/26	プレゼンテーション エンゼルケア 災害発生時の対応 9 ヶ月評価	26 名
第 11 回目研修	2/24	急変時対応 報告・連絡・相談	25 名
第 12 回目研修	3/23	1 年間の評価 大切にしている看護の発表と振り返り 1 年間のまとめ演習：標準予防策、報告・連絡・相談、真空管採血、 酸素ボンベの取り扱い、輸血療法	25 名
		看護を行うときに大切にしていること ～患者の思いに寄り添う看護～ 貝崎 恵利香 (3 階病棟)	
		私が看護を行うときに大切にしていること 溝口 楓 (3 階病棟)	
		私が看護を行う時に大切にしていること ～患者の思いに寄り添う看護のあり方～	
		赤沼 佑実 (4 階病棟)	

		看護を行うときに大切にしていること	西林 未来（4階病棟）		
		看護観	新改 凜華（5階病棟）		
		私の看護観	西本 多壱（5階病棟）		
		私の大切にしている看護－信頼関係を築き患者の思いにきづく－	今村 亜璃（6階病棟）		
		私の大切にしている看護～傾聴から学んだこと～	木村 千華（6階病棟）		
		私の大切にしている看護－寄り添うことの重要性－	渡邊 未央（6階病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること	村田 海渡（7階病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること～複眼的な見方を持って見る～	津田 由加（8階病棟）		
		私が看護をする上で大切にしていること	村上 侑加（8階病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること	若生 千江美（8階病棟）		
		看護を行う時に大切にしていること ～患者と家族の立場に立って考える～	大下 彩香（救急病棟）		
		看護をする上で大切にしていること～経験を踏まえて考えたこと～	川端 つばさ（救急病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること ～患者家族との関わりを通して～	酒井 千里（救急病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること	樋口 梨花子（救急病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること	藤本 有美子（救急病棟）		
		看護を行うときに大切にしていること ～安心して納得のいく入院生活を送ってもらうために	山田 美希（救急病棟）		
		私の看護観	内海 詩織（ICU）		
		私が看護をする上で大切にしていること	大島 佑希（ICU）		
		わたしの看護観	澤口 克哉（ICU）		
		私の看護観～相手の立場に立った看護～	日浅 直也（ICU）		
		私の看護観 患者を全人的に捉える	黒木 美波（中央手術室）		
		患者に歩み寄ること	村岡 京香（中央手術室）		
		実地指導者研修 実地指導者の任にある者			
		第2回目準備研修	4/21（午前）	成人学習と経験学習 学習目標と指導の仕方 動機づけ	21名

第1回目研修	6/9 (午前)	指導の評価 経験学習につなげる関わり方	18名
第2回目研修	9/8 (午前)	医療安全に関する新人看護職員への支援 フィードバック技術 新人看護職員への精神的サポート 悩みの共有 (6ヶ月評価)	19名
第3回目研修	12/8 (午後)	自立への支援 周囲への働きかけ 悩みの共有 (9ヶ月評価)	19名
第4回目研修	2/15 (午前)	実地指導者としての振り返り	17名

研 修 会 名	開催日	内 容	参加者数
卒後2年目研修 卒後2年目およびそれに相当するもの			
第1回目研修	5/12	2年目の目標について	33名
第2回目研修	8/11	患者の権利について ケーススタディの取り組みについて	33名
第3回目研修	1/12	ケーススタディ発表と振り返り 2年目の評価と3年目の目標	31名
		卵巣がんの告知を受けた患者の受容を促す看護 ～A氏の子どもへの関わりに対する援助～ 西尾 七海 (3階病棟) 患者とその家族に寄り添う看護について 土井 玲美奈 (4階病棟) 患者の思いに寄り添う看護 當野 千夏 (4階病棟) 患者の安全と自立について 真本 堯吉 (4階病棟) 患者中心の看護～患者さんが望む退院へ～ 原 蘭 奈苗 (4階病棟) 退院に向けた問題解決 ～コミュニケーションを通じた ADL 拡大に向けての関わり～ 増田 菜々子 (4階病棟) ストーマ造設患者への退院後の生活を見据えた関わり ～不安なく退院できるような援助～ 文 美子 (5階病棟) 患者の受容過程に合わせた関わりと指導 西尾 美典 (5階病棟) 退院後の生活を考慮した食事指導と効果的な指導方法について 西村 愛美 (5階病棟) 人工呼吸器装着患者の離床意欲の変化 春木 翔 (6階病棟) 入院中の子どもにおける治療への主体性と看護師の役割について ～内服拒否がある児への援助を通して～ 福井 千晴 (6階病棟) 心不全患者の家族との関わり～心理的变化とその援助～ 上野 比奈 (7階病棟) 高齢で心筋梗塞を発症した患者への食事指導 ～効果的なアプローチの仕方について～ 岩橋 初音 (7階病棟) 慢性疾患をもつ高齢患者の QOL 充足について 奥山 麻依子 (7階病棟) 心筋梗塞患者への生活指導～壮年期患者に対する指導～ 朝日 麻珠 (7階病棟)	

		癌告知後の精神的苦痛の緩和 ～化学療法が導入された患者との関わりを通して～ 仁科 清（8階病棟）				
		信頼関係の構築～患者の闘病意欲が向上する援助～ 島田 悠瑳歩（8階病棟）				
		病気を抱えながら自宅退院を目指す患者の看護 水野 杏樹（8階病棟）				
		娘との死別ト夫の緊急入院により心理的に危機的状況に陥った妻への看護 柳沢 萌絵（ICU）				
		突然の心停止に陥った若年男性の家族が危機を回避し、予期悲嘆を促進することができた例 平川 くるみ（ICU）				
		生命の危機的状態にある救急患者の家族の心理的特徴に対する看護 竹田 知世（ICU）				
		クリティカルケア領域における家族への危機理論を用いた看護介入 塚本 美貴（ICU）				
		下顎腫瘍と経鼻挿管による苦痛で疲労が蓄積した患者への関わり 宇野 真里奈（ICU）				
		急性期において必要とされる代理意思決定時の家族看護 香西 美優紀（救急病棟）				
		急性期における認知機能が低下した患者への看護 巻田 清佳（救急病棟）				
		不安を抱く患者のニードを捉えた看護 田中 沙希（救急病棟）				
		急性期患者の生活の質の向上を目指して ～嚥下障害のある患者の食事指導を振り返って～ 池尻 葉月（救急病棟）				
		急性期における認知症患者の看護 城戸 麻里（救急病棟）				
		手術中の体位固定について ～腹臥位で手術を受ける患者との関わりを通して～ 中村 愛（中央手術室）				
		周手術期における低体温予防の看護について ～幽門側胃切除を受ける患者への看護介入を振り返る～ 小笠原 綾花（中央手術室）				
		心疾患ハイリスク患者の術中の体温管理 小江 蓮稀（中央手術室）				
		卒後3年目研修 卒後3年目およびそれに相当するもの				
		第1回目研修		7/14	キャリアについて 後輩指導 今後の課題	26名
		第2回目研修		2/9（午前）	後輩指導のフォロー 1年間のまとめ	25名

リーダー研修Ⅰ	実務経験2年以上でリーダーシップの基礎を学んでいない者		
	11/10	リーダーシップ概論	24名

リーダー研修Ⅱ	実務経験3年以上でリーダー研修Ⅰまたはそれに相当する研修を受講した者の中でリーダー的役割を経験した者		
	10/13	リーダーシップ理論 コミュニケーション技法 社会人基礎力	20名

リーダー研修Ⅲ	実務経験5年目以上でリーダー研修Ⅱまたはそれに相当する研修を受講した者		
	9/1	看護の動向について知る チーム医療を行うために必要な関係職種の役割、活動内容を理解する 中堅看護師として、チーム医療を行う上で必要なリーダーシップを考える	12名

院内急変時シミュレーション	卒後2年目およびリーダー研修Ⅱの対象者全員		
	12/9	院内で想定される急変時対応の体験学習	51名

2. 認定看護師による教育プログラム

目的：院内の看護の質の向上を図るため

目標：①院内の看護師が学習の機会を得る

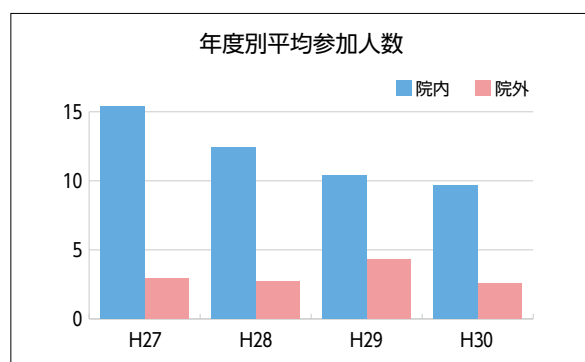
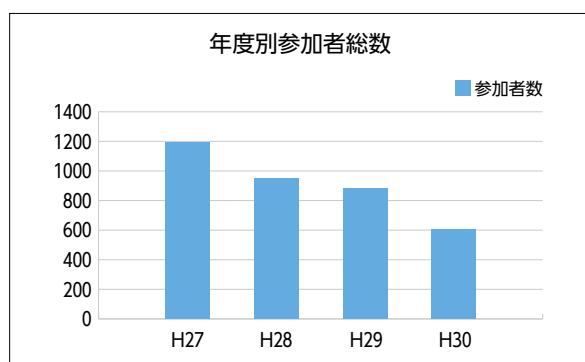
②院内の看護師の学習意欲が向上する

③学習会参加者のスキルアップが図れる

④院外参加者の自己参加目標を達成する

コース	テーマ	開催日	参 加 人 数																計
			8階	7階	6階	5階	4階	3階	EW	ICU	OP	外来	放・ 内視鏡	看護 部室	訪問	他	院外		
がん化学療法看護	抗がん薬による骨髄抑制、嘔気・嘔吐に対する看護	5/17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	5	
がん化学療法看護	抗がん薬の安全な投与管理と意思決定支援	9/13	1	1	0	1	0	4	0	0	0	6	0	0	0	0	3	16	
がん化学療法看護	がん化学療法薬の分類と入院化学療法と外来化学療法との看護	2/19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	8	
がん性疼痛看護	痛みの薬物療法と看護ケア	10/16	4	0	1	0	2	3	1	0	0	1	0	1	0	1	3	17	
感染管理	カテーテル関連血流感染対策	5/28	2	1	0	4	1	4	1	0	1	0	3	0	0	0	1	18	
感染管理	カテーテル関連尿路感染対策	9/10	5	0	0	1	0	0	3	0	2	0	0	1	1	0	0	13	
感染管理	感染対策の基本は培養から!! 検体採取～培養結果の見方～ 感染対策が必要な耐性菌	7/2	2	0	0	1	0	0	5	0	3	0	0	0	0	0	2	13	
感染管理	手術部位感染対策について	8/6	1	0	0	0	0	0	3	0	8	0	0	0	0	0	0	12	
感染管理	インフルエンザについて	10/1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	7	
感染管理	クロストリジウム・ディフィシル感染症 CDI	11/21	1	0	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	7	
感染管理	抗菌薬の基礎知識	1/21	1	0	0	0	2	0	3	0	1	1	0	1	0	0	2	11	
救急看護	心電図なんて怖くない! (心電図基礎編)	6/6	0	0	5	2	0	0	7	2	3	0	0	1	0	0	18	38	
救急看護	もっと心電図を読んでみよう! (心電図不整脈編)	7/4	1	2	1	0	0	0	10	5	1	0	0	0	0	0	12	32	
救急看護	点滴した水はどこへ行く?	10/3	1	2	0	0	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	4	13	
救急看護	循環に強くなろう! (基礎編)	11/7	1	1	1	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	11	
救急看護	もっと循環に強くなろう! (応用編)	12/5													0	0	3	3	
救急看護	頭蓋内圧亢進症状の機序と看護	2/14	0	0	2	0	0	0	6	1	3	2	0	0	0	0	3	17	
集中ケア	生体侵襲ってどういうこと? (基礎編)	6/5	0	1	0	0	0	2	5	4	4	0	0	0	0	0	4	20	
集中ケア	生体侵襲のエキスパートになる!! (応用編)	8/7	0	3	0	0	2	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	11	
集中ケア	ケアに活かそう栄養療法の知識 ～経腸栄養～	11/6	2	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	
集中ケア	血液ガスデータを読んでみよう!!	2/5	2	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	5	12	
手術看護	手術看護 (全身麻酔編)	5/21	0	0	1	8	1	1	0	4	12	6	2	1	0	0	5	41	
手術看護	手術看護 (手術体位編)	9/3	0	0	0	3	6	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	12	
手術看護	手術看護 (体温管理編)	11/5	0	0	0	3	4	0	1	0	9	0	0	0	0	0	3	20	
手術看護	手術看護 (全身麻酔編)	12/17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	
摂食・嚥下障害看護	【初級】摂食嚥下障害看護の基礎 ～咀嚼嚥下って何?～	8/1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	8	
摂食・嚥下障害看護	【初級】摂食嚥下障害看護の評価 ～事例検討含む～	10/31	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	1	1	8	
摂食・嚥下障害看護	【中級】摂食嚥下障害の修飾因子	1/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
摂食・嚥下障害看護	【上級】摂食嚥下障害のある患者 の退院支援 (事例検討含む)	3/6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
乳がん看護	乳がん看護① / 検査から診断を受ける患者の心理	7/30	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5	
乳がん看護	乳がん看護② / 手術療法の適応から看護まで	10/15	0	0	0	1	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	7	
乳がん看護	乳がん看護③ / 全身療法の治療が決まるまで	11/19	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	7	
乳がん看護	リンパ浮腫 / 看護とセルフケア支援	3/4	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5	

コース	テーマ	開催日	参 加 人 数															計
			8階	7階	6階	5階	4階	3階	EW	ICU	OP	外来	放・内視鏡	看護部室	訪問	他	院外	
認知症看護	認知症高齢者とのコミュニケーション	6/15	5	0	0	0	0	0	2	0	4	2	1	0	2	26	5	47
認知症看護	認知症患者と転倒・転落～リスク評価と対応策～	8/31	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	7
皮膚・排泄ケア	創傷治癒① このキズは経過良好?	5/15	2	0	2	6	1	0	2	2	3	0	0	0	0	0	3	21
皮膚・排泄ケア	創傷治癒① このキズは経過良好?	6/29	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	5	11
皮膚・排泄ケア	創傷治癒② ドレッシング材・薬剤の選択方法	7/31	0	0	2	1	1	0	5	4	2	0	0	0	0	0	6	21
皮膚・排泄ケア	創傷治癒② ドレッシング材・薬剤の選択方法	8/29	1	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	4	10
皮膚・排泄ケア	皮膚が脆弱な人のスキンケア予防的ケアと治療的ケア	12/18	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	8	12
皮膚・排泄ケア	排泄ケアを考えるそのケアは安全・安楽?	1/18	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
慢性呼吸器疾患看護	呼吸器フィジカルアセスメント～聴診編～	5/29	4	0	4	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	6	19
慢性呼吸器疾患看護	COPD って何?	7/17	3	1	0	0	0	0	4	2	1	0	0	0	0	0	2	13
慢性呼吸器疾患看護	呼吸リハビリテーションって何?～運動療法編～	9/18	4	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	3	15
慢性呼吸器疾患看護	NPPV 管理 - 基礎編 -	11/20	0	3	0	1	0	0	5	1	0	0	1	0	2	0	1	14
	45		48	20	26	35	29	31	82	37	71	40	13	6	8	31	127	604



3. 看護助手研修

目標：看護チームの一員として、看護師を含む他職種と協働できる体制をつくる

- ① 業務開始・終了時に看護職員との情報共有の実施
- ② 患者誤認事例の発生をなくす
- ③ 看護助手会で受講する研修を通じて、知識向上を図る

	年月日	テ ー マ	参加人数
第1回	H30.5.15	①「医療制度の概要および病院の機能と組織の理解」 ②「看護補助者研修の目的」 ③「看護助手の関連するインシデントレポートの共有」	26
第2回	H30.7.11	①「看護助手の関連するインシデントレポートの共有」 ②「認知症高齢者との接し方（講義編）」	28
第3回	H30.9.12	①「守秘義務、個人情報保護の基礎知識」 ②「看護助手の関連するインシデントレポートの共有」 ③「認知症高齢者との接し方（実践編）」	29
第4回	H30.11.20	①「看護補助業務における感染防止」 ②「PPE（手袋・エプロン）の正しい着脱法（演習）」 ③「院内感染防止対策「環境整備」（演習）」 ④「院内感染防止対策「インフルエンザ予防」（講義）」 ⑤「看護助手の関連するインシデントレポートの共有」 ⑥「看護師と効果的な情報共有を行うために」（グループワーク）」	30
第5回	H31.1.9	①「医療器材の洗浄・消毒・滅菌」 ②「院内感染対策マニュアル「洗浄・消毒・滅菌」について（講義）」	27
第6回	H31.3.19	①「災害研修」	24

4. 看護補助者研修（クランク）

目標：クランクとしてのスキルアップに努める

	年月日	内 容	参加人数
第1回	H30.4.17	医療制度の概要および病院の機能と組織の理解 看護部クランク会設置要綱、年間計画について ア. 医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 イ. 医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助業務の理解	
第2回	H30.6.19	診療情報の管理 ウ. 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術	
第3回	H30.8.21	守秘義務、個人情報の保護 オ. 守秘義務、個人情報保護	
第4回	H30.10.16	インフルエンザ対策～流行期に押さえておきたいポイント～ カ. 看護補助業務における医療安全と感染防止 看護部クランク業務マニュアル見直し エ. 日常生活にかかわる援助	
第5回	H30.12.18	施設のホスピタリティ 医療者としての接遇 イ. 医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助業務の理解 ウ. 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術	
第6回	H31.2.19	医療安全 カ. 看護補助業務における医療安全と感染防止	

XI. 委員会・医療チーム活動

1. 委員会活動

薬事委員会

1. 目的

本委員会は、当院における医薬品の採用、使用及び管理について審議し、適正かつ効率的な運用を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

1) 採用薬の検討

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
院内採用（件）	4	11	11	2	3	2
院外採用（件）	3	4	5	8	16	1
院内→院外採用への変更（件）	0	0	2	0	0	0
採用抹消（件）	4	10	7	2	2	1

2) 定数配置薬の検討

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
新規定数配置（品目数／対象部署数）	8／3	4／2	13／12	1／1	2／2	2／2
配置定数変更（品目数／対象部署数）	28／4	4／2	51／10	0	79／6	5／2

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（奇数月 第一火曜日 6回）

開催時間：16：30～17：30

平均参加率：約 80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

栄養委員会は、当院における入院食事療養、栄養食事指導等について検討し、内容・質・運営の効率化及び向上を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

毎月 1 回委員会を開催し、食事・栄養管理に関する報告や検討を行った

○毎月の報告事項

- ・濃厚流動食使用状況
- ・栄養管理計画書作成率
- ・行事食実施予定
- ・集団栄養指導実施状況、開催予定

○平成 30 年度の主な検討事項

- ・栄養科業務マニュアル改訂について
- ・嚥下調整用ゼリーの商品変更について
- ・食事オーダー、アレルギーコメント入力に関する検討、院内周知
- ・病院食アンケート集計結果をもとに改善点の検討
- ・濃厚流動食品ペプタメンインテンズの採用について
- ・未使用濃厚流動食品返却、廃棄率低下の取り組み

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 木曜日 12 回）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：88%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

手術室運営委員会

1. 目的

当院における手術室にかかる事項について審議し、円滑且つ適切な手術室運営及び手術室業務を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・手術件数・現状報告
- ・麻酔科や診療科、コメディカルからの周知事項
- ・麻酔科外来に関する検討
- ・手術医材に関する検討、周知
- ・患者安全チェックリストに関する検討

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 火曜日 1 回）

開催時間：17：30～18：00

平均参加率：約 88.0%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

内視鏡運営委員会

1. 目的

本委員会は、当院における内視鏡室の運営に関して検討し、適切な運営を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 1) 内視鏡、肝臓処置系休業期間について、「肝臓系の穿刺検査・処置の休業は待機的大手術前で休業とする」、「委託検査のワーファリン休業は不要（1 W 以内 PT-INR< 3）または診療や患者の都合で PT-INR 測定ができない場合は 3 日間休業とする」と決め、内視鏡マニュアルを 10 版に更新した。
- 2) 外来コールドポリペクトミーの件数は順調に増加、10 月は 65 件と過去最高件数となった。
- 3) ESD など長時間の処置時に麻酔科医による麻酔管理が行われれば報酬算定できることについて、麻酔科医依頼方法のフローを作成した。
- 4) 内視鏡ファイリングシステム保守期間が 2019 年で切れる。更新メーカーの選定をおこない富士フィルムメディカル社製となる。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回（定められた開催数：偶数月第 3 月曜日 1 回）

開催時間：16：45～17：00

平均参加率：約 70%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

本委員会は、当院における放射線部の運営に関して検討し、適切な運営を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・放射線機器整備に関する検討
- ・MRI の EOB 枠、増枠
- ・オクトレオスキャン開始
- ・手術室に大型モニター設置
- ・手術後の患者説明用画像参照モニター設置
- ・一般撮影系オーダーの見直し
- ・病室撮影、オペ室撮影オーダー見直し
- ・RI 装置（ガンマカメラ）の更新
- ・フィルムレス推進
- ・予約検査の待ち日数調査および予約枠の調整
- ・モダリティ別検査件数報告

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（定められた開催数：偶数月 第2水曜日 6回）

開催時間：17：00～17：30

平均参加率：68%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

病院内の情報システムの全体構成ほかの事項を検討し、適正な情報システムの構築と診療情報などの院内情報の共有・活用を図ることを目的とする。

- 1) 病院情報システム（手術、薬剤、放射線、財務などの部門システムを含む）の導入、レベルアップ、活用、管理に関すること。
- 2) 電子カルテシステムの運用についての検討・付議。
- 3) 情報ネットワークの導入、運用、管理に関すること。
- 4) 病院情報システム、情報ネットワークの安全に関すること。
- 5) 診療情報などの院内情報の収集、利用に関すること。
- 6) その他情報システムに関すること。

2. 平成 30 年度の活動

- 1) 電子カルテリプレイスについて
- 2) セキュリティ対策について
- 3) 元号のシステム対応について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（定められた開催数：隔月 第3月曜日 1回）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：75%

1. 目的

本委員会は、診療材料の標準化を図るため、使用・購入等に関する事項について検討し、標準化を軸とした材料費抑制による経営効率の適正化を図る事を目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

診療材料等採用申請について

6 月（新規採用：2 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

10 月（新規採用：2 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

12 月（新規採用：0 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

2 月（新規採用：0 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

3. 今後の課題・展望

定期的に各部門からの申請事案を審議してだけでなく、委員会（事務局）として、材料の標準化・材料費抑制提案を積極的に提言していきたい。

また、済生会本部共同購入の品目について、積極的にデモを実施し切替をおこない、採用品目の増加を目指す。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：偶数月の第 2 木曜日

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：60%

5. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

本委員会は、当院における医療用器械備品等について、購入の標準化の検討および投資・購入の必要性や費用対効果等の投資効果に関する事項について検討し、安全で良質な心のこもった医療に寄与することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

各委員から申請物品の必要性及び優先順位の説明が行われた。

全ての要望を予算化すると 20 億円を超えるものになり、その全てを予算化することは不可能であることを確認。

前年度に引き続き修理不能案件など優先的に予算措置を行っていくこととなるが、収益を伸ばすことに対しての積極的な投資も検討したいとの報告が委員長からなされた。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：適宜）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における保険診療に関する事項を審議し、健康保険法及び保険医療費担当規則に基づく適正な保険診療の運営を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

保険診療委員会設置要項改訂 平成 30 年 7 月 1 日施行開始
平成 30 年 4 月 24 日（火）定例会議予定を電子会議へ変更
平成 30 年 7 月 24 日（火）定例会議
平成 30 年 10 月 23 日（火）定例会議
平成 31 年 1 月 22 日（火）定例会議

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4 回（定められた開催数：4 月・7 月・10 月・1 月 第 4 火曜日 年 4 回）
開催時間：17：00～17：30
平均参加率：約 6 割

4. 研修会・勉強会の開催

平成 30 年 7 月 13 日（金）全職種対象「平成 30 年度診療報酬改定について」研修会開催
平成 31 年 3 月 15 日（金）～3 月 31 日（日）全職種対象 デスクネット e-Learning を活用し、保険診療（診療報酬請求、療養担当規則、施設基準等）に関する基礎知識を取り入れた研修を実施。パワーポイントでの資料（17 ページ）、問題（6 題）を提示した。

コーディング委員会

1. 目的

本委員会は、当院における適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 1) 未コード化傷病名の使用割合について
- 2) 部位不明・詳細不明コードの使用割合について
- 3) 死亡診断書に記載された傷病の病名登録について
- 4) 閉塞性動脈硬化症等の病名登録について
- 5) SOFA スコア、pSOFA スコアの入力運用について
- 6) 知的障害の病名登録について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4回（定められた開催数：年4回 7月、8月、12月、3月）
開催時間：17：50～18：00
平均参加率：57.8%

4. 研修会・勉強会の開催

委員会主催の研修会、勉強会開催はなし

病床利用委員会

1. 目的

本委員会は、病床の運用に関する事項を審議し、病床の有効活用を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

毎月の病床稼働率、平均在院日数などについてデータ分析を行った。
「入院のご案内」改定にともない内容の見直しを行った。
「月曜祝日入院」の運用を見直し、「祝日（ハッピーマンデー以外）の予約入院」と併せた「祝日の予約入院」の運用を決定した。
「日曜予約入院」の年間スケジュールを決定し、院内へのインフォメーションを行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：9回（定められた開催数：毎月 第3水曜日 12回）
開催時間：17：30～18：30
平均参加率：73%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

医療ガス安全管理委員会

1. 目的

医療ガス（診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素等を言う。）の安全管理に関する事項について検討し、診療の用に供するガス設備の保安管理に基づき、医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする

2. 平成 30 年度の活動

- ・医療ガス設備についての日常及び、6 カ月並びに、1 年点検の実施。
- ・吸引装置制御盤内、電装部品取り替え工事他、供給側設備の整備。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：年 1 回）

開催時間：16：30～17：00

平均参加率：85%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

棚卸実施委員会

1. 目的

当院における棚卸資産について、実地棚卸が確実かつ効率的に実施されることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

委員会開催

平成 31 年 3 月 13 日（水）

棚卸実施

①平成 30 年 9 月 29 日（土）

②平成 31 年 3 月 30 日（土）

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（必要に応じて適宜開催）

開催時間：14：00～14：15

平均参加率：100%（イントラネットの電子開催含む）

4. 研修会・勉強会の開催

3 月 15 日 全職員対象 実施時留意事項の説明（イントラネット）

3 月 19 日 看護助手会 説明会開催

1. 目的

本委員会は、「医療法施行規則 新省令第 11 条第 2 号」、「医療安全管理体制の整備等に関する指針」（済生会本部）、及び「医療安全管理指針」（大阪府済生会千里病院）に則り、大阪府済生会千里病院における医療安全管理体制の確立と、安全かつ適切な医療を提供するための検討を行い、医療安全確保を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 4 月：大阪府済生会千里病院 医療安全管理マニュアル〔身体抑制〕改定（案）、採血スピッツ取り違えの対応
- 5 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 6 月：医療安全管理規定改定案、医療事故発生時の対応マニュアル（改定案）、異状死の届出に関する指針（改定案）、医療安全管理マニュアル〔ドクターハリー〕、医療安全管理マニュアル〔救急カート〕（改定案）、医療安全管理マニュアル 安全確保の手順（改定案）、医療安全管理マニュアル ハイリスク領域〔がん化学療法〕（改定案）設置要綱改定案、医療安全管理対策委員会（改訂案）、事故調査委員会（改訂案）、死亡事例検討会（初版案）、事例検討会（初版案）、第 2 回医療安全管理対策に関する研修会（案）、神経損傷疑い事例の対応（案）、診療マニュアル 一般病棟における高濃度 KCL 投与方法及び手順（改定案）
- 7 月：医療安全管理マニュアル〔救急カート〕（改定案）、医療安全管理マニュアル〔身体的拘束〕（改定案）、医療安全管理マニュアル安全確保の手順〔配合可否一覧表〕（改訂案）、不眠時指示薬品の規格変更に伴う改訂（案）、検体検査再測定結果の報告方法
- 8 月：医療安全管理マニュアル〔転倒・転落防止〕（改定案）
- 9 月：医療安全推進週間のお知らせ（案）、化学療法に対する閉鎖式輸液セット使用
- 10 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 11 月：医療安全管理マニュアル〔救急カート〕（改定案）、医療安全管理マニュアルハイリスク領域〔注射剤の投与〕（改定案）、診療マニュアル（改定案）、真空採血における必要血液量採取方法
- 12 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 1 月：胸腔ドレーン接続部固定方法
- 2 月：医療安全管理マニュアル〔救急カート〕（改定案）、医療安全管理マニュアル安全確保の手順（改定案）、市販の鎮痛薬・サプリメント・健康補助食品の対応（改定案）、院内放送時のチャイム鳴動
- 3 月：報告事項のみ、検討議題なし

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 4 水曜日 12 回）
開催時間：16：00～17：00
平均参加率：86.7%

4. 研修会・勉強会の開催

- 6 月：全職員対象 平成 30 年度第 1 回医療安全管理対策に関する研修会（e-Learning）
- 2 月：全職員対象 平成 30 年度第 2 回医療安全管理対策に関する研修会（講演会）

1. 目的

当部会は、当院における医療安全管理に関する全般的な問題点を把握し、その対策を講じることを目的とする。主な所管は以下のとおりである。

- ・医療安全ラウンドによる院内の医療安全管理に関する問題点の把握
- ・インシデント報告に基づいた情報収集・分析・改善策の立案
- ・医療安全管理のためのマニュアルの策定と見直し

2. 平成 30 年度活動報告

- 4 月：患者誤認防止対策ラウンド
- 5 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 6 月：開催中止（大阪北部大地震発生日）
- 7 月：患者誤認防止対策
- 8 月：患者誤認防止対策
- 9 月：患者誤認防止対策、医療安全推進週間
- 10 月：平成 30 年度医療安全推進週間
- 11 月：平成 30 年度医療安全推進週間、平成 31 年 1 月以降のラウンドについて
- 12 月：平成 30 年度医療安全推進週間 評価と意見、平成 30 年度 MRM 部会ラウンド年間予定（1～3 月）
- 1 月：患者誤認防止対策
- 2 月：患者誤認防止対策
- 3 月：患者誤認防止対策

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 4 月曜日 11 回）

開催時間：16：00～17:00

平均参加率：80.2%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

病院感染の予防・拡大防止および感染発生時の問題の把握、対応策を検討することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

毎月、①感染症報告、②手指衛生サーベイランス、②針刺し・切創 / 血液・体液曝露、④抗菌薬ラウンド、⑤ ICT メンバー会議報告、⑥感染管理室会議報告、について定例で報告を行い、以下について検討を行った（委員会議事録より抜粋）。

4 月：AST 設置要綱承認、病院感染対策指針改定、病院感染対策規定改定

5 月：感染対策マニュアル「抗微生物薬の適正使用」承認

7 月：ICT マスコット承認

11 月：系統別抗微生物薬使用量報告

12 月：感染対策マニュアル「専用・消毒・滅菌」承認、「標準予防策」改定

1 月：集団食中毒の対応

2 月：麻疹発生時の対応

3 月：平成 30 年度 吹田管内感染防止対策加算 1 に係る相互評価 結果報告

2 月～3 月にかけて、北摂地域で麻疹が流行した。院内受診時の対応等、感染対策委員会、ICT、感染管理室で協同して作成した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：13 回（定められた開催数：毎月 第 2 月曜日 12 回）

※デスクネットにて 1 / 15 「インフルエンザ流行期の面会について」臨時で開催した。

開催時間：16：00 ～ 17：00

平均参加率：88.9%

平均参加率：81%

4. 研修会・勉強会の開催

第 1 回感染防止研修会（全職員）受講率 99.8%

テーマ：「感染防止対策加算 1 に係る相互評価の報告、よくある場面から考える感染対策（動画を 4 場面作成した）」

講師：感染管理室 橋本渚

第 2 回感染防止研修会（全職員）受講率 96.8%

テーマ：「結核」

講師：呼吸器内科 多河広史 先生

脳死に関する委員会

1. 目的

脳死下での臓器摘出の実施に係る手順書の作成、訓練及び実施についての承認の手続きを行い、脳死に関する諸問題を検討することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

平成 31 年 3 月 委員会開催
脳死下提供シミュレーション実施
脳死下臓器提供事例発生

3. 今後の課題・展望

前年度に引き続き、院内体制整備を進めると共に、院内移植コーディネーターの普及に努める。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：適宜）
開催時間：17：30～18：00
平均参加率：80%

5. 研修会・勉強会の開催

脳死下提供シミュレーション：平成 31 年 3 月 4 日（月）17：35～18：30

インフォームド・コンセント委員会

1. 目的

本委員会は、患者の権利、患者と医療者とのパートナーシップの強化を目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・説明と同意書の新規登録 3 件、改訂 8 件を行った。
- ・全同意書のフッター部分を同意書名に修正統一した。
- ・IC 指針に説明と同意を行う際の基準を追記し改定を行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：5 回（定められた開催数：毎月 第 1 火曜日 6 回）
開催時間：16：30～17：30
平均参加率：68.4%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

倫理委員会

1. 目的

本委員会は、当院で問題となる、職業倫理、臨床における倫理、臨床研究に関する倫理について審議し、患者の権利の尊重、擁護を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

院内から提出された臨床研究の申請に対し、事前審議 10 回、本審議 3 回計 13 回開催。
併せて、倫理的課題に関する審議、当院の倫理に関する方針の改訂について、審議を行った。
また、人口透析患者の透析見合わせについて、臨時の倫理委員会を開催した。

3. 開催状況

- ・開催回数：本審議 3 回（隔月 第 4 月曜日）
事前審議 10 回（毎月 第 4 月曜日）
- ・開催時間：17：30～18：30
- ・平均参加率：事前審議 79% 本審議 79%

4. 研修会・勉強会の開催

- 11 月 6 日 全職員対象 DNAR と終末期医療における倫理的問題点（DVD 上映）開催
- 3 月 8 日 全職員対象 臨床研究法の概要について 開催

病歴委員会

1. 目的

病歴委員会は、病院内における診療記録の作成および管理について審議し、すべての診療活動の適切な記載、保存により情報の円滑な診療の質の向上に寄与することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

奇数月の第 4 火曜日に委員会を開催し、電子カルテ掲載の新規文書の検討承認、サマリの作成率向上への働きかけ、診療録監査結果のフィードバックを行っている。
改元に伴い電子カルテ格納文書の西暦表示について検討を行った。
また、マニュアル規程の改版を行った。

3. 開催状況・平均参加率

- 開催回数：6 回（定められた開催数：毎月 第 4 曜日 6 回）
- 開催時間：17：00～17：30
- 平均参加率：83.3%

4. 研修会・勉強会の開催

開催なし

1. 目的

クリニカルパスの作成、評価及び円滑な運用方法について審議し、医療の質と患者満足向上を図ること。

2. 平成 30 年度の活動

平成 30 年度は、15 件の新規クリニカルパスの申請があり、うち 11 件のパスを承認した。340 件のクリニカルパスの修正を行った。

院内クリニカルパス大会を 6 回開催し、14 演題を発表した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 木曜日 12 回）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：59.5%

4. 研修会・勉強会の開催

平成 30 年 8 月 16 日 第 14 回クリニカルパス大会

平成 30 年 9 月 20 日 第 15 回クリニカルパス大会

平成 30 年 11 月 14 日 第 16 回クリニカルパス大会

平成 30 年 12 月 20 日 第 17 回クリニカルパス大会

平成 31 年 1 月 16 日 第 18 回クリニカルパス大会

平成 31 年 2 月 21 日 第 19 回クリニカルパス大会

1. 目的

当院における臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、当院の発展に寄与することを目的とする。

2. 平成 30 年度 活動報告

5月

- ① 新規項目「レミチェック Q」の申請 ※庄司副院長より
関節リウマチ患者の治療において薬剤の増量すべきか変更すべきかの判断に用いる
→現在、外部委託検査で受け付け中
- ② 平成 29 年度日本医師会精度管理結果について
生化学検査項目にて LDH において S1-C 評価、S2-D 評価、S3-D 評価ですべての値が低かった。
→メーカー調査依頼と機器メンテナンス。

2月

- ① NT-proBNP 検査の院内導入について ※廣岡循環器主任部長より
採血後の献体が従来の BNP と比較して優れている→機器導入し現在、実施中
- ② カリウムのパニック値の変更について ※廣岡循環器主任部長より
現在 K のパニック値は上限 7.0mg/dl、下限 2.0md/dl →現状は下限 2.5md/dl 変更
- ③ 新規項目「マイクロサテライト不安定性検査」の申請 ※高山外科部長より
→外部委託検査受付中

3月

- ① 新規項目「NUDT15 遺伝子多型検査」の申請 ※奥田消化器内科副部長より
治療薬の適応検査→外部委託検査受付中
- ② 平成 30 年度日本臨床検査精度管理結果について
生化学検査項目で C 評価 4 件、D 評価 6 件→すべて酵素項目で低値なので、資料溶解温度の問題を疑う。

3. 今後の課題・展望

管理、運営上の適正化を図るために重要事項を審議する。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：3回（定められた開催数：原則6ヶ月に1回以上）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：56%

1. 目的

輸血製剤の適正利用・輸血関連検査の徹底を目的とする

2. 平成 30 年度の活動

奇数月第 4 月曜に委員会（終了後監査）を実施

委員会では検査から毎月の製剤使用数・廃棄数を報告、廃棄数が増加している場合はその原因を検討する。

医事課からは、減点対象の報告があり、これについても減点要因の検討をする。

輸血副作用報告について内容を検討し、必要に応じて血液センターへの調査依頼を行う。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回（定められた開催数：奇数月 第 4 月曜日 6 回）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：61.11%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における患者サービスの向上施策に関することを検討し、患者サービス向上のための具体的施策を立案することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- * 患者さんの声（苦情、感謝、要望）を投書、窓口、電話やメールにて収集し内容を検討、その回答や改善策について審議している。
- * 改善策の進捗状況を追跡し関係部署に善処していただくよう提案を行った。
- * 毎月「苦情減らし隊からのお知らせ」で職員への啓蒙活動に努めた。
- * 毎月「患者さんの声」で職員に事例の周知を行い共有にて注意喚起に努めた。
- * 接遇研修はいかに「千里病院でなきゃだめだ！」という千里病院のイメージを創造する「病院のブランド」を接遇に関連づけて開催した。
- * 患者サービスの観点から七夕かざり、患者満足度調査（外来、入院）クリスマスコンサートを実施した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12回（定められた開催数：毎月 第1金曜日 1回）
開催時間：16：00～17：00
平均参加率：68%

4. 研修会・勉強会の開催

- 10月23日 接遇研修会（千里病院のイメージを創る～接遇力でブランディング）
* 全職員対象（時間外該当なし）
11月 患者満足度調査実施（外来12日 / 入院1日～30日）
12月8日 クリスマスコンサート（ゴスペル、津軽三味線と民謡、和楽器演奏）

1. 目的

当院が大阪府がん診療拠点病院としての機能を充実するために、がん化学療法の円滑な運営を図るとともに、治療内容の妥当性を評価し、レジメンの承認及び管理について審議し、適正かつ効率的な運用を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

1) レジメン審査

審査月	申請診療科	対象疾患	レジメン名称
4 月	外科	結腸・直腸癌	TAS + Bev
	泌尿器科	尿路上皮癌	PEMB
9 月	呼吸器内科	肺がん	PEMB ATEZ CDDP + PEM + Bev
11 月	泌尿器科	腎がん	NIVO + IPL
12 月	消化器内科	潰瘍性大腸炎	エンタイビオ
	外科	胃がん	weekly nab-PTX weekly nab-PTX + RAM
1 月	呼吸器内科	肺がん	PEMB + CBDCA + nab-PTX PEMB + CBDCA + PEM ATEZ + Bev + CBDCA + PTX
2 月	乳線外科	乳がん	Per + triTras + GEM Per + triTras + VNR

2) レジメン管理

1 年間で 6 件のレジメンの修正を行った。

また、レジメン整理を行っており、使用しないレジメンの削除を行っている。

3) その他

抗がん剤の曝露対策として閉鎖式システムの導入に向けて検討を開始した。また抗がん剤の副作用マニュアルの作成中である。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 火曜日 1 回）

開催時間：17：30～19：00

平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

8 月 16 日 全職員対象 抗がん剤曝露対策勉強会開催

1. 目的

本委員会は、当院の内外に発生する災害への医療対応に関する事項を審議・検討し、災害拠点病院として地域に貢献することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・災害対策マニュアルの改訂（医療編）
- ・職員の外部訓練参加者調整（Hospital MIMMS 等）
- ・防火・防災訓練の実施報告
- ・災害時備蓄食品等の整備

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 火曜日 1 回）

開催時間：16：30～17：30

平均参加率：66%

4. 研修会・勉強会の開催

- ・2018/12/ 5 院内災害対応訓練（豊能医療圏大規模地震時医療連携強化プロジェクト）

救急診療委員会

1. 目的

救急診療に係る事項について審議し、救急診療の円滑な運用を図るとともに災害拠点病院としての機能を充実すること。

2. 平成 30 年度の活動

	H30.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H31.1	2	3	合計
救急総件数	613	605	645	780	677	687	646	715	803	862	579	686	8,298
救急受付件数	580	593	636	773	665	678	629	648	789	842	560	666	8,059
1 日平均受付件数	19.3	19.1	21.2	24.9	21.5	22.6	20.3	21.6	25.5	27.2	20.0	21.5	22.1
入 院	206	184	202	239	201	211	202	237	234	232	180	221	2,549
外 来	374	409	434	534	464	467	427	411	555	610	380	445	5,510
(転科)	13	5	21	14	10	11	11	10	8	11	8	16	138
(転院)	10	12	5	12	9	8	8	9	19	15	13	6	126
DC 当院搬送外	33	12	9	7	12	9	17	17	14	20	19	20	189
不応需	115	118	106	144	111	119	89	113	147	220	140	131	1,553

3. 開催状況・平均参加率

開 催 回 数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 火曜日 1 回）

開 催 時 間：17：00 ～

平均参加率：60%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

プレホスピタルケア委員会

1. 目的

プレホスピタルケアに係る事項について審議し、ドクターカーの円滑な運営を図るとともに病院前救急活動のレベル向上を目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

例年通り毎月ドクターカーの出動状況や有用性等についてデータ分析を行った。

平成 30 年 5 月 1 日よりドクターカー要請基準を改定した。10 月に救命士定例会を開催、医師によるドクターカー事後検証会で「墜落外傷症例」と「気道確保に輪状甲状靱帯切開を要した症例」の講義を行った。5 月の要請基準改定後の症例を検討し、キーワードの見直しを行い、平成 31 年 1 月に要請基準を改定し、さらに有効な症例に絞って出動できるよう努めた。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（毎月 第 2 火曜日 1 回）

開催時間：13：00～14：00

平均参加率：66%

4. 研修会・勉強会の開催

平成 30 年 10 月 29 日（月）、10 月 30 日（火）

救急部関係部署、北摂救急救命士会対象 勉強会開催

災害派遣支援活動委員会

1. 目的

本委員会は、災害派遣、支援に関連する事項並びに災害に関する教育、訓練、啓蒙等広く災害に関する事項について検討し、災害時において院内外を問わず、安全で良質な心のこもった医療に寄与することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・訓練・研修への参加調整、連絡、報告
- ・各種災害活動での活動検証・報告
- ・DMAT カー状況確認方法の変更
- ・物品管理マニュアル改訂・物品点検ルール変更

3. 開催状況

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 1 木曜日）

開催時間：13：00～14：00

平均参加率：60.3%

4. 研修会・勉強会の開催

8 月 31 日 全職員対象 大阪北部地震・豪雨災害対応報告会 開催

10 月 5 日 全職員対象 台風 21 号・北海道胆振東部地震災害派遣支援活動報告会

1. 目的

本委員会は、千里メディカルラリー・千里子どもメディカルラリー・千里学生メディカルラリーにおいて、参加者に安全で良質な救命医療技能コンテストを提供し、医療技術者の技能向上と将来医療従事者を志す人々の育成を図るべく、地域にとらわれない全国的なメディカルラリーを実施運営することを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

- ①メディカルラリーの企画運営
- ②子どもラリーの企画運営
- ③各ラリーの運営にかかる反省
- ④メディカルラリーのアンケート集計・結果報告

3. 今後の課題・展望

各ラリーの方向性を検討し、各々の方向性を打ち出していきたい。

課題の一つはマンパワー。運営におけるコア部分について、院内職員に業務として参加できるよう付議申請を来年度も行いたい。

課題のもう一つは収支。外部の補助金申請や協賛金、吹田市の後援などを得て赤字幅を少なくできるよう検討していきたい。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：11回（定められた開催数：月1回）

開催時間：14：30～16：00

平均参加率：71%

5. 研修会・勉強会の開催

メディカルラリー実施報告会：12月20日（木）17：30～18：30

1. 目的

本委員会は、医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について（医政発第0612004号 平成15年6月12日（一部改正 平成17年2月8日）厚生労働省医政局長通知）に基づき、当院において行う医師の初期臨床研修の方策について検討し、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることのできる初期臨床研修の実施を図ることを目的とする。

2. 平成30年度の活動

≪10月≫

1. 新委員の紹介
2. 研修医スケジュールの変更について
3. 研修スケジュールの変更時の手順について
4. 平成29年度 初期臨床研修医および看護指導者による「研修環境評価表」のフィードバックについて
5. 研修医による指導医評価の実施について
6. 総合初期研修科に対する評価について
7. 履修状況についての報告
8. 卒後臨床研修評価機構 書面調査の結果について
9. 「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する政令の施行について」の一部
10. 大阪府 研修医の募集定員に関わる最終配分調整の結果について
11. 今後の予定及び報告

≪3月≫

1. 平成29年度 初期臨床研修医の修了判定及び再評価について
2. 平成30年度 初期臨床研修医の履修状況中間報告及び再評価について
3. クリニカルスキルテスト結果報告
4. 平成31年度 研修スケジュールについて
5. 総合初期研修科の研修について
6. 地域研修先について
7. 令和2年度 初期臨床研修プログラムの改訂について
8. 臨床研修理念および基本方針の検討
9. 臨床研修病院としてのあり方について
10. 指導者リスト及び評価対象の見直しについて
11. 当直回数について
12. 平成31年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動について（報告）

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：2回（定められた開催数：年2回）
開催時間：15：00～16：00
平均参加率：69.2%（外部委員からは委任状あり）

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

本委員会は、初期臨床研修管理委員会の内部委員会として、当院において行う医師の初期臨床研修の方策について、院内の初期臨床研修管理委員会メンバーに加えて初期臨床研修医各年次からの代表1名により、運用面等における調整機能を果たすことを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

≪6月≫

1. 新委員の紹介
2. 研修医ローテーションの変更について
3. 6月以降の呼吸器内科研修について（報告）
4. MRM 部会のラウンド参加について
5. 卒後臨床研修評価機構 書面調査について
6. 報告及び今後の予定

≪2月≫

1. 平成 31 年度 研修スケジュール（案）について
2. 2020 年度 医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する政令の施行について
3. 地域研修先について
4. 平成 30 年度 研修医アンケート結果について（H29.10 実施）
5. 基本的手技マニュアルについて
6. 令和 2 年度プログラム改訂に向けてのお願い

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：2回（定められた開催数：年2回）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：70.7%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における図書室機能の確立と適切な運営を図ること、及び「済生会千里病院医学雑誌」の発行により、当院の医学及び学術の向上に寄与することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

平成 31 年度図書費予算について
定期購読雑誌打ち切りについて
済生会千里病院雑誌の投稿依頼について

3. 開催状況

開催回数：1 回（定められた開催数：適宜）
開催時間：16:30 ～ 17:00
平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

院内暴力行為等対策委員会は、安全で良質な医療を提供するため、院内暴力行為等に対し、総合的かつ計画的な対策を推進することにより、職員の安全を確保し、快適な職場環境の形成の促進を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

- 4 月：発生事例の検証・分析
- 6 月：発生事例の検証・分析
- 8 月：発生事例の検証・分析
- 9 月：発生事例の検証・分析
研修会の内容検討
- 11 月：発生事例の検証・分析
研修会の内容検討
- 12 月：発生事例の検証・分析
- 2 月：院内暴力行為等対策研修会実施

3. 今後の課題・展望

今年度は、例年通り研修会を実施した。来年度も引き続き、院内暴力発生時の対応や不穏動向把握時の情報共有など、職員相互の意識高揚を図り、職員の安全確保や快適な職場環境の形成促進を推進していきたい。

4. 開催状況・平均参加率

- 開催回数：7回
- 開催時間：17：00～18：00
- 平均参加率：62%

5. 研修会・勉強会の開催

平成 30 年度院内暴力行為等対策研修会：2月28日（木）17：30～18：15

ハラスメント防止対策委員会

1. 目的

「ハラスメントの防止に関する規程」第3条第2項の規定に基づき、ハラスメントの防止及び対策を適切に実施することを目的とする。

2. 平成30年度の活動

- ・ハラスメント事例1件。
- ・職場におけるハラスメントについて、職員アンケートを実施。61.6%の回答を得た。
- ・ハラスメントのない職場を目指して啓発ポスターを作成し、院内インフォメーションをおこなった。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（臨時開催含む）（定められた開催数：隔月第2月曜日 6回）

開催時間：16：30～17：00

平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院に勤務する医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に関し、計画の策定、計画遂行の管理・評価、計画の見直し等を行うことを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

(1) 外来縮小の取組み〈外来診療時間の短縮や地域連携〉

外来診療時間の短縮（完全予約制推進）、保険医療機関との連携（ICT 連携）、選定療養費の継続運用。

(2) 院内保育所の設置・運用

院内保育所の安定運用、夜間保育の実施、病児保育の検討。

(3) 医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業の負担軽減

外来診療への医師事務作業補助者の適正数配置、医師事務作業補助者への研修実施。

(4) 病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減や処遇改善

〈病院勤務医の負担軽減計画〉

医師と医療関係職種と事務職員等の役割分担、勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施、勤務間インターバルの確保、予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮、当直翌日の業務内容に対する配慮、救命救急センター医師の交替勤務制、複数主治医制、短時間勤務医師の雇用促進。

(5) 看護補助者の配置による看護職員の負担軽減〈看護職員の負担軽減計画〉

業務量の調整、他職種との業務分担、看護補助者の配置・定着、多様な勤務形態の導入、妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮、看護職員の勤務時間の把握、夜間における看護業務の負担軽減、その他処遇改善や確保・定着策。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：年3回（7月・11月・3月 第1水曜日）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：28名

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

衛生委員会は、「労働安全衛生法」に基づき当院における労働環境について審議し労働災害の防止に関する総合的計画的な対策を推進することにより職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成の促進を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

【カウンセリングルームの利用】

平成 30 年度の利用状況……148 件実施

【過重労働の防止】

対象者には産業医による面接を実施。時間外労働の多い職員に関しては、所属長へ改善を勧告。業務量調査等を含め時間外労働を減らす対策を依頼した。

【ストレスチェックの実施】

平成 30 年 11 月に実施。受検率は 76.4%。受検者数 734 名。集団分析を実施した。

【病院機能評価 C 項目に対する改善の取り組み】

・ 職場巡視の実施

衛生委員より、産業医、衛生管理者を選出。産業医による 2 ヶ月に 1 回の職場巡視、衛生管理者による 1 週間に 1 回の職場巡視を実施。改善が必要な項目に関しては衛生委員会で検討し、病院側へ必要な対策の構築を要請した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 金曜日 12 回）

開催時間：17：00～18：00（1 月～3 月は 16：30～開始へ変更）

平均参加率：76.7%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

福利厚生委員会

1. 目的

本委員会は、当院における職員の福利厚生に係る事項について審議し、適正な福利厚生の実施を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

福利厚生事業報告
互助会決算報告
福利厚生倶楽部アンケート実施
マネーセミナー開催
互助会規程の改定

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1回（定められた開催数：年1回）
開催時間：16：00～16：30
平均参加率：83%

4. 研修会・勉強会の開催

10月4日、12日 マネーセミナー開催

院内保育園運営委員会

1. 目的

当院に勤務する職員の福利厚生として設置した保育園において、安心・安全な保育環境の整備と乳幼児の健やかな心身育成を促し、充実した保育が継続されるための必要な事項を検討することを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

- ・地震などの災害発生の際に、新規一時利用希望者の受入れを実施した。
- ・病児保育の実施について検討した。
- ・大型連休中の平成 31 年 4 月 30 日、5 月 1 日、5 月 2 日 3 日間の勤務に伴い、院内保育園の一時利用受け入れについて検討した。また小学校 3 年生までの学童保育の実施を検討した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：3回（定められた開催数：4ヵ月に1回）
開催時間：16：00～16：30
平均参加率：85%

4. 研修会・勉強会の開催

開催なし。

2. 医療チーム活動

糖尿病チーム

1. 目的

糖尿病チームは、糖尿病対策を推進し、発症予防と治療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

チーム会では、糖尿病教育用パンフレットの改訂、糖尿病関連インシデントの共有、インスリン指示簿の変更等について検討を行った。また、糖尿病教室や世界糖尿病デーイベントの開催について検討し準備をすすめた。

- ・糖尿病教室：毎月 1 回開催（約 1 時間× 12 回）、平均参加者数 13 名／月

- ・世界糖尿病デーイベント

- ：来院者を対象に血糖測定、血圧測定、健康相談、糖尿病に関するポスターやフードモデルの展示、世界糖尿病デーティッシュ等の配布を行った。

- （血糖測定実施 48 名、血圧測定実施 19 名、ティッシュ配布数約 190 個）

- ・糖尿病患者会（千歩会）の活動支援

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 1 月曜日 12 回）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：66%

4. 研修会・勉強会の開催

6月4日 チーム内 DVD 勉強会「～震災の経験から学ぶ～今日から始める災害対策」

7月2日 チーム内 血糖測定器に関する勉強会

9月3日 チーム内 GLP-1 受容体作動薬（トルリシティ）に関する勉強会

糖尿病透析予防チーム

1. 目的

糖尿病透析予防チームは、糖尿病腎症の予防を推進し、糖尿病腎症の指導（教育）、治療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

○糖尿病透析予防指導件数 26 件／年（月平均 2 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	3	2	3	2	2	3	0	1	4	2	2	2

○チーム会での症例検討数 36 件／年（月平均 3 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	3	2	6	3	4	2	3	4	3	1	3	2

○検討事項

- ・診療報酬改定にともなう変更点について
- ・透析予防指導担当看護師の確保について
- ・介入患者の指導状況確認
- ・糖尿病透析予防指導管理料 腎不全期患者指導加算について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 金曜日 12 回）

開催時間：16：30～17：30

平均参加率：95%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

1. 目的

化学療法チームは、化学療法において患者により質の高い医療を提供するために、スタッフの教育、各部門業務の安全性の向上と均質化・効率化を目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 4 月：前年度の振り返り。CV ポートパンフレットの提示・検討。
- 5 月：CV ポートのメーカーパンフレット病棟配置決定。インシデント検討。症例紹介。メディコンによる CV ポート勉強会開催。
- 6 月：閉鎖式輸液セットの使用検討。インシデント検討。
- 7 月：シュアフューザーポンプのメーカーパンフレット病棟配置決定。インシデント検討。症例紹介。
- 8 月：入院・外来間の情報共有の仕方を検討。症例紹介。
- 9 月：外来化学療法オリエンテーション予約の仕方について検討。化学療法看護手順チェックリストの活用について確認。インシデント検討。
- 10 月：がん総合診療センターのポータルサイトに掲載する内容検討。フィルター付き輸液セットを使用する薬剤表の修正。化学療法看護手順チェックリストの変更。化学療法マニュアルの改定準備。輸液セット間違いの対策検討。
- 11 月：薬剤師による薬剤説明の場所の検討。化学療法パンフレットの見直し。外来・病棟間の情報伝達の方法について検討。
- 12 月：薬剤師による薬剤説明の場所を病棟師長にヒアリング。化学療法パンフレットの見直し。ゴミの分別の見直し。化学療法看護サマリーの検討。
- 1 月：化学療法パンフレットの廃止。化学療法看護サマリーの検討。化学療法使用済み廃棄袋の使用検討。
- 2 月：化学療法マニュアル改定準備。インシデント検討。化学療法使用済み廃棄袋の使用検討。
- 3 月：CV ポート針の変更決定。インシデント検討。廃棄袋の使用決定。化学療法看護サマリーの検討。曝露予防のトイレ指導について検討。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 金曜日 12 回）
開催時間：15：00～16：00
平均参加率：81%

4. 研修会・勉強会の開催

- 5 月 11 日 チーム内：CV ポートについて勉強会開催（メディコン主催）
- 1 月 18 日 病棟ナース対象：胃がんに対するアブラキサン使用勉強会開催（大鵬薬品主催）

1. 目的

褥瘡対策チームは、当院の褥瘡リスクのある患者および、褥瘡を有する患者に対し、総合的な褥瘡対策を行い、医療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 2018 年度（平成 30 年度）の活動

【目標】 褥瘡推定発生率 1 %以下

深い褥瘡 DU の発生をなくす

- ・ 予防を含む褥瘡回診の実施（毎週水曜日 14:30 ～ 16:00）
- ・ 院内全体の褥瘡予防ケア向上のために定期的に掲示できる広報を発行・配信
 - 褥瘡対策ニュース第 1 回 弾性ストッキング・弾性包帯の予防
 - 第 2 回 ポジショニング
 - 第 3 回 MDRPU（医療関連機器圧迫損傷）の予防について
～ネックカラー・挿管チューブ編～
 - 第 4 回 ハーティググローブ：同一体位とずれによる褥瘡
 - 第 5 回 医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の予防について
～ギプス・シーネ固定編～
 - 第 6 回 弾性ストッキングによる褥瘡編
- ・ 毎月の褥瘡集計に、深くなりやすい褥瘡とその対策を掲載
- ・ 褥瘡集計報告を定期的に院内全体へ配信

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 水曜日 12 回）

開催時間：16：00 ～ 17：00

平均参加率：85.49%

4. 研修会・勉強会の開催

4 月新採用職員研修「済生会千里病院の褥瘡対策」

10 月 10 日 全職員対象 院内研修会「目で見て学ぶ褥瘡対策」開催

1. 目的

院内におけるアロマセラピーの推進を図っていくことを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 1) アロマハンドマッサージの技術を高めあいながら、患者や家族に還元することができるようにメンバー以外にもハンドマッサージの技術を伝授する
- 2) 各部所内で意欲的にアロマセラピー活動を実践していく
- 3) アロマハンドマッサージのイベントを主体的に企画・運営していく
- 4) 各部署で1つ以上アロマセラピー活動を積極的に取り組んだ

3. 開催状況・平均参加率

- ・開催回数：12回（定められた開催数：毎月 第2月曜日）
- ・開催時間：15：00～16：00
- ・平均参加率：約78%

4. 研修会・勉強会の開催

- ・4月9日 チームメンバー対象 「アロマセラピーについて」 勉強会開催
- ・5月14日 チームメンバー対象 アロマハンドマッサージ手技の説明と演習
- ・7月9日 外来患者対象 セミナー アロマハンドマッサージ体験会
- ・12月8日 外来患者対象 クリスマスイベント アロマハンドマッサージ体験会

1. 目的

乳癌診療において、患者により質の高い医療を提供すると共に、患者の QOL を高め全人医療を提供していくことを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- 症例検討
- Japan Mammography Sunday 実施
- バストバンド運用方法変更について検討、実施
- 化学療法中のバイタルサイン測定について検討、化学療法マニュアル改訂
- 乳腺外来超音波検査時間の予約票記載について検討、実施
- ミニレクチャー
- 5 月「ホルモン療法について」
- 7 月「HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）について」
- 10 月「イブランスについて」
- 11 月「腫瘍崩壊症候群について」
- 12 月「CV ポートについて」
- 1 月「治療方針の意志決定の方法」

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 金曜日）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：55.8%

4. 研修会・勉強会の開催

- 6 月 第 19 回乳腺疾患勉強会実施 「乳がんの診断・治療+α」
「マンモグラフィって・・・？」
- 7 月 院内勉強会実施 「乳房再建手術後の生活や下着について」
- 10 月 第 20 回乳腺疾患勉強会実施 「手術後の腕のむくみを予防するために」
「乳房再建について」
- 2 月 第 21 回乳腺疾患勉強会実施 「遺伝性乳癌とその治療」
「味覚障害について」

1. 目的

心臓リハビリテーションチーム会はすべての心疾患、血管疾患の再発予防と患者様の生活の質の向上および社会復帰を図ることを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

チーム会：毎月 1 回開催

- ・運動療法・CPX の実施状況について報告。
- ・心臓病教室実施状況についての報告。
- ・症例検討：1 - 2 症例／月。疾患や介入方法が重複しない症例を選定し多職種で検討を行った。

3. 今後の課題・展望

- ・心リハに関連した研究会、講演会、学会に参加し、伝達講習を行ってチーム会メンバーの理解を深める。
- ・うつ病等を併発した患者に対し、多職種・近隣心療内科を含めた心理的なフォロー体制の確立。
- ・急性期からの心リハ介入
- ・認知症を併存する高齢患者に対する心リハ介入

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 木曜日 12 回）

開催時間：17：20 ～ 18：15

平均参加率：85%

5. 研修会・勉強会の開催

- ・症例検討会
- ・学会発表の報告会

1. 目的

がん患者の生活機能と生活の質の改善。がんとその治療による制限を受けた中で、患者に最大限の身体的・社会的・心理的・職業的活動を実現させることを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

毎月第 1 月曜日 15 時からチーム会を開催。前月分の新患患者数や業務を進める中での問題点について共有し、対応策、解決策の議論を行っている。

年に一度がんリハビリテーションチーム主催勉強会を開催。

がんリハビリテーションマニュアル完成。運用開始。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 月曜日 1 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：73.3%

4. 研修会・勉強会の開催

11 月 28 日 がんリハチーム主催勉強会開催（がんリハ概論、症例報告）

1. 目的

NST は、入院患者の栄養状態を評価し、低栄養等の栄養改善が必要な患者に対し適切な栄養管理方法を検討し、提言、実施し、栄養状態を改善していくことを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・毎月第 2・4 水曜日に NST 会議、第 1・3・5 水曜日に NST 回診を実施した。
NST 会議では毎回、介入患者の症例カンファレンスを行い、栄養管理方法について検討を行った。
又、NST 回診では毎回、介入患者の栄養アセスメントを行い、栄養管理方法について検討を行った。
- ・栄養サポートチーム加算、歯科医師連携加算を 354 件／年算定した。
- ・NST 勉強会を 4 回／年開催した。
- ・栄養補助食品オルニユート、濃厚流動食品ペプタメンインテンスを採用した。
- ・栄養サポートチーム加算算定のための研修に医師 1 名、看護師 2 名が参加した。
- ・日本病態栄養学会 NST 実地研修の研修生の受け入れについて検討した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：24 回（定められた開催数：毎月 第 2・4 曜日 24 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：71%

4. 研修会・勉強会の開催

- 5 月 23 日 チーム内 オルニチン・オルニユートの勉強会開催
- 8 月 8 日 全職員対象 第 1 回 NST 勉強会開催
- 10 月 10 日 全職員対象 第 2 回 NST 勉強会開催
- 12 月 12 日 全職員対象 第 3 回 NST 勉強会開催
- 2 月 13 日 全職員対象 第 4 回 NST 勉強会開催
- 2 月 13 日 チーム内 ペプタメンインテンスの勉強会開催

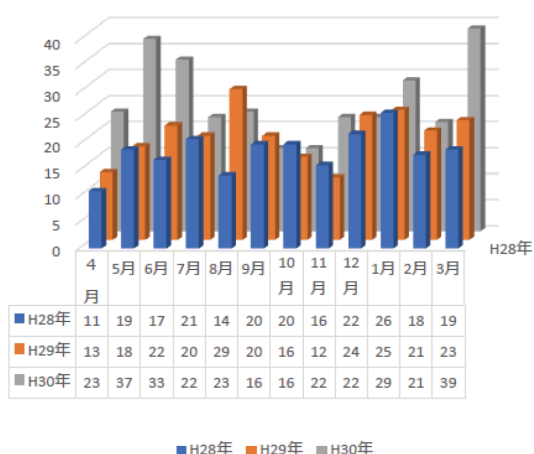
1. 目的

摂食機能療法の充実、早期介入と継続
摂食嚥下訓練マニュアルの改訂を目的とする。

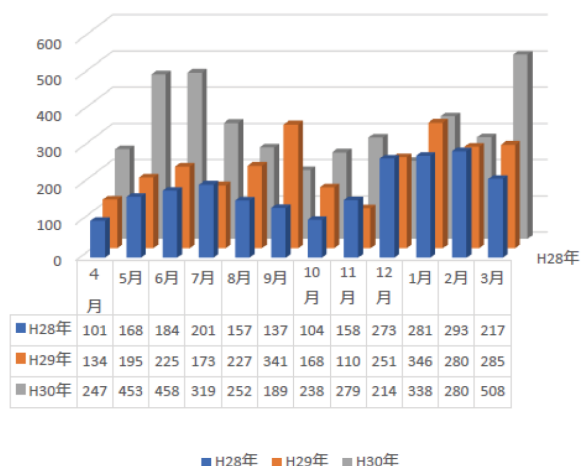
2. 平成 30 年度の活動報告

摂食機能療法の算定は、脳神経外科領域の患者の入院が増え、算定対象者患者の増大となった。早期経口摂取に向けての取り組みとして、早期介入を目指した。は算定人数と算定回数に乖離があり、実施入力忘れなどが見られた。昨年度は実施入力の漏れを最小限にできるように、リンクナース・医事課、認定看護師で記入漏れや入力ミスに対して対応と啓蒙活動を行った。また、摂食嚥下障害マニュアルを改訂した。

算定人数



算定回数



3. 今後の課題・展望

摂食機能療法を早期に開始し、患者さんが経口摂取を早くできるようにリハビリを開始することが重要である。そのためには、摂食機能療法の計画書の立案を早期に行えるようにリンクナース以外の看護師が作成できるように啓蒙が必要である。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：12回（定められた開催数：毎月 第4水曜日1回）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：84%

5. チーム内勉強会の開催

- ・機能的口腔ケアについて
- ・Wallenberg 症候群について

1. 目的

- ICT：病院感染の予防・拡大防止および感染発生の特定、制圧に向けた対策を検討し、実践することにより、感染を制御する。
- AST：感染症を発症した患者が適切な抗菌薬治療をされているかどうかを専門的にチェックし、抗菌薬の適正使用の支援を推進する。

2. 平成 30 年度の活動

- ・毎週月曜日（15：00-16：00）
耐性菌検出患者の感染対策評価、院内の環境についての評価のためのラウンド実施
- ・毎週水曜日（15：00-16：00）
抗菌薬ラウンド（広域抗菌薬使用、抗 MRSA 薬使用、血液培養陽性患者を対象に適正使用を推奨）
- ・サーベイランスより改善策に向けた取り組みを立案、実施
手指衛生、耐性菌、SSI、UTI、BSI、VAP、針刺し・切創 / 血液・体液曝露
- ・年 2 回、AST 主催の勉強会を開催
- ・手指衛生キャンペーンの実施（1/15～1/26）
- ・吹田保健所と当院 ICT で新型インフルエンザ等合同訓練を開催した（1/16）

平成 30 年度から多職種のメンバーを追加し、院内全体で感染対策が取り組めるようにした。また、新たに抗菌薬適正チームを立ち上げ、抗菌薬に関する活動も活発化させた。

①感染症報告、②手指衛生サーベイランス、③針刺し・切創 / 血液・体液曝露、④ ICT リンクナース会議について定例報告を行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：10 回（定められた開催数：毎月 第 3 水曜日 12 回）
8 月流会、1 月流会（新型インフルエンザ等合同訓練開催のため）
開催時間：16：00～17：00
平均参加率：67.6%

4. 研修会・勉強会の開催

- 第 1 回 AST 勉強会（全職員対象）受講率 99.8%
テーマ：AST の紹介（感染防止対策研修会と合同開催）
講師：感染管理室 / 薬剤部 垣内涼平
- 第 2 回 AST 勉強会（全職員対象）受講者 15 名
テーマ：AST について考える
講師：大阪大学医学部附属病院 萩谷英大先生

1. 目的

本チームは、院内におけるがん終末期患者と家族に対して、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアル問題に関して対処することで、QOLの高い生活支援を行うことを目的とし設置する。(WHO 緩和ケアの基本的な考え方一部引用)

また、難治性疼痛を有する患者の治療に関与することも同時に目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

【定例議題】スクリーニングシートの検討・評価。がんサロン報告。症例検討。

4 月：目標設定。今年度の予定。

5 月：定例議題。緩和ケアポスター作成。ニュースレター発行予定月の検討。緩和ケア対象者のピックアップについて検討。

6 月：定例議題。ニュースレター作成。6 月勉強会告知。回診について評価。

7 月：定例議題。勉強会の振り返り。マニュアル改訂準備。

8 月：定例議題。マニュアル改訂準備。ポータルサイトの掲載内容検討。ニュースレター配信。9 月勉強会告知。症例検討の内容を再検討。

9 月：定例議題。12 月勉強会準備。次回ニュースレターの検討。

10 月：定例議題。ポータルサイト掲載内容検討。ACP テンプレート作成。

11 月：定例議題。ポータルサイト掲載内容検討。

12 月：定例議題。12 月勉強会告知。ポータルサイト掲載内容検討。ACP テンプレート準備。回診対象者選定の検討。

1 月：定例議題。がん相談外来のリーフレット病棟配置。

2 月：定例議題。緩和医療チーム研修会報告。

3 月：定例議題。鎮静剤使用の判断について検討。ニュースレター配信。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 水曜日 12 回）

開催時間：14：30～16：00

平均参加率：75%

4. 研修会・勉強会の開催

6 月 25 日 全職員対象：骨転移について

9 月 6 日 全職員対象：緩和ケアマニュアルについて

10 月 11 日 リンクナース：ナルサスの使い方

12 月 5 日 チーム内：タペンタ錠勉強会

12 月 7 日 全職員対象：急性期における緩和ケア

1. 目的

本チームは、人工呼吸器を装着している患者への管理方法の標準化と多職種間で連携を図り質の高い呼吸器ケアを提供することを目的として活動する。

2. 平成 30 年度活動報告（研修会・勉強会の開催含む）

- 今年度全職員対象のチーム会主催の勉強会
 - 第 1 回 NPPV マスクフィッティング
 - 第 2 回 基礎から学ぶ酸素療法
 - 第 3 回 基礎から学ぶ NPPV 管理
 - 第 4 回 NPPV マスクフィッティング
- チーム会内での勉強会の実施
 - 5 月 古川副部長 「COPD」
 - 6 月 臨床工学科 「マスクフィッティング」
 - 7 月 リハビリテーション部 「呼吸リハビリテーションのコンディショニング」
 - 8 月 台風のため中止
 - 9 月 救急病棟 「症例検討」
 - 10 月 4 階病棟 「SpO₂ モニターについて」
 - 11 月 6 階病棟 「マスクフィッティングの大切さ」
 - 12 月 5 病棟 「意志決定支援について」
 - 1 月 7 階病棟 「慢性呼吸器疾患患者への関わり方」
 - 2 月 ICU 「症例検討」
- 呼吸器リハビリテーションの患者教育用リーフレット作成
退院後の患者にリハビリを継続的に行ってもらうため写真付きリーフレットを作成

3. 今後の課題・展望

- チーム会にてラウンド症例を情報共有していく。チーム会メンバーが病棟に配信することにより現場で活用してもらう。
- 人工呼吸器のマニュアル作成や勉強会を実施することにより人工呼吸器を頻繁に使わない病棟看護師に情報提供する。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：月 1 回（第 4 木曜日）開催時間：17：30 ～ 18：30
平均参加率：90%

1. 目的

当院における ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースの円滑な運営や急変時対応の検証等を通し、心肺蘇生術の質の向上を図ること目的とする。

2. 平成 30 年度活動

- ①チーム会
- ②千里二次救命処置コース、指導者養成ワークショップの運営
- ③コースに使用する資機材チェックリストの整理、倉庫内の資機材の配置、故障品の修理や消耗品の発注に関する依頼
- ④ドクターハリーの検証症例について、チーム会での議論の要約、各部署に啓発すべき内容についての配信
- ⑤各部署の ICLS 受講状況や受講対象者数の把握、急変対応・心肺蘇生に関する教育方法 (DVD、レクチャー、マニュアル作成) の検討
- ⑥院内インストへの事前勉強会、院内認定インストの把握、新規院内認定インストの育成
- ⑦院外 BLS 講習会動員

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回 (定められた開催数：毎月第 2 木曜日 12 回)

開催時間：15:00～16:00

平均参加率：84%

4. 研修会・勉強会の開催

5/19 第 154 回千里二次救命処置コース、他 7 回

*各コースの前にインストラクター事前勉強会を開催

8/19 第 5 回千里二次救命処置指導者養成ワークショップ、他 1 回

4/12 ICLS チーム会 急変時対応事例検討、他 11 回

1. 目的

ERAS プロトコルによる周術期管理の推進及びプロトコルの改訂を行うことを目的とする。

2. 平成 30 年度活動報告

7 月：平成 30 年度第 1 回 ERAS 勉強会の開催

- ・ ERAS チームの取り組みについて、それぞれの職種の役割を具体的に説明
- ・ 当院における大腸手術の現状。大腸手術における ERAS の割合などを説明

12 月：平成 30 年度第 2 回 ERAS 勉強会の開催

- ・ エレントールの有用性について
- ・ ERAS 適応基準について

3. 今後の課題・展望

ERAS チーム活動は、その構成要素のひとつの「術後早期経口摂取」の概念から、対象診療科が「外科」にほぼ限定される状況である。しかしながら、入院日数延長防止、患者 ADL 低下予防、患者満足度の維持の観点から、チーム活動の広報を介して院内全体に啓蒙し続けることは意味があると考えられる。従来の活動様式を維持することに加え、次年度も、「①各症例の問題点をチーム会にてフィードバック」「② ERAS 関連の学会発表・論文発表継続」を実行する。

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：第 1 月曜日）

開催時間：14：00～15：00

平均参加率：90%

5. 研修会・勉強会の開催

令和元年 7 月 1 日、12 月 2 日 全職員対象 ERAS 勉強会開催予定

1. 目的

本チームは災害拠点病院としての災害対応能力向上及び災害時における地域との医療連携強化の為、災害教育、訓練、啓蒙を専門的に計画、実施することを目的とする。

2. 平成 30 年度の活動

- ・院内机上研修企画運営及び検証
- ・豊能医療圏災害時地域医療連携強化プロジェクト研修・訓練の企画運営及び訓練検証
- ・31 年度チーム会活動計画
- ・チーム会のあり方

3. 開催状況

開催回数：11 回（定められた開催数：第 1 月 17：00 ～）

開催時間：17：00 ～ 18：00

平均参加率：69.2%

4. 研修会・勉強会の開催

- | | | | |
|-----------|--------|------------------------------|----|
| 4 月 20 日 | 選出職員対象 | 大規模災害時院内机上研修 | 開催 |
| 7 月 7 日 | 選出職員対象 | 豊能医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修 | 開催 |
| 9 月 1 日 | 選出職員対象 | 大規模災害時院内机上研修 | 開催 |
| 12 月 1 日 | 選出職員対象 | 豊能医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト訓練説明会 | 開催 |
| 12 月 15 日 | 選出職員対象 | 豊能医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト訓練 | 開催 |